# 岡山県学校図書館研究集録

第　５５　号

平成３０年
――２０１８――

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

# 発刊によせて

岡山県学校図書館協議会
会　長　土　家　槇　夫

本年度も会員の皆様の積極的な研究実践と御協力に支えられ、数々の事業を展開して参りました。各学校におかれましては図書館の魅力増進や生徒の読書指導の推進等に御尽力いただくとともに、本協議会の取組への御支援・御協力を賜り心より感謝申し上げます。このたびその活動記録として、「岡山県学校図書館研究集録第５５号」を作成いたしました。平成２６年度までは、印刷製本してまとめていましたが、経費削減のため平成２７年度からはホームページに掲載して公開させていただいています。

さて、平成３０年４月に第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が示されました。そこでは、第三次基本計画期間での子供たちの読書に関する実証的なデータが掲載されており、児童用図書貸出冊数の増加や、一斉読書活動を行う学校が増えたことなど、一定の評価がなされる一方、高校生の不読率は依然として高いことや、小中高いずれの世代も第三次基本計画で目標とした進度の改善は図られていないことが指摘されています。①中学校までの読書習慣の形成が不十分な者がいる、②高校生になり読書への関心が低下している、③スマートフォンの普及等により、読書環境への影響が大きくなっている、などの分析がなされています。①については、発達段階に応じた取り組みにより読書習慣を形成すること、②については、友人同士で本を薦め合うなど読書への関心を高める取り組みを充実させることなどが提案されています。③については、スマートフォン利用と読書の関係が明らかでなく、それを明確にすることによって、有効な活用のための多様なあり方を検討していくという方向性が示されました。

また、２０１７年から２０１８年にかけて公示された各校種の学習指導要領総則にも、言語活動と読書活動の充実、児童生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実することが記されており、その場所として、学校図書館は最も適した環境ではないかと思います。従来の「読書センター」としての役割に加えて、アクティブ・ラーニングや探究学習などに対応した「学習センター」としての役割、子どもたちの情報活用能力を育成する「情報センター」としての役割が、今まで以上に求められることになります。児童生徒が学びの手応えを感じる空間として、学校図書館がより意図的・計画的に活用されていくことを期待します。

最後になりましたが、この研究集録を作成するにあたり、多大な御尽力・御協力をいただきました関係者に厚く感謝申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

# 目　　次

平成３０年度岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第６４回青少年読書感想文岡山県コンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

第３０回読書感想画岡山県コンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

絵本研究部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

優良図書研究部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

指定図書選定委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

その他

1　平成３０年度　岡山県学校図書館協議会　事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61

2　平成３０年度　岡山県学校図書館協議会　支部協議会事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・62

3　岡山県学校図書館協議会組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

4　岡山県学校図書館協議会規約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70

5　岡山県学校図書館協議会司書部会会則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

6　岡山県学校図書館協議会６８年の歩み（略年表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

# 第 42 回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会)　要項

主催　　岡山県学校図書館協議会
　　岡山県学校図書館協議会司書部会
共催　　岡山市学校図書館協議会
　　備前地区高等学校図書館協議会
後援　　岡山県教育委員会
　　岡山市教育委員会

１　日　時　　平成 30 年 7 月２４日(火)　１０：００～１５：５５
　　(受付９：３０～)

２　会　場　　岡山市灘崎文化センター
　　（岡山市南区片岡 186 番地）
　　岡山市ウェルポートなださき
　　（岡山市南区片岡 159 - 1）
　　岡山市立灘崎公民館
　　（岡山市南区片岡 159 - 1）

３　主　題　　「未来の扉をひらく～主体的な学びを支える学校図書館～」

４　日　程

9:30　10:00　10:15　10:25　12:00　13:00　13:50　14:05　15:55

| 受付 | 開会行事 | 休憩 | 全体会 | 交流会 昼食・移動 | 総会 | 移動・休憩 | 分科会 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

５　全体会（午前）
「主体的な学びを支える学校図書館」
　　発表者　　後藤敏恵（岡山市立吉備小学校）
　　伴　涼子（岡山市立幡多小学校）

６　交流会
　自由参加で行う。地域・校種を越え交流することを目的とする。

7　総会(午後)

(１)議長選出

(２)2017（H29）年度活動報告(地区活動報告・理事会活動報告)

(３)2017（H29）年度決算報告

(４)2017（H29）年度監査報告

(５)質疑応答・承認

(６)役員改選

(７)2018（H30）年度活動方針（案）

(８)2018（H30）年度予算（案）

(９)質疑応答・承認

(10)情勢報告全体会(午前)

8　分科会(午後)

第１分科会

「蔵書を考える・授業との連携」

発表者　松本麻里(岡山市立千種小学校)
古市絵美子（岡山市立岡山中央中学校）
風早絵里子（岡山市立足守小学校）
川上千尋（岡山市立福島小学校）

第２分科会

「授業との連携～探究型学習と主体的・対話的で深い学びをめざして～」

発表者　山根理依（岡山市立岡山後楽館中学校）
岸本美果（岡山市立甲浦小学校）

第３分科会

「メディア・情報リテラシーと学校図書館」

発表者　小出裕子（岡山市立平津小学校）
高橋彰子（岡山市立御津小学校）
山中ユミ（岡山市立南輝小学校）

第４分科会

「主体的な学びはまず読書から～読書格言・名言を使った取り組み～」

発表者　藤原純子（岡山学芸館高等学校）
細田優子（岡山県立岡山東商業高等学校）

【全体会「主体的な学びを支える学校図書館」】

| | | |
|---|---|---|
| 発表者 | 後藤　敏恵 | （岡山市立吉備小学校司書） |
| | 伴　　涼子 | （岡山市立幡多小学校司書） |
| 助言者 | 長瀬　尚樹 | （岡山市立灘崎小学校校長） |
| 司会者 | 今中　由子 | （岡山市立福浜小学校司書） |
| 記録者 | 荒木　智子 | （岡山市立野谷小学校司書） |
| | 濵本　彩 | （岡山市立三門小学校司書） |

## Ⅰ　事例発表 ①

# 主体的な学びを支える学校図書館

岡山市立吉備小学校　　後藤　敏恵
岡山市立幡多小学校　　伴　　涼子

### １　主体的な学びとは

### （１）主体的な学びとは

なぜ今、主体的な学びが求められるのか。

「主体的な学び」と言われる内容には、「子どもたちが社会生活や日常の生活の中から疑問をもって考えていく」という考え方が戦後からあった。その考えが広がり継続・発展したとはいいがたく、現在、子どもたちは学びの意味を失いかけていると危惧されている。

学びの深さとは、「知る」「わかる」「使える」の順で深くなっていくはずだが、「知る」というところで留まっていて「わかる」「使える」という段階では課題が多いとの指摘もある。

現在学校教育は転換期を迎えている。これまでの学習は記憶の詰め込みや他者との評価・競争の中で評価されるという傾向が強かった。こういった学習では自分にどんな個性があってどう伸ばしていくのか、それを伸ばすためには何を学んだらいいのか、学んだことを活かしてどういった職業につきたいのか、だから今どんな勉強がしたいのかという学びの繋がりが薄い。これまでの個人的な学びから、自分にも問うけれども、他者にも教えたり教えられたりする「対話から生まれる共同の学びへと変えていく必要があるのではないか」と、言われている。主体的な学びは既に文部科学省が提示する学習指導要領の中にも出てくる。資料にあげた佐藤隆（都留文科大学教授）氏の他にも多くの教育者が文献で述べているが、ここでは主体的な学びが「学ぶことに興味や関心をもちつつ考える」「学習内容がわかる（イメージできる）」「実感をもちながら理解し、整理する」「他のことに学んだことが応用できる」「新たに疑問が生まれ、学びを続け、深める」といった特徴をもつものと捉えた。

### （２）　学校図書館の活用で見られた姿

学校図書館の活用で「子どもたちが主体的な学びをしたのではないか」と感じた場面について、紹介する。　以前の小学校三年生の国語の単元に「ほうこく書を書こう　本で調べて、ほうこくしよう」があった。その学習で子どもたちは、疑問に思う事柄をいろいろな情報や資料を用いて調べてまとめた。子どもたちには調べる（答えを探す）力と、説明文を書く（構成を考えながら書く）力が問われていた。担任と学校司書は学習のねらいや互いの取り組みを相談し、学校司書は、百科事典などの参考資料の使い方のワークショップや、興味・関心を喚起するような科学読み物のブックトーク、学級・学年へ資料提供を行うなどをした。ある子どもは「魚はなぜ水の中で息ができるのか」というテーマで調べていた。魚は「鰓（えら）呼吸をする」という言葉を探し出

すことはできたが、鰓呼吸をするとなぜ水の中で息ができるのかその仕組みが理解できなかったようで、さらに調べていた。そして図鑑や映像で調べ、順序立てて組み立て、まとめていった。学習の過程の中で、子どもは「答えは一冊の本ではわからず、いろいろな情報を読み合わせる中でだんだんとわかっていくもの。自分の中で整理して再構成することでわかりやすく説明できる」ということに気付いたようだった。

また、三年生の理科の「チョウを育てよう」の学習の際に、教室でチョウの幼虫を飼育していた。やがてサナギへと成長する筈が、チョウの幼虫の体の中からコマユバチの幼虫が出てきて、教科書に書かれていることとは違うことが起こった。教師たちがとまどっていた時に、学校司書がそれと同じことが書かれている『にわのキアゲハ』『こまゆばち』の本を提供した。翌日、教室で担任が『にわのキアゲハ』(チョウは約４０の卵を産むが、幼虫は鳥などに食べられ、虫などに寄生されて殺され、チョウになることができるのは１ぴきだけという科学読み物)を読み聞かせすると子どもたちは「ぼくたちはすごい学習をしている。」という感動や課題意識を持った。そして日常的にチョウを見たときの見方が変わるなど、次の学びを生み出すことになった。

## ２　学校図書館とは…

学校図書館は子どもたちの主体的な学びを支えるための、どういった役割があるのか。日本の学校図書館法にも学校図書館の役割が定義されている。世界基準としての、「ユネスコ学校図書館宣言」の中には、学校図書館の使命として「学校図書館は情報がどのような形態あるいは媒体であろうと、学校構成員全員が情報を批判的にとらえ、効果的に利用できるように、学習のためのサービス、図書、情報源を提供する」とある。

簡潔に書いてあるが、使命を果たすには多くの働きが必要となる。具体例を考えてみたい。まず、子どもたちや教職員などの利用者にとって、「必ず相談にのってくれる、求める情報がある」という信頼感と親しみをもった図書館活動があること。二点目に、いつも必要な、想定した以上の多様な資料や情報が迅速に入手できること。三点目に子どもたちが情報を読み、理解できるための手立てを提供していること。四点目に子どもたちが情報について考えて、判断することができる授業や学習支援を普段からしていること。五点目に、情報を活用して表現する方法を習得できるよう支援していること。六点目に、表現した内容の効果を考えながら表現する方法を支援していること、などである。このような働きがあれば、学校図書館の使命を果たす前提ができるのではないか。こうした働きがあれば、子どもたちが自ら学ぶときに学校図書館が支援できるのではないかと、考えられる。

## ３　主体的な学びと学校図書館

学校司書が常駐して、機能する学校図書館の働きについて、岡山市の学校司書会のグループで研修し、整理してきた。子どもたちの主体的な学びを支えるには、その働きが欠かせないと考えられるので以下に紹介する。

① 学校の教育目標・計画をいかし、子どもたちの興味・関心をうけとめた上での多様な蔵書形成と組織化（蔵書と組織化が知的好奇心を触発）

②資料相談、ブックトーク、行事等あらゆる資料紹介により潜在的な要求を掘り起こし、それに応えていく徹底した資料提供

③多様なニーズを予測し、図書館側からの資料作りや蔵書から選択し再構成した情報発信

④資料収集・提供の自由や検閲からの自由を守りつつ安心して調べることができるよう利用者の秘密を守るプライバシーの尊重

⑤学び方の方法を学ぶための支援（教師と学校司書との協働した授業、利用教育など）

このような学校図書館の働きがあれば、子どもたちは教室で学んだことを図書館で探究でき、また図書館で知ったことを教室でしっかり深めることも可能となる。

①の蔵書形成の例として、小学校三年生の国語の物語文の学習「ちいちゃんのかげおくり」の事例をあげる。この教材は毎年担任から利用の相談があるものなので、学校司書は常に資料を補強し、毎年蔵書を整えている。そして子どもたちにとってイメージしにくい言葉や戦時中の暮らしの資料を、学級の実態に合わせて提供する。様々な活用を想定して視

覚的に訴える写真資料や説明がわかりやすい資料をはじめ、岡山空襲について書かれたもの、体験談、パンフレット資料、年表、日本史資料、同著者の他の絵本、著者の恩師・坪田譲治の短編、専門機関の実物、博物資料、校内の映像資料など、収集する。

③の具体例としては、前任校の高島小学校の三年生と五年生が毎年学区の動植物について調べる学習をあげたい。高島小学校では「アユモドキ」を校内で人口繁殖しており、子どもたちにとっても身近である。ただ、「アユモドキ」は天然記念物なので資料が少なく、子どもたちが調べることが難しかった。そこで地域の専門家から話を聞く他、子ども向けの冊子を編集･発行する活動にも学校司書は参加をし、子ども･教職員に提供した。また学校図書館内では、子どもたちが自然に「アユモドキ」から高島の自然や生態系等調べたいことを広げていけるように、意図的に資料の展示や配置を行った。これらもまた子どもたちがどこまでも探求していくことを支援できる学校図書館の働きだと考えている。

## ４　幡多小学校の事例から

### （１）はじめに

幡多小学校は児童数９３７名、学級数は特別支援学級を含めて３５学級の大規模小学校で、昨年度の１人平均貸出冊数は１０５冊だった。図書館では、各学年の到達目標を定め、どんな力を段階的につけていくかを明確にし、授業の進度や学習の流れに沿って情報活用の力を育てられるよう、図書館利用教育年間計画を作成し、学校全体で共有して実施している。

### （２）主体的な学びを支える学校図書館

主体的な学びに繋がる支援とは「学ぶこと、調べることが楽しいと実感する」、「学び方がわかり、自分でどんどん調べを進めていくことができる」の２点と考え、進めている。

４年生・５年生では、教科の学習と関連づけて、新聞やパンフレットなど多様な資料を活用することや、身近なところから課題を見つけて問いを立てること、目的を考えて課題解決のための情報を収集することなどに取り組んできた。担任と学校司書が協働して学年ごとに継続してきた。

#### ★６年生　総合「世界の問題について知ろう（１学期）・実践しよう（２学期）」

**授業のめあて**

最初に授業のめあてが「世界の問題について調べることで、自分にできる実践活動に取り組もうとすることができる」、「調べ学習や実践活動などを通して、一人一人ができることを続けて実行していくことの大切さに気づくことができる」、「世界の問題を知ることで、今自分たちにできることは何かを考え実行し、世界の平和のためになることを表現方法を工夫して相手に伝えることができる」の３点であることを、担任と確認をして、今後の打合せをした。

**教室の授業と図書館との連携**

調べる学習は教室だけでなく図書館でも行った。

まず、調べるテーマにイメージがわいて問いが立てられるような資料紹介を学校司書が図書館で行い、そのあと子どもたちが館内で調べられそうな本を探した。それらの本と、他館から借りてきた本、ニュース雑誌や新聞の切り抜きなど、１８０冊ほどをブックトラックに入れて６年生の教室前の廊下に置いた。

教室での授業の際には、学校司書も調べ方についてアドバイスをした。「事実について調べるとともに、そこに至った背景や原因にも目を向ける」「書名だけで本を探すのではなく、目次や内容を読んで確認する」など細かい助言をしていった。

図書の時間には、調べているテーマのイメージを広げるための読みきかせをしたり、要望のあった資料を別の図書館から借りて提供したりした。

子どもたちは、１学期の終わりには、各自で調べたことを元に、同じグループの人と比較や分類をしながら意見交換をしてまとめ、ポスターセッションをして情報を交流し、自分たちができることを考えた。２学期にはカンボジアで活動をしている人などに来てもらって話を聞き、実際に自分たちでできる事を決めた。それを校内にも呼びかけをし、全校でボランティア活動に取り組んだ。

６年生が調べた内容を深く理解し、視野を広げることができるように、学校図書館内に関連の物語や

ノンフィクションなどを展示した。図書の時間にはそれをブックリストにして配布するなど、紹介をしていった。

完成した作品は図書館に展示し、担任と学校司書で振り返りをして、来年の調べ学習に備えるようにしている。

### この学習での成果と課題

テーマを決める前や途中で、調べ学習の様子に合わせながら学校司書が本の紹介や読みきかせをしたことで、子どもたちは調べることのイメージを膨らませやすかったのではないか。

調べることで、外国の人への支援のあり方を身の周りにも置き換えて、いじめや子どもの貧困など自分の周りの事に思いが及ぶ子どももいた。

自分の周りと社会とをつないで考えるきっかけになっていたことが、国語の「未来がよりよくあるために」の意見文の学習にいきていた子どももいた。

ただ、これまで自分たちの今の生活と世界の問題があまりにもかけ離れているために、世界の問題について考えることが難しく、なかなか想像し難い子どもがいたので、今年は担任と相談をして、子どもとやりとりをする中で調べが進むように声掛けをしたが、まだ難しかった子どもも何人かいた。

大規模小学校のために、図書館で子どもたちが自分で調べ学習用の資料を探したり、学校司書が教室へ行って調べ学習に入ったりする時間を確保することがとても難しい。しかし昨年度から、調べ学習をしている期間は、その支援のために図書館も学校司書も優先的に使えるという期間を作り、他の学年の担任の先生方に図書の時間の読み聞かせや貸出業務などをお願いして、学校司書が教室に行くことが少しずつ出来るようになっている。

### （３）主体的な学びを支える日常活動

主体的な学びを学校図書館が支えるのは、授業との連携だけではなく、普段の学校図書館の日常活動も大切である。そのため、図書の時間に教科の内容と関連した本の紹介やブックトークなどを行っている。授業の発展として視野を広げ、もっと調べてみたい・読んでみたいという気持ちを育てている。

図書館内では、季節や学習内容に合わせて、本やポスターや実物資料を展示している。そこから子どもたちや教職員も展示物を持ち寄り、交流の輪が広がることもある。また、図書館前には新聞コーナーを設けている。学期ごとの図書館行事や夏休みの開館行事には、科学実験教室や創作教室などを行う。

こうした日常的な活動と、授業支援が両輪となって、授業や自由な学びが広がり深まるように工夫している。

### （４）成果と課題

子どもが課題に興味や関心を持ったりイメージを描いたりできるよう、図書館サービスや授業支援をしたことが、課題を自分のこととして考える主体的な学びにつながったのではないだろうか。複数の資料にあたって調べることは、学年が上がるにつれてできてきていたと思う。また、友達が調べたものと比較して自分の考えを再構築することも６年生になるとできる子どももいる。これは、中学生以降になって、複数の異なった視点の資料から、整理、分析をして判断してまとめることにつながると思っている。

しかし、学んだことを身近な課題に置き換えることは出来ても、学んだことを次の学年に繋げられないこともある。５年生の総合で「環境」について調べてまとめたが、それが６年生の「世界の現状」に繋がっていきにくかった。学んだことを実感し次の学習にいかせるように先生と相談しながら、学校司書もどんな支援ができるのか考えていく必要がある。

図書館利用教育年間計画については、到達目標がどのくらい達成できたかを年度末の学校図書館運営委員会で検証できるように協議しなくてはならない。

担任との打ち合わせや振り返りの時間が十分に取れていない。調べ学習が複数の学年で重なると、中途半端（時間と資料の確保、学校司書のガイダンスなどの調整が難しくなるため）になってしまうこともある。大規模校はとにかく時間のやりくりが難しいことも含めて、図書の時間の抜本的な見直しなどを考えていかなくてはならない。

## ５　まとめ

まとめとして、様々な取り組みを経て、重要だと感じたことを三つあげたい。

学校司書がいて、「３　主体的な学びと学校図書館」の「機能する学校図書館の５つの働き」として整理した内容を具体的に行うことで、主体的な学びを育んでいくことができる。学校図書館の中心的な

働きは資料提供だが、資料提供とともに資料要求を引き出す働きの両方が必要である。

二つ目に、学校司書と教師の働きが協働することで、新たな学びを創造できるのではないかということだ。ただし、学校図書館に学校司書が常駐し、授業連携も活発にされているという前提があってこその協働である。

三つ目に、メディアリテラシー、情報リテラシーにおいても、基本的な情報を活用する力（参考図書の使い方やICTの活用といった基礎技能など）だけでなく、主体的な学びを取り入れて情報を読み解く力を育成していくことが重要ということである。

これら三つを踏まえつつ、子どもたちの主体的な学びのため、さらに支援を進めていきたい。

## Ⅱ質疑応答

Q:学び方を学ぶことやテーマと設定するのはとても難しいことを実感している。自校での調べ学習においてもテーマをすんなり決められる子もいれば、決められない子もいる。自分で調べたいことを決めるまでのテーマの設定について、助言の事例などがあれば、教えてほしい。

A:子どもが視野を広げ、調べてみたいと興味が広がるように資料紹介をしている。子どもがテーマとしてあげるのではないかと予想できるものも、事前に幅広く紹介していくようにしている。去年は教室でビデオなどを見ていて、その内容につられることも多かったので、今年はその前に資料紹介をするようにした。

Q:司書教諭との連携はどのようにされているのか。難しい現状であるならばその理由も教えてほしい。

A:他の教諭とするような授業連携や公開授業を司書教諭とも行う。学校司書が学校図書館を機能させ（その際に司書教諭と協力する）、司書教諭は機能する学校図書館を率先して授業で活用しそれを学年・学級に広めていく、というそれぞれの役割と協力をしている。

Q:大学では答えがない学びに対して、問いを立て続けることが求められる。小学校の様子はどうか。

A: 子どもたちの問いに対して、比較的応えられる情報もあるので提供していくが、答えがなかなかわからない問いをすることが普通である。答えを求めて調べ続けていくのはよくあることで、学年が上がることでわかることもある。一つ一つの事例に対して、その子と話し合いながら対応をしている。

## Ⅲ　講評

主体的な学びについて、新学習指導要領に合わせ、何を学ぶか、どのように学ぶか、そして最終的に何ができるようになったのか、ということを踏まえてお話ししたい。

どのように学ぶかを考えてみると、「主体的、対話的で深い学び」はかつて「アクティブラーニング」と言っていたが、その目指しているものは、一つの授業を通してついた力が他にも役立つ、或いは自力的に課題解決をしていける、つまり汎用能力を育成していくことであろう。

子どもたちの調べる課題に対して、学校司書が資料や抜き出した情報を提供することがある。その際に、子ども自身のできる姿がどこまでなのか、常に発達段階に応じて、個々の子どものできている姿を見取って対応することが主体的な学びを継続していくことになる。

主体的な学びを支える学校図書館には、意図をもった学校図書館の運営が絶対に必要になってくる。意図というのは、目的とは明らかに違い、自分の心の中で考えていることを相手にさせることなので、年齢に応じたことが出来るように（意図的に働きかけて）させていくことは学校図書館の使命であろう。

では、後藤先生の発表から見ていこうと思う。まず「個人的な学びから対話や共同の学びへ」というときに、個の学びが重要であり、対話的であったり、共同的であったりする学びを通してさらに深まっていく。そうしたスパイラルをつくっていくことが、主体的な学びの正体であろう。つまり、個の学びの過程で対話すること、共同することで、新しい「なぜ？」が生まれてくるのである。

先程紹介もあったが、友達の発言から新たな発見や、課題の解決の見通しがもてたり、或いは友達の

意見と比べて自分の意見が変わっていったり、友達の発表を聞いて自分も相手の気持ちを変えるような発表が出来ないかと思ったり、ということが主体的な学びの新しいアプローチではないだろうか。だから、個の学びが共同の学びを通して、さらに深まっていく、スパイラルに発展していくものでなければならない。

またそこでは、実感をもちながら物事を理解していくことが重要である。今年の全国学力テストで「０．４メートルの針金が６０グラムあります。これが１メートルのときの重さは何グラムでしょうか。」という問題があった。子どもは平気で“６０×０．４”とする。小数を掛けると、逆に軽くなってしまう。実際には０．４メートルものが１メートルに増えるのだから重くならないといけないという、実感を伴った思考が重要ということだ。この１コマを取ってみても、子どもと実感を繋ぐことはとても難しい作業になっている。

その点でも、後藤先生のコマユバチの取組は参考になる。ここで子どもは、正にクリティカルリーディングをしている。教科書にもイレギュラーがあるのだということを子どもは実体験の中で体得している。またこの後、コマユバチの幼虫も鳥に食べられることを子どもたちは知っていく。一方、コマユバチは稲などに付いている虫を食べてくれるので、米を主食とする我々日本人にとっては益虫である。だから、モンシロチョウから見れば害虫だが、人間から見たら益虫だという、善悪だけでは判断できない命があると知ることも、クリティカルリーディングになっているのではないだろうか。つまりそれが、見方、考え方が広がった瞬間であり、そこを育てるのも学校図書館の使命だとも思う。だからそこを見逃さずに本を提供した先生の実践からは、正に意図を持った学校図書館の経営が出来ていると感じた。

次に批判的にとらえるということの意味だが、「批判」とはご存じの通りけなすことや、否定することだけではない。批判的に捉えるということは、根拠とか価値判断を基に決めることであり、どの根拠に寄るかによって結論が変わることを知るのが、クリティカルリーディングとかクリティカルシンキングの正体ということをぜひ知っていてほしい。

そして、主体的な学びを支える学校図書館の５つの働きだが、「蔵書形成と組織化」について考えたい。１番は蔵書構成の「見える化」である。子どもは見えないと見通しがもてない。探らないとわからない形では、１時間の授業時間では解決できないので、いかに探しやすく組織化し、蔵書を見える化するかは重要である。図書館ネットワークを駆使した資料提供と共に、見通しをもって活動するためには絶対に必要であり、これも主体性を育てていくことになる。

それから「資料の再構成と発信」は、この「主体的な学び」の中で大切な働きである。状況に応じて配架を変えたり、特設コーナーを作ったりというのは、蔵書の見える化をすることなので、これは子どもの主体性に関わってくる。

ここで一番大切なのは、子どもの問いに対してさまざまな資料を再構成して発信できる知識と技術である。子どもに「地震の本がほしい。」と言われたとき、「地震の予知、地震の備え、メカニズム、地震への対応の本」を紹介しますか。それとも、まず、「地震の何が知りたいの。」と聞きますか。地震の何が大事なのか、つまり先生方がその課題となる対象項目に対してどれだけ下位項目を想定できるかが大事である。あるいは「自分はこんな地震のたくさんある日本から脱出したい、将来はどこか地震のない国で生活したいんだ。先生、地震のない国がわかる本ありますか。」と聞かれたら、すぐに、或いは事前にそんな本を用意できるでしょうか。つまり、下位項目をどれだけ想定出来るのかが大事なのです。それが学校司書の力量、或いは司書教諭の力量にかかってくる。子どもにそれだけの下位項目を尋ねていくための自分自身のウェビングをしっかりしていくことが大事だと思う。

また冒頭でも話したように一番大事なのは汎用能力だと言ったが、学び方がわかれば主体的に出来るのだから、その汎用能力を育てるには、学び方を学ぶための支援をする授業での学校図書館活用はとても大事である。構造化してまとめたり、知識の再構成をしたり、わかりやすく書いたり、話したりとかが出来るようになるためには、この学び方を学ぶ体験を沢山していく必要があるのではないだろうか。

事例報告の中に『ちいちゃんのかげおくり』が出てきた。『ちいちゃんのかげおくり』と『一つの花』

に出てくる「お父さん」に共通する項目、それは、どちらも体が弱いことである。例えば戦争資料を提供するときに、体の弱い大人が出征しなければならなかった当時の状況を踏まえて、先生方がそういう視点で資料を用意できているかが、とても大事である。『ちいちゃんのかげおくり』では、「あまり体の丈夫でないお父さんも」と出てくる。それから『一つの花』では、「体の弱いおとうさんまで」と出てくる。こういう言葉に着目して、「も」とか「まで」という言葉にこだわる子どもができたら、とても素晴らしいと思う。

そのような教材研究を担任の先生方や司書教諭と一緒にするのはとても大事なことであろう。

それから、学校図書館は教材センターでもあってほしいと思っている。子どもの作った成果物をストックできるところであってほしい。そして、レポートを形成したワークシートも一緒にストックしたい。レポートは、結局出来上がったものなので、あまり学び方は学べないが、ワークシートなど子どもの学習過程の中で使った資料を合わせて保存しておくと、学び方を学んでいく一つの材料になるのではないだろうか。４年生の光村の教材では、「クラブ活動リーフレットを作ろう」というのがある。できたものを図書館に置いて、「次のクラブ活動リーフレットを作るときの参考になるんだよ。３年生が見るんだよ。」と話していたら、子どもの主体性が高まるのではないだろうか。つまり実体験と事実の繋げ方も、学校図書館の働きとしては大事である。実体験と本とをどう繋いでいくのか、「繋ぐ」ことが学校図書館としての大事な部分ではないかと思っている。

伴先生の実践では、学年を通して主体的な学びを支える学校図書館として、学ぶことや調べることの楽しさの正体を紹介してくださった。わかる楽しさ、問いを広げてその問いの大きな課題がわかる、高める楽しさや新しい「なぜ？」や「なるほど。」と思える発見の楽さ、友達の意見を聞いて見方、考え方が広がる楽しさがある。それからもう一つ大事にしたい点は、情報を自分の意図や目的に沿って再構築する楽しさ、沢山あった資料の中から、自分なりの意見を構築することが出来た楽しさ、ここが一番難しいところだが、今求められているところである。だから、低学年は体験の中で様々な言葉を知っている、中学年は何かを調べたときに自分が使える言葉をもっているというレベルでいいが、高学年になると、意図や目的に沿って説明する言葉をもつ、つまり自分の主張に沿わせるためにいかに根拠性の高い資料を用いて説明できるかが求められる。意図というのはとても重要なキーワードで、相手を納得や共感させるために、戦略的に必要な言葉を選ぶことが求められている。最終的に幡多小学校でも出来ていて非常に素晴らしいと感じた。

最後に、やはり図書館は、図書館にある本によって、子どもたちがあらゆることを身近な問題として受け取れるようにしておかないといけない。課題を子ども自身に寄せてやることで、課題意識をしっかりもち、読むことに繋がっていくのではないだろうか。学校図書館が抱える機能というのは、本当にたくさんあるとは思うが、意図をもった学校図書館運営をこれからも続けていっていただきたい。

| | | |
|---|---|---|
| 発表者 | 古市絵美子 | (岡山市立岡山中央中学校司書) |
| | 松本　麻里 | (岡山市立千種小学校司書) |
| | 風早絵里子 | (岡山市立足守小学校司書) |
| | 川上　千尋 | (岡山市立福島小学校司書) |
| 助言者 | 森　　祐子 | (岡山市教育委員会学校教育部指導課) |
| 司会者 | 是近知恵子 | (岡山市立東山中学校司書) |
| | 石橋　寛子 | (岡山市立藤田中学校司書) |
| 記録者 | 金林　誉子 | (岡山市立岡南小学校司書) |
| | 向原そよこ | (岡山市立第一藤田小学校司書) |
| | 八谷　彩子 | (岡山市立伊島小学校司書) |

## Ⅰ　事例発表 ①

# 蔵書を考える

岡山市立岡山中央中学校　古市　絵美子
岡山市立千種小学校　　松本　麻里

### はじめに

『学校図書館の教育力　塩見昇氏講演会記録集』を基に研修したレポートから，学校司書がどのような視点を持って蔵書を構成するかが重要になることを共通理解した。各学校に学校司書がいるからこそ，長期的な視野で児童生徒の発達段階を考えた体系的な蔵書を構成していくことができる。そこでテーマを「学校司書がいるからできる，興味を広げ，つながりをもった蔵書を構成する」とした。

### 蔵書を構成する学校司書の視点の共有

『図書館の自由に関する宣言』を読み，蔵書を構成する視点として「教育課程の展開に寄与するとともに児童生徒の興味・関心を広げて発展的に学べる資料を考え，蔵書としているか」，「利用者に寄り添い，『つながり』を持った体系的な蔵書を構成しているか」，その上で蔵書が生きて活用されるためには学校司書は何をすべきなのか」を考えていった。

学校司書は，「資料を見極める」「蔵書を把握する」「利用者を知る」，そして「資料と利用者を結ぶ」という一連の活動の中で蔵書をとらえ，利用者に寄り添いながら「つながり」を持った体系的な蔵書を構成していく。その「つながり」を「本と本とのつながり」「学びのつながり」「人と本とのつながり」ととらえ，３つのグループで研修を進めた。

並行して，２年間の研修期間を通じて，蔵書とした本のミニレポートを行った。ミニレポートによって「どんな資料をどのような場面で活用したか」「活用されるよう教職員や児童・生徒にどのように働きかけたか」など，蔵書は日常の図書館活動の中で総合的に考えられるべきものだと確認できた。

### 「学校司書がいるからできる，興味を広げ，つながりをもった蔵書を構成する」

小グループ１では，選書の視点をとらえ直し，「本と本とのつながり」を意識。授業で利用されやすい２類と３類を取り上げ，資料の評価・検討を行った。

小学校６年生の総合的な学習の時間に世界の国や子どもたちについて調べる際の打合せで「選書の視点」に沿って収集した蔵書を実際に示し，授業者がどんな授業をしたいのか，子どもたちに何を学ばせたいのかを共有した。学校司書が「選書の視点」を意識した資料を示したことで，授業者から「具体的に授業をイメージでき，授業の着地点を考えながら

流れを考えることができた」という感想があった。

資料は散発的に収集するのではなく，「選書の視点」を意識し，他の資料とも相互に有機的な結びつきを生む蔵書を構築していかなければならない。蔵書の持つ有機的なつながりが断たれることがないよう，利用のあらゆる可能性を考え，真に廃棄すべきかを十分検討する必要がある。

小グループ２では「学びのつながり」を意識し，蔵書を総合的に考えるために，小・中学校の学習で連続性のある分野，「環境」「人権・平和」「世界のくらし」「日本のくらし」を取り上げ，実際にどの教科・単元で資料が利用されているのか年間計画を確認し，まとめた。

「人権・平和」分野では，小中学校それぞれ「人権全般」「平和」「障害」「いじめ」「ともだち」「ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）」などのテーマで資料を紹介することで，小・中学校９年間を見据えて話し合い，成長とともに読書生活を見守るという考え方で幅広い資料を吟味できた。

「環境」分野は，新刊が少なく，既刊本についても改訂版を望む意見が多く出た。実際に資料の内容を確認しながらどのように活用されたか，どのように児童生徒に働きかけたかなど意見交換した。

「世界のくらし」「日本のくらし」分野では，小中学校間で相互貸借できる資料が多くあった。資料の情報量や難易度を発達段階や教育課程で考えたので，小中学校それぞれの視点にも気づくことができた。多数の資料を様々な視点から比較検討することにより，資料を選ぶ視点が明確になり，視野が広がった。

小グループ３では，長期的な視野で蔵書を構成することをテーマとした。利用者の要求に応えられる蔵書を計画的に形成していくためには利用者の要求の把握と蔵書の実態把握の両方が欠かせない。それを踏まえて，各校でどのように蔵書がつくられてきたかを考察した。

過去５年間の蔵書を変化について分類ごとにどう推移したのか確認し，現状や課題をまとめた。当然各校で蔵書の配分には特色があり，実際，学校図書館図書標準などに合わせることは難しい。除籍や更新も必要であり，学校司書が長期的な視野を持つことで学校独自のニーズに合った蔵書が構築されていくことが確認された。

利用者の声を聞く手立ての一つとして利用者アンケートがある。実際に，小学校で購入希望として７類のスポーツ関連の本が挙がったが，データ上では７類の割合は４番目に高く，冊数的には十分に満たされているように思えた。しかし内容を確認すると７類にはスポーツ関連の他に，音楽・造形・娯楽なども含まれるため，実際には児童の希望する資料が少なかった。データだけで蔵書を見てはいけないと実感した。

## 研修から見えてきたこと

今回は，活用されるまでが一連の流れと考え，蔵書とした後の活用方法にまで目を向けて研修した。資料を見極め，利用者の要求も受け止め，選書し，蔵書を構成していき，資料が利用者の目に触れやすく手に取りやすい環境に置くことが大切である。このような日常的な一連の活動の中で学校司書の専門性が発揮される。新学習指導要領でも「発達の段階を考慮する」ことや「教科等横断的な視点」が求められており，今後に生きる研修となった。

## 研修の成果と課題

蔵書をとらえる視点が再構築でき，授業への支援の上で有効に働いたこと，学びの段階にあった選書について小中学校の９年間で考えられたこと，蔵書と利用者の両方を知る学校司書だからこそ顕在化しにくい利用者の要求を汲み上げられると確認できた。ミニレポートからも日常的な図書館からの働きかけで蔵書が生きたものになるとわかった。また中学校区の学校司書同士で蔵書について話す機会が少ないことが課題として挙がった。

新学習指導要領において，学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り，児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことが求められている。多様な資料の中から情報を選び，関連付けて理解し，考え創造する力が必要とされる今，授業での学校図書館活用において最大限の支援ができるよう，多様で発展的に学ぶことができる蔵書をつくっていきたい。

## Ⅰ　事例発表②

# 授業との連携

岡山市立足守小学校　　風早絵里子
岡山市立福島小学校　　川上　千尋

### １　はじめに

・研修の目的

授業との連携グループでは，平成２８年度から２年間，岡山市の小・中学校に配布されている『学校図書館運営の手引き第３版』を基に，１校１名専任で配置されている学校司書の専門性を活かして授業との連携にどのように結び付けていくか理論と実践から考察していくことを目的に２年間研修を行った。

### ２　研修の内容

『学校図書館運営の手引き第３版』では,「授業との連携」とは『授業者と学校司書とがそれぞれの専門性を生かして授業を計画し進めていくこと』であり，一連の活動があると記述されている。私たちのグループでは,「授業との連携」と「授業との連携に結びつく活動」の定義の解釈があいまいになっているとの指摘から，まず,「授業との連携」の一連の活動をすべて満たした授業の実践レポートを聞き,「授業との連携」の定義の確認を行い,「授業との連携に結びつく活動」の積み重ねの大切さについて共通理解した。

### ３　授業との連携について

『学校図書館運営の手引き第３版』では,「授業との連携」には，打ち合わせ→資料と情報の収集と精選→ブックリストの作成と別置→学校司書の授業への参加・支援→（発表の視聴）→（事後の話し合い）といった一連の活動の流れがある，と記述されている。一連の活動の流れについて，ひとつひとつ検討した後，グループで授業との連携の実践について話し合った。その中で，大規模校の小学校では，学校司書が調べ学習に毎回参加することは困難で,「授業との連携」を成立させることは難しいとの意見や，小学校低学年では，調べ学習を行う単元も少ないという意見が出た。どちらの場合も，授業関連の読み聞かせや紹介などを繰り返し行ったり，学年に応じた調べ学習に向けての活動といった「授業との連携に結びつく活動」が行われたりと,「授業との連携」を意識した日々の活動や「授業との連携に結びつく活動」を積み重ね，調べ学習が本格的に始まる中学年・高学年，中学校へとつなげていくことこそが大切であることを共通理解した。またこのような活動は,日常的な図書館資料の活発な利用にもつながる。児童生徒の図書館の利用経験の積み重ねと授業への支援の積み重ねによって，岡山市ならではの「授業との連携」が実現できると考えた。「授業との連携」,「授業との連携に結びつく活動」について共通理解した上で，ではどのように図書館を授業との連携などの授業の支援に結び付けていくかをグループに分かれて研修した。今回は，２つの小グループの研修内容を報告したい。

### ４　小グループ研修報告

・「図書館教育年間計画の作成」グループ

今回は,「見やすさ・使いやすさ」「一年間の取り組みがわかる」「中学校とのかかわり」という３つの視点から，年間計画表の作成を行った。年間計画表はただ配布するだけでなく，定期的に図書館利用連絡票も添えて担任教員に配った。その結果，図書館利用のめあてや児童につけたい力もあらかじめわかり，具体的な打ち合わせもしやすかったとの報告が多く聞かれ,「授業との連携」や「授業との連携に結びつく活動」につなげていくにはとても有効なツールであることがわかった。今回は，学校司書のみの視点になったが，学習内容と深く関わるためには，教師からの視点も盛り込んでいく必要があり，今後も改善していきたい。なお，計画表の作成は小学校のもののみになったが，中学校で学習する教科単元に関係あるものについての記載も盛り込んだ。こうすることで９年間通して，見通しを持った図書館活動を行うことができると考えた。

・「教科書の見直しと連携できる単元の実践」グループ

昨年度，前任校の箕島小学校で実施した，４年生国語「わたしの研究レポート」での実践を報告したい。先ほど説明のあった「授業との連携」の一連の活動を意識しながら，学習の流れに沿って時系列で見ていきたい。

まず，打ち合わせでは，身につけさせたい力として，「量的に多い情報の中から，自分に必要な情報を選び出す力」「選んだ情報を，わかりやすい構成で報告書にまとめる力」を考えていることを担当教諭と確認した。授業ではまず，授業者が今回の学習について話をし，自分が不思議に思っていることをクラスで出し合うことから始まった。児童の調べたい気持ちを高めるために，学校司書は本の紹介を行った。その後，児童はそれぞれ調べたいテーマを自分で考えた。児童の疑問はすべて授業者から教えてもらい，それぞれについて調べられる資料を自校の図書館と市立図書館とで探し準備をした。決まったテーマを見ると，本の紹介がヒントになった児童もいたことが分かった。また，授業への参加・支援として，調べ学習に入る前に，学校司書が図書館で１時間，資料利用のガイダンスを行った。目次・索引の使い方，百科事典の使い方，出典について説明した。すでに学習している内容もあったが，忘れている児童も多く，定着のためにも，調べ学習の際のガイダンスの必要性を感じた。児童に配布するブックリストの作成は行っていない。挙がったテーマごとに提供した資料のリストを，自分の記録として作成した。

資料利用のガイダンスの後，それぞれ調べ学習に入った。児童の疑問は多種多様で，１冊の本を調べただけでは納得できる答えが得られないことが多かった。その都度，学校司書は資料を探し，時には大人の本にあたったり，新聞記事を提供したりしながら支援を行った。資料提供だけでは解決できない疑問もあり，出版社に問い合わせたこともあったが，児童が納得するまで調べることができよかったと思う。

事後の話し合いでは，授業者から，司書と綿密に連携することで，児童と司書との距離が縮まり，今後の図書館利用が広がっていくと思う，また，調べているときに司書が助言したり資料を準備したりすることで，自分の疑問の答えをすぐに本で見つけられない児童も，あきらめずに学習をすすめることができたという意見をもらった。

今回の単元の調べ学習では，本で調べるには難しいテーマも挙がってきたが，自分の調べたいことを調べられるので，児童の意欲はとても高いように感じた。学校司書が授業者と密に連携し，一人ひとりの思いに沿った資料を提供することで，児童が達成感や満足感を得られることにつながった。このことは，児童が日常的に図書館に来て調べる習慣や，次の調べ学習への意欲となったりするのではないかと思う。今回，「授業との連携」の一連の活動を行うことで，授業のねらいや流れをよく理解できた。その上で授業者と綿密に連絡をとって資料を収集し，実際に資料を使う様子を見ながら，児童が困ったときにその場で助言したり，児童が納得いくまで迅速に資料提供したりできた。教室に資料提供しただけではわからない，子ども達の「知りたい！」という意欲やがんばっている様子・成長を間近で感じられたことと，その意欲やがんばりに実感をもって貢献できたことがよかったと思う。

## Ⅱ　質疑応答　意見交換

Q：授業と連携した資料の提供での選書は，どういった本を選書しているのかアドバイスが欲しい。年間図書費が１０万しかないため，どんなふうにしているのか知りたい。

A:校内で図書館教育部の先生方と選書委員会を設けている。子どもたちの様子を見て，また授業の中で足りない本があるとか，更新していこうとか，その都度相談をして予算を出す。選書委員会は月に１～２回開くが，主に選ぶのは司書。選んだものを選書委員会へ提案し，先生方に見てもらう形。国語や理科などの教科ごと，または読書感想文の課題図書など，わかりやすく提案している。

A:小規模校の経験があるが，借りられる本と借りられない本があると，借りられる本がどうしても優先になる。テーマで購入計画を立て，それ以外のものは次年度へということも。今いる子どもたち

が一番欲しがっている本も買うように心がけていた。

Q:「蔵書を考える」の図書アンケートについて。目的によって内容が変わると思うが，質問の中で反応が良かったものはあるか。それからアンケートは全校に実施したのか，来館者のみか。アンケート後に来館者が増えるなどの反応はあったのか。授業との連携で自由なテーマで調べることについて。この資料にあるように，なかなか自分の言葉でレポートを書くことは難しいと思うが，出来上がったものを見た時に，みんな自分の言葉で書けているのか，それとも中には資料のまる写しのようなものもあるのか。

A:アンケートは１・２年，３・４年，５・６年に分けて，全校に実施。子ども達が生活の中でどんな本を必要としているのか，どんな本を欲しているのかアンケートから汲み取りたいと思っている。子どもたちの生活背景などもアンケートからわかる場合もある。毎年必ずではないが，２年に一回はとりたい。３月末に今年一年間を振り返ってどうだったかをたずねる感じで実施している。

A:資料につけている子どものレポートは，自分の言葉でよく書けていると思うが，やはり個人差がある。頑張って調べていたが，わかったことの部分は，資料の丸写しをしている子どももいたし，司書がいろいろな本を手渡しながら，やっとレポートにしたというような子どももいた。

Q:授業との連携について。図書館教育年間計画だが，図書館年間利用計画，図書館年間指導計画などの言葉がいろいろあり整理したいので，説明を。

A:このグループでは，年間利用計画という言葉を使おうと統一はした。

## Ⅲ　指導助言

岡山市教育委員会学校教育部指導課　森祐子

今日は三つの項立てで話を進めたい。一つめは学びを支える学校図書館を目指してというテーマに即し、学習指導要領等にも触れながら実践発表を振り返りたい。二つめは岡山市の学校図書館の状況を紹介する。三つめは「未来の扉をひらく学校図書館」，これからどんな学校図書館を目指していくのかについて。

まず一つめ，学校図書館設置の目的は「学校の教育課程の展開に寄与すること」，「児童または生徒の健全な教養を育成すること」の二つ。自校の学校図書館がこの役割を十分に果たしているかを振り返る必要がある。

社会がめまぐるしく変化している今，情報を精査するなどの新しい時代に必要な資質能力を育むという観点から，読書活動の重要性が高まっている。学校図書館が充実し，その役割を果たすことで，「読書好きな子どもを増やし，確かな学力や豊かな人間性を育むこと」「探求的な学習活動をおこない，子どもの情報活用能力を育むこと」「授業で蔵書，新聞などを利活用し，思考力・判断力・表現力等を育むこと」などが期待されている。

読書活動が学力の向上に良い影響があると言われているが，全国学力学習状況調査の結果にもそれは表れている。「読書が好きですか？」という質問に対して「読書が好き」と回答した子どもはＢ問題（活用に関する問題）においても平均正答率が高い。学習指導要領改訂の方向性として「何ができるようになるか」「何を学ぶか」そして「どのように学ぶか」が示されている。特に「どのように学ぶか」，主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善という点において学校図書館の活用が求められている。

新しい学習指導要領の総則には，「学校図書館を計画的に利用し，その機能の活用をはかり，児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に活かすとともに，児童・生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実すること」とある。また学校図書館の三つの機能について，読書センターとしての機能，学習センターの機能，情報センターとしての機能が明記され，国語，社会，美術，総合的な学習の時間，特別活動においても学校図書館の利用という言葉が明記された。

今日の実践発表では学びを支える学校図書館として，より発展・充実するためにはどのようなことに気を付けていけばいいのか，どのようなことを大切にしていけばいいのか，有意義な視点や重要なポイントが数多く提示された。その中で，子どもにつけたい資質能力の共有，中身のつながり，PDCA サイ

クル，この三つをポイントに振り返りたい。

まず,子どもにつけたい資質能力の共有について。「蔵書を考える」取組の発表では，蔵書から活用されるまでを一連の流れとして捉えていた。「ミニレポート」では子どもの学習内容やねらいをまず学校司書が理解をし,授業のどんな場面で活用ができるか,どんな学年でどんな分野で利用ができるのかを見極めた選書の具体が挙げられていた。ねらいを共有するという視点は，授業づくり，授業改善にとても重要なポイントである。また，選書の視点を明文化し共有することで，授業づくりの際に授業者がより具体的な授業のイメージや見通しがもてた。授業の到達点を明確にしながら全体の流れを考えることができ，より効果的な資料活用へつながったのではないか。

「授業との連携」に関する取組で示された「図書資料利用連絡票」は，子どもにつけたい資質能力の共有のためにとても有効である。この連絡票には,学校司書と授業者が授業を一緒に行う際に共有すべき授業のねらいや，学校司書がどう支援するかなどが簡単に書かれており，学校司書と授業者の情報交換のきっかけとして有効である。また成果物を掲示し，子ども達がそれらを見ることで，学びの実感,次の学習への意欲を喚起している。

次に学びにおける縦と横のつながりについて。発達段階に応じた系統的・発展的な学びのつながり,教科・領域を横断した学びのつながりについて。

「蔵書」に関する実践では，中学校区の小中の蔵書を総合的に知ることや小中の接点を見出す取組として，連続性のある分野，人権や岡山市で取り組んでいる ESD に関するテーマについての資料の吟味が報告された。成長過程に応じて使える資料について研究されており，面白い工夫だと感じた。

「授業との連携」に関しては，年間利用計画が挙げられたが，月別，学年別，単元別にわかりやすく使いやすい形でまとめてあり，これを見れば系統的で発展的な学びを意識して授業が組め，打ち合わせもしやすい。すばらしいのは９ヵ年間の学習を見通したものであるということ。中学校の教員が見ても小学校で子ども達がどのように学んできたかということが確認できるがよい。

また，子ども達一人ひとりが生活の中で見つけてきた多様な問いを，それぞれの読書経験や既習事項に応じて，学校司書が寄り添い支援した実践が報告された。継続して子ども達に関わっているからこそのきめ細やかな支援だと思う。

それから研究集録の中には，中学校間で資料の貸借だけでなく,「ブックリスト」を用いて授業内容の情報交換もなされていた実践がある。相互貸借の際,資料だけではなく授業についても情報を共有した結果,すぐ授業に活用でき,効果的な資料活用により,期待を超える学習効果があったとある。横のつながりも重要だと感じた。

最後に PDCA サイクルについて。「選書」に関しては，長期的に蔵書の現状を把握し，取組の成果と課題を分析することで，学校の実態や教育方針に基づく学校独自のニーズへの対応を可能にしているという報告。現在岡山市でも２０年以上を経過して資料価値の低くなった図書の更新を進めており，資料の有機的なつながりを大切にした,収集方針,廃棄,除籍基準の確認がされているところだ。

「授業との連携」では,「授業実践シート」に見られるように，学校司書が資料提供のプロとして授業の PDCA サイクルに関わっていくことが大切。日常的な活動の積み重ねが効果的な中期的、長期的な取組へとつながり，それが蔵書の充実，そして授業との連携にも効果を上げていくと考える。

これらの三つのポイントは学習指導要領の授業改善，学習指導要領改訂のポイントとも重なる。

次に，岡山市の学校図書館の状況について。平成２８年度以降，学校図書館図書標準をほぼ 100％達成している。学校図書館の蔵書に関する日本十進分類法による分類別把握の状況においても 100%，選定基準の策定状況も全国に比べとても高く，そして公共図書館や他の学校図書館との連携も盛んに行われている。その成果として，実際の子どもたちの利用状況も毎年安定した貸出冊数の向上が見られる。授業での活用状況も，毎年少しずつ向上しており，全国学力学習状況調査において,「読書が好きである」と回答した子どもが全国と比べてとても多い。学校司書の日々の努力の成果だと感じている。

「未来の扉を開く学校図書館」について。社会が予測不能な時代を迎えようとしている今だからこそ,学校図書館を通じて子ども達に必要な力を育てて欲

しいという期待が高まっている。岡山市の目指す学校図書館教育は，「図書館資料の充実」「授業者との連携」「子どもの興味関心や，発達段階，授業のねらいに適した資料の提供」が土台となる。これは学校司書の専門性により充実するもの。ぜひこれからも学校図書館の活用を通して，子どもたちが自分の可能性を伸ばし，周りの人と協働しながら，新しい世界を拓く「生きる力」力を身に付けていけるよう，「資料提供のプロ」としてのますますのご活躍を願っている。

| | | |
|---|---|---|
| 発表者 | 岸本　美果 | （岡山市立甲浦小学校司書） |
| | 山根　理依 | （岡山市立岡山後楽館中学校司書） |
| 助言者 | 戸川　倫通 | （岡山市教育研究研修センター） |
| 司会者 | 武田江美子 | （岡山市立大野小学校司書） |
| 記録者 | 平田　智美 | （岡山市立御南小学校司書） |
| | 長久　陽子 | （岡山市立灘崎中学校司書） |

## Ⅰ　事例発表 ①

# 授業との連携

## ～探究型学習と主体的・対話的で深い学びをめざして～

岡山市立甲浦小学校　　岸本　美果
岡山市立岡山後楽館中学校　　山根　理依

### 1　はじめに

岡山市学校司書部会の研修グループで，これからの学習活動として重要視されてきている「探究型学習」や「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）」について，平成28・29年度にこれらをテーマに研修を行った。まずは用語の意味やどのような学習形態なのかを知り，整理するとともに，従来の調べ学習との違いや，どのように学校図書館が積極的に関わり，どのような支援ができるのかも考えていった。

### ２　探究型学習と主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）について

#### （1）探究型学習について

① 探究型学習とは

そもそも探究型学習は理科教育で生まれ，「学習者が科学的探究の過程に主体的に参加することを通じて，基本的な概念と探究の方法の獲得，そして科学的態度の形成を目指す学習の方法を指す」活動（『現代学校教育大事典』）とされてきた。学習指導要領では，各教科の学習を結び付けて探究することをすすめ，探究のサイクルをらせん状に繰り返すプロセスに児童生徒が主体的に参加することで知識を得て，さらに汎用的な力や考える力を学んでいく学習活動であるとしている。

② 探究型学習の背景にあるもの

探究型学習が重要視されている背景には，子どもたちが多様で複雑化する社会に対応できることが求められていることが挙げられる。そのためにどんな資質・能力が必要か提示されている資料を４つ紹介する。

・ＯＥＣＤ『The Definition and Selection of KEY COMPETENCIES』
・国立教育政策研究所「21 世紀型能力」
・学習指導要領
・文部科学省「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」

③ 探究型学習に学校図書館活動をいかすには

今までの調べ学習との違いは，自らの「問い」を持つために自分でテーマ決めをするという点である。学習活動や課題の設定において「自ら課題を見つける」ことで，子どもたちの意欲や関心を高めることが出来る。そのためには，教師と学校司書が「調べる活動の内容」や「テーマの設定をどうするか」など丁寧に打ち合わせを行い，子どもたちにどのような「問い」を持たせるかをしっかり話し合っておくことが大切である。

次に探究型学習を行ったあとに自らの活動を振り返ることが重要である。探究型学習は一つの課題を

クリアしたら次のレベルへというものではなく，試行錯誤を繰り返しながら，らせん型のプロセスをたどる。前段階までの学習過程を振り返り，学習者への支援が的確であったかを評価・反省することは学校図書館においても必要不可欠である。学習後，新たに生まれた疑問を支援できる場が学校図書館である。そのため，学校図書館の持つ資料や空間を充実させ，「ふりかえり」から新たに起こる「疑問」を解決していく場となるようにしていきたい。

また，授業者との事前準備に加え「ふりかえり」の視点を取り入れた６過程の学習活動に基づき，それぞれの段階で学校図書館が行える支援を考え，①テーマを決めよう②探究方針を決めよう③情報を集めよう④情報を分析しよう⑤論理的にまとめ表現しよう⑥ふりかえろう，の六つの観点にまとめた。

さらに，グループでこれら六つの観点を踏まえた「実践記録シート」を作成し，各学校図書館が授業者と連携し行っている具体的支援を「実践記録シート」にまとめながら，実践を深めていくこととした。

### （2） 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）について

① 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）とは

中央教育審議会が，平成 24 年 8 月「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」を，平成 27 年 8 月に「教育課程企画特別部会における論点整理について」（報告）を提示し，新学習指導要領の方向性を示した。そこでは学習する児童生徒の視点に立って，育成すべき資質・能力を三つの柱，①何を知っているか，何ができるか（個別の知識・技能）②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）③どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）で整理している。そして，「どのように学ぶか」という点において，アクティブ・ラーニングの視点からの三つの学びである「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」という三つの視点をふまえながら，学び全体を改善し，教員一人一人が子どもにふさわしい学習方法を考え，選択し，工夫して実践していくことが重要であると論じている。平成 28 年 8 月「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」（報告）では，アクティブ・ラーニングが授業改善のための視点であることが明確に示された。

平成 28 年 12 月に中央審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）が出され，「アクティブ・ラーニング」が授業を改善していく上での「視点」としてとらえられるようになる。平成 29 年３月新学習指導要領においても答申と同様である。

一方，形ばかりのものにならないか危惧する声も多く挙がり，桑田てるみ氏は『思考を深める探究学習　アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』の中で，主体的・対話的で深い学びを行う際の問題点を指摘。溝上慎一氏も，『高等学校におけるアクティブ・ラーニング理論編　改訂版』の中で，「学習を個人的なものから他者や集団を組み込み，協働的なもの，社会的なものへと拡張していく点（学習の社会化）」がアクティブ・ラーニングの最大のポイントであり，その目指す先は，学校から社会への移行課題の解決を図った「学生の成長」であると述べている。求められているのは活動だけが豊かであるようなアクティブ・ラーニングではなく，アクティブであるべきなのは児童生徒の思考の深まりだということを押さえておかなければならない。

② 主体的・協動的な学びの必要性

基礎力と思考力と実践力を合わせた能力を児童生徒に付けることが学校図書館にも求められ，授業との連携を「主体的・対話的で深い学び」という視点で改めて見直し，より充実させていくことが重要。大きく変化していく社会を生き抜くためには，他者と協働して課題を解決する力が必要とされるため，主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業では，他者との協働，対話的な学びが重要視されている。

## ３．授業実践から見えた課題 ～探究型学習と主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）を効果的に進める学校図書館の役割～

### (1) 授業実践

①実践校の実践紹介と考察

・岡山市立操南小学校　　・岡山市立芳泉中学校

・岡山市立岡山後楽館中学校

### (2）授業実践の分析と課題

① 学校図書館側の支援と課題

事前に授業者と打ち合わせをし，調べる目的等を学校司書も共有しておく。できれば児童生徒がテーマを決める段階で学校司書が関わり，具体的な資料を見ながら話し合いをさせ，参考資料の使い方や引用の仕方など調べ学習の基礎的なスキルについても事前に復習しておいた方がよい。相互貸借等も活用しつつ，できる限り学校図書館の蔵書として新しい情報が提供できる資料を揃えおくことが望ましい。

② 児童生徒の探究型学習や主体的かつ意欲的な学びを

えるための学校図書館支援について

・授業者とコミュニケーションを図り，授業の流れやねらいが共有できていたか。
・調べたいことがいつでも調べられるような環境整備ができていたか。
・資料の検索方法や引用の仕方など，利用教育が行き届いていたか。

課題を大別したこれら三つの観点から，学校図書館の支援について考察した。

### (3） 探究型学習や主体的･対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）を取り入れた授業への支援をするために

① 授業者との関わりについて

日頃から教職員とコミュニケーションを図る。また，学習指導要領や教科書の内容を把握した上で，自校の学年だより等で具体的な学習内容を確認し，調べ学習に入る時期に,資料が準備できる旨を伝え，図書館を活用した授業を提案するのも有効な手立て。授業との連携においては，より密接な打ち合わせが必要。その授業の目的・授業の流れ・資料の収集内容・学校司書の関わり方等をしっかりと話し合い，収集する資料についても共通理解しておく。

② 学びを深める図書館

各教科の展開に必要な資料や児童の興味関心を喚起する資料に加えて，課題を見つける資料，思考を広げる資料も含めた多岐に渡る資料収集が必要。日頃から蔵書の点検・確認・見直しを行い，授業者や児童生徒のニーズを捉えて，それに応えられる資料の整備，蔵書構成を考えていく必要がある。児童生徒が図書資料と同時にインターネットも活用できるように，閲覧用パソコンの設置が望ましい。

学習活動を主体的・対話的に深化させるには，これまで以上に学校図書館の場の提供（ラーニング･コモンズ）の充実も必要である。（資料９）

③ 情報活用能力の育成

学校図書館は成長段階に応じた丁寧な資料提供や利用教育，情報活用能力の育成を行う必要がある。児童生徒に「学び方」「調べ方」の基本的なスキルを身に付けさせておくことも重要。情報を批判的に読み解き吟味するメディア・リテラシーを育成する必要もあり，小・中学校の９年間を見通した体系表の作成や年間計画などを見直すことも必要である。

## ４．成果と課題

### 探究型学習や主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）を支えるには

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）は，学びの質を高めるための視点であり，どの教科・どの単元においても常に意識しておくべきものである。児童生徒の読書や学びを支える学校図書館としては，様々な機会を捉えて主体的・対話的で深い学びになるような支援を行っていくことが求められている。

プロセスを大事にした学習活動を発展的に繰り返していく探究型学習は，児童生徒が自ら課題を見つけ「問い」を持つことでより主体的な学習となり，一つの課題解決から新たな問いが生まれ，どこまでも探究できる点において，深い学びへとつながっていると言える。児童生徒が互いに対話をしたり協働したりしながら学ぶ機会を，探究型学習にも取り入れていくことが大切。学校図書館が深く関わることができる学習形態でもあるので，学校司書から働きかけていく姿勢を大切にしていきたい。

今後の課題としては，授業者・教職員と今日的な教育情勢を校内研修等で共通理解し，図書館教育のことについても話ができる関係を日頃から作っておくことが大切である。また，授業者との事前の打ち合わせがこれまでよりもさらに必要になる。学校図書館が探究型学習を支援することで，子どもたちの主体的な学びを保障し，深い学びを実現することができる。

ＩＣＴとの関連もポイントの一つだと考えられるが，今回の研修では学校図書館と情報化との関わり

までは考えられていない。近年，インターネット環境やタブレット端末・デジタルカメラ・実物投影機等のＩＣＴ機器が，教室には充実的に整備されてきているが，学校図書館までは整備されていないところが多いと思われる。学校図書館を「学習の場」として効果的に活用していくには，今後考えていかなければならない課題の一つだろう。

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）はまだ未確定のものであり，今回の発表も平成 28・29 年度の研修を基に発表。随時，今後の教育の動向を見ながら，各学校でさらに実践を重ね，研修していく必要がある。

## Ⅱ　質疑応答

Ｑ：２と３の実践報告で，アクティブ・ラーニングの視点がどの部分に当たるのか教えてほしい。

Ａ：芳泉中の実践は，「自分で本を選ぶ」ところが主体的，「お互いに本を薦め合う」ところが協働的であると司書教諭とも確認したとある。岡山後楽館中は，お互いに気づいていないところを生徒同士が教え合うところが対話的であり，廊下に掲示したことで生徒同士が刺激を受けたことが，学びの交流ができたところである。

Ｑ：操南小は授業の流れが探究型学習の流れになっているが，担任主導でこのようになったのか，どのように司書と打ち合わせをしたのか。

Ａ：司書がアクティブ・ラーニングの視点が実現できるような授業の依頼をした。授業者と単元を探すところから始め，話をしていくうちに，ワールドカフェ方式という方法で課題をみつけるところを一番重要だと考えていることがわかった。課題を見つける授業を参観することにより，最先端の資料が必要だと感じた。

Ｑ：先生方と話し合う時間がない。工夫されていることがあれば教えてほしい。学校図書館が読書支援よりも学習支援に比重をおくようになるのか。

Ａ：図書の時間に打ち合わせをする。大規模校では，「今度，この単元に入られるけれども調べ学習をどうしましょうか」とメモを置いておくと，そのメモを見て先生から声をかけてくれる。毎月学年だよりをもらうので，尋ねたりする。図書の時間の時間割変更も必要になるが協力してくれる。司書はいつでも話を聞き，全面的に支援しますよという雰囲気を作っておく。学習支援も大切だが，読み取る力がないとできないので，低学年のうちは本が読めるように支援していくことも大切である。日常的な読書の上に学習がある。学校図書館が読書支援をしていくことで調べる力や探究する力もついていくのではないか。

## Ⅲ　助言

学校図書館について，学習指導要領の総則に「これからの学校図書館に期待されている」こととして，「（言語活動や）探究活動の場となり，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割」とあるが，これは今回の分科会のテーマそのものでもある。

「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の３つの視点である。「主体的な学び」とは，「見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる」ことであり，探究活動の中でも最初の見通しをもつところ，振り返るところで主にみられる。「対話的な学び」は，対話を通して「自己の考えを広げ深める」ことで，活動しているときによく現れる姿である。「深い学び」は，それぞれの教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，問題を見いだして解決策を考えたり，情報を精査して考えを形成したり，知識を相互に関連付けてより深く理解したりすることであり，最初から最後までどの過程でも現れるものである。

操南小の実践については，探究の過程の中に「主体的・対話的で深い学び」の視点からの改善点を位置づけている。「主体的・対話的で深い学び」は，それをすることが目的ではなく，子どもが集中して楽しく学習しながら力を身につけることができるようにするための授業改善の視点と考え，これからも取り組んでいってほしい。

芳泉中の実践については，反省に「先回りして本をすすめてしまった」とあるが，好きな短歌を自分だけで選ぶことが難しい子どももいる。子どもが考える場面と教師が教える場面をどう組み立てるか考え，子どもが見通しを持つことが難しかったようなら，そこを「主体的な学び」の視点で改善をしていこうとすることはよいことである。選び方を学ぶことも大切である。

岡山後楽館中の実践については，成果と課題に「自分で資料を探す力が身に付かなかった。次の機会には，自分で資料を探すところから取り組ませたい。」とあるが，子どもにどんな力をつけさせたいのかを授業者と司書が共有することができればよいのではないかと思う。

どのような学習活動でも授業者との打ち合わせが一番大切である。時間をとるのが難しいがお互いにアイデアを出し合い，情報の共有ができるようにすることが大切である。

| | | |
|---|---|---|
| 発表者 | 小出　裕子 | （岡山市立平津小学校司書） |
| | 高橋　彰子 | （岡山市立御津小学校司書） |
| | 山中　ユミ | （岡山市立南輝小学校司書） |
| 助言者 | 村尾　剛介 | （岡山市教育委員会指導会） |
| 司会者 | 其輪　純子 | （岡山市立宇野小学校） |
| 記録者 | 荒木　良子 | （岡山市立清輝小学校） |
| | 直井　千佳 | （　岡山市立香和中学校） |

## Ⅰ　事例発表

# メディア・情報リテラシーと学校図書館

岡山市立平津小学校　　小出　裕子
岡山市立御津小学校　　高橋　彰子
岡山氏立南輝小学校　　山中　ユミ

### はじめに

今回の分科会では、平成 28･29 年度に岡山市学校司書部会Ｅグループで、メディア･情報リテラシーについて研修したことについて報告した。研修ではメディア･情報リテラシーの定義について参考文献を読みあい、共通理解をして、その後「支援方法検討班」「プロセスを大事にした学び班」「体験活動班」の３つのグループに分かれて研修を行った。その中で、「メディア･情報リテラシー」とはどんな力で、学校図書館がどう関わっていくことができるのかを考えていった。

### 支援方法検討班

支援方法検討班では、児童生徒が「メディア･情報リテラシー」を身につけるために、何を理解し習得すべきか、また学校図書館はその過程でどのように関わることができるかを考えた。それらをまとめたものが、「メディア･情報リテラシーを身につけるための目標（以下「目標」)」と「メディア情報リテラシーを身につけるための方法（以下「方法」)」の２つの表である。

学校図書館担当者の目標・方法をまとめたＡ「学校図書館の理念と環境づくり」と、児童生徒の目標・方法をまとめたＢ「メディアの特性理解と情報モラル」・Ｃ「課題の認識と情報の収集・整理・分析」・Ｄ「情報のまとめ・表現・交流・評価」に分けている。「目標」の表では、学校担当者が行う領域Ａで挙げていることが機能し、児童生徒が領域Ｂ～Ｄの内容を理解し習得できればメディア･情報リテラシーが身についている、と考えた。「方法」の表では、具体的な取り組みをする主体を、Ⅰ「学校図書館」、Ⅱ「学校図書館＋授業」、Ⅲ「学校全体」と分けて提示した。また、領域ＡＢＣＤの順に思考が流れていくことをイメージし､領域Ａの目標ａは方法ａに連動する、というように書いていった。

研修を通して、どの場面でどのような支援ができるのかが明確になり、学校図書館だけでなく、学校全体で取り組む支援についても考えることができた。学校図書館からの支援に比べ、「学校図書館＋授業」、「学校全体」での事例が少なく、今後の取り組みが課題となった。

### プロセスを大事にした学び班

プロセスを大事にした学び班では、探究的な学習の中で児童生徒が主体的に学び、さまざまなメディアや情報を活用する体験を積み重ねていくことが、メディア・情報リテラシーを身につけていくことにつながると考え、事例を持ち寄り、研修をすすめた。

まず、学びのプロセスを①課題の認識②情報の収集③情報の整理･分析④まとめ･表現⑤情報の交流･評価の５つとし、各プロセスでめざす子どもの姿を設定した。これは、支援方法検討班の作成した「目標」の表の、C・Dの領域に当たる。

事例を検討する中で、学校図書館が関わることで、児童生徒が資料や情報を主体的に選んで活用することができたり、より効果的に資料を活用することができ学びを深めることにつながったり、他者と学びあう機会を作れたりすることが確認できた。

今後の課題としては、国語科以外の教科で、小･中の連携が不十分だった点、情報の整理･分析や表現･交流とうプロセスが不十分だった点、利用したメディアの種類が不十分であった点などがあげられる。これらの点について今後、学校図書館としてどのような支援ができるか探っていく必要がある。

### 体験活動班

体験活動班では、児童生徒がメディア・情報リテラシーについて体験を通して学ぶ活動を中心に各校で実践をし、報告、考察を行った。分科会では具体的な事例として、小学５年国語「想像力のスイッチを入れよう」の単元に関連して図書の時間に行った取り組みの報告と、その一部をワークショップ形式で紹介した。分科会参加者には、写真を見て、「事実（見たまま）」「良い想像」「悪い想像」の３つの視点から文章（記事）を書いてもらった。子どもたちに、ニュースを作るという体験を通して、ニュースには発信者がいることや、事実と印象の違いについて考えることがねらいであった。児童たちは楽しんで取り組み、個性豊かなニュースができあがるも、事実（見たまま）の記事を書く時点で、既に各自の印象や想像が含まれていることが多かった。

研修の成果としては、まず、取り組みを報告し合う中で学校司書自身がメディア･情報リテラシーを意識して普段の図書館活動を振り返ることができたことがあげられる。それによって、教科の学習だけでなく、図書の時間や日常の図書館利用においても、掲示や展示物などさまざまな手段で、タイミング良くメディア･情報リテラシーの意識を高める投げかけを積み重ねていくことが必要であると確認できた。学校図書館がメディア･情報リテラシーを学ぶための様々な体験ができる場になっていくことを目指したい。

## Ⅱ質疑応答

Ｑ１　プロセスを大事にした学び班の実践は、今までの調べ学習とどこが変わっているのか。

Ａ１　最初からメディア・情報リテラシーの育成を目指して取り組んだ事例は，まだグループの中になかった。紹介したのは、すべて従来通りの調べ学習である。ただ、子どもたちが学びのプロセスのどこでどんなメディア・情報リテラシーに関わる体験ができるのか、そこに学校図書館はどう関わることができ、そのことにどんな意義があるのかということを考えることができたのが成果だったと考えている。

Ｑ２　体験活動班で報告された取り組みで、子どもたちの力や意識に、どんな変化があったか。

Ａ２　一度の体験では子どもたちの変化はわからない。こうした取り組みを続け

ていき、繰り返し体験できるようにしていくことが大事だと考えている。

Ｑ３　「メディア・情報リテラシーとは」の部分にあった、批判的評価〈多方面から比較・検討し，評価すること〉に迫っていった事例はあるか。
Ａ３　中学校の「和歌の世界」の事例では、本から得られる情報の特性の理解について学習することができた。この際、インターネットも活用させ、比較させることができたらよかったと考えている。この授業の反省から、社会公民のレポートでは、新聞や雑誌から課題を見つけ，本やインターネットから情報収集をしてレポートを作成する流れができた。

参加者からの指摘もあったが､やっと｢メディア・情報リテラシーとはこんな力のことではないか｣｢学校図書館でメディア・情報リテラシー教育に関わっていくためには、こんな活動ができるのではないか｣と考え、日々の学校図書館活動の中で、この活動はどんな力につながっていくだろうかと意識して取り組みはじめた、という段階での分科会であった。

ただ、学校司書が常駐し、本・新聞・雑誌・インターネットなど多様なメディアが集積している学校図書館こそが、学校でのメディア・情報リテラシー教育の拠点となっていくべきなのではないかとも考える。学校図書館の日常的な活動、そしてプロセスを大事にした探究的な学習によって、メディア・情報リテラシーをどう育んでいくことができるか。今後も各校で取り組み、それを持ち寄って研修を進めていきたい。

## Ⅲ指導助言

本大会テーマは、｢未来の扉をひらく｣であるが、メディア・情報リテラシーとは「課題」「メディア」「情報」「他者」の４つの扉について、いかに選び、探し、出会わせるかが大切であることを考えながら報告を聞いた。

プロセス班の報告で挙がった「課題の認識」は、単元の見通しを持つために大切なことであるので、力を入れてほしい。社会科など他の教科での取り組みや、単元全体を見通した研究を期待する。

支援方法検討班の作成した表は、子どもの思考の流れに沿っており見やすいものになっている。「～できるようになる」など、具体的な子どもの姿がわかれば、共有もしやすくなるだろう。年間指導計画への関連づけも行えると良い。また学校だけでなく岡山市全体のものへ充実していくと良い。

体験活動班の実践記録シートは具体的な内容が載っており、同じ単元でも違った手法や資料を使って行われている様子がわかり、参考になる。このようなワークショップは、校内研究で先生が体験をすると良いのではないか。また、若手職員へのアプローチとして，使った資料や画像などがあると良い。

今後は，主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改革をしなくてはいけない。本や学校図書館、情報、ＩＣＴなどといった切り口で授業改善を進めるのは一つの方法である。

深い学びに行き着くには、課題に対して何らかの考えを持つ必要がある。他者との情報交換や資料からの情報を得て、授業に臨むことで、「～をもとにして」という形で一人ひとりの児童生徒が課題に対して確固たる考えを持つようになる。「未来の扉をひらく」とは、自分の考えを持つということでもある。色々なメディアから情報を取り込み，考えに触れながら、自分の考えはどうだったかと振り返ったとき、扉はもっと開かれるのだろう。

| | | |
|---|---|---|
| 発表者 | 藤原　純子 | （岡山学芸館高等学校司書） |
| | 細田　優子 | （岡山県立岡山東商業高等学校司書） |
| 助言者 | 神田　有香 | （岡山県立図書館サービス第一課班長） |
| 司会者 | 小橋　康智 | （岡山県立東岡山工業高等学校司書） |
| 記録者 | 井上真紀子 | （岡山県立岡山南高等学校司書） |


## Ⅰ　事例発表 ①

# 主体的な学びはまず読書から
# －読書名言・格言を使った取り組み－
# 備前支部司書部会における研修の目的と経緯

岡山学芸館高等学校　　藤原　純子

### 1　研修の目的

備前支部司書部会では、なぜ、「読書」が「主体的な学び」につながるのかと考えた。普段、中高生と接していると、宿題や学校行事、部活動やボランティア活動と与えられた課題をこなす場面が多く、強制的に本を読むように薦められることはあっても、自ら進んで本を読む機会が少ないのでは、と感じている。

そこで、私たちは、慌ただしい毎日を送る中高生に、なるべく押しつけがましくなく、読書をするように働きかける方法を模索し、生徒たちへ読書は面白く、意義あるものだよと分かりやすく示したり、自ら読みたいという気持ちにさせるような環境作りのための研修を行ってきた。また、図書館で楽しく読書をしている生徒や教職員を巻き込み、読みたい気持ちを伝染させていく、図書館づくりを大切にしている。

この研修は「主体的な読書」から「主体的な学び」へと発展することを最終目標とし、その最初の一歩を踏み出せるきっかけづくりを重視した一連の研修について発表する。

### 2　研修経過の紹介

高校の図書館は備前・備中・美作の３支部に分かれて研修をしている。年５回ある研修のうち、２回目から５回目までの備前地区の支部研修では、毎年、資料・人・情報・場所の４つのキーワードに沿って研修を行っている。 昨年度は次表の内容で研修を行い、そのうち第２・４・５回が今回発表の関連研修である。

H29年度備前支部の研修

| | 時期 | テーマ | | 研修内容 |
|---|---|---|---|---|
| 第１回 | 4月 | | | 備前・備中・美作合同研修 |
| | | | | 備前支部年間計画 |
| 第２回 | 6月 | 資料 | ■ | 「なぜ本を読まなきゃいけないの？」に答える名言・格言100 |
| 第３回 | 8月 | 人 | | 生徒への対応 |
| 第４回 | 12月 | 情報 | ■ | 読書名言・格言を使ってみた ～各校の取り組み事例より～ |
| 第５回 | 2月 | 場所 | | 図書館が一番盛り上がったとき |
| | | | ■ | 読書名言・格言を使ってみた Part.2 |

■ 今回発表の研修

第２回研修は、朝日新聞への「読書はしないといけないの？」という投書と、その後続いた読書に関する記事や、読書の意義を説いた投書などがあり、身近でタイムリーな課題であることから研修で取りあげた。

その投書は、平成29年３月９日の朝日新聞に掲載されたもので、「読書はしないといけないの？」というタイトルである。その投書の内容を要約すると、「読書の理由として、教養を身に付け、新しい価値観に触れるためというのはあり得るだろう。 しかし、高校生のときまで読書は全くしなかった。それで困ったことはない。 大学では教育学部なので教育や社会一般についての本を幅広く読むようになった。 役立つかもしれないが、生きていくうえでは読まなくても問題ないの

ではないか、バイトや勉強の方が必要だと感じる。読書は楽器やスポーツと同じように趣味の範疇であり、読んでも読まなくても構わない。もし読書をしなければいけない確固たる理由があるならば教えて頂きたい」という内容である。これを受け、朝日新聞には読書に関する記事や読書の意義を説いた投書などが相次いで掲載された。

司書としては古代紀元前の時代から図書館が設立され、先人たちより本は読むべきものとして引き継がれていると、認識をしていたが、この投書を目にし、投書をした教職志望の大学生でもなぜ、読書をしなければならないのかと疑問に感じていることがショックだった。大学生がそうであれば、高校生でも同様に感じているのではないかと気づいたのが、始まりである。

第２回の研修では、読書の意義というものはこれまでも多くの人が言及しているだろうし、様々な書籍にも書かれているだろうということから、読書に関する名言や格言を集め、まとめてみよう、そしてそれらを参考に、最終的には司書一人ひとりが、自分自身の言葉で「なぜ読書しないといけないのか」の答えを見つけだすことを目的に計画を立てた。

事前に、本や雑誌から集めた名言には、ノーベル物理学者・益川敏英、哲学者・ニーチェ、お笑い芸人・又吉直樹、サッカー選手・中村憲剛の言葉など、200以上も集まった。

研修会当日は、これを持ち寄り、グループで討議した。これらを参考に自分ではどう答えるかを考え、また、生徒に対し、誰が本を読むように薦めると心に火をつけることができるのか、グループ内で意見交換をした。 先人たちの回答同様、回答例も十人十色でひとつに絞られることはないが、意見交換をすることにより、他者の考えと自らの考えを融合させ、参加した司書一人ひとりが自分自身の言葉で「なぜ本を読まなくてはいけないか」に答えられたのではないかと思う。

さらに当日の研修の中では、集めた名言や格言を、どのように活用をすれば、より生徒に読書の必要性や価値をアピールすることができるか、という点まで検討をしておくことが目的であった。

校内で、読書の大切さを訴えたり、読書の機運を高めたりするのは司書の仕事でもある。研修で見つけた名言・格言を図書館サービスに結びつけ、生徒へのアピールを図る有効手段は何かをグループごとに考えた。

例えば、ブックカバーやしおり等の図書館グッズに名言・格言を取り入れることで、生徒の印象に残るのではと考えた。また、図書館グッズには、どのようなものがあるか。視界にパッと入り、目につく場所はどこか、思い当たることを出し合った。

今回の研修では、あくまでアイデアを出すことを優先しようと計画をしたため、デザインなどの著作権にはあえて深く触れずに研修を進行した。これを各校に持ち帰り、実践できそうな物、場所はどこか考えながらやってみた。探した名言・格言はリストにし、共有し、グッズ作成の参考とした。

司書一人ひとりが考えた答えをいくつか紹介する。

「なぜ読書をしなきゃいけないの？」と聞かれたら、私ならこう答える。それはね。

- 「様々な知識を身に付けることができ、自分の世界観に広がりをもたせることができる。」
- 「知識や情報だけではなく、他者の視点、考え方を教えてくれる。自分が経験したことのないもの・ことを考えさせてくれる。それも、楽しみながら。」
- 「現実には色々なことがあるから、本を読むことによって逃げることができたり、ほかの事をシミュレーションしたりすることができる。」
- 「無理に読書をする必要はないと思うよ。でももし今後何か困ることがあったら図書館に来てね。何か糸口が見つかるかもしれないよ。」

というような言葉もあった。

12 月の第４回の研修では、第２回研修の結果を活用した図書館サービスの事例を募集、研修で各校が報告した。２月の第５回の研修では、第４回の各校の実践を参考にした新しい活用事例の報告をした。司書一人では、思いつかない案でも、事例を持ち寄り、幾度かに渡り、向上させることにより、生徒へ読書活動推進のアピールにつながっていると思う。

【写真：各校で実践した読書名言の活用事例の展示】

## Ⅱ　事例発表②

# 備前支部司書部会の「読書名言」の取り組みと事例紹介

岡山県立岡山東商業高等学校　　細田　優子

### １．研修の積み重ね

昨年度の備前支部研修のなかで読書名言に関して活用のアイデアを共有し、実践→報告して共有→実践という風に、考えたアイデアを修正しながら実践するというサイクルを二巡させた。そういった中で、自校で改善したり、一つの事例から多くの事例が派生したりというような経過をたどった事例を中心に、図書館サービスの種類別に紹介する。

#### （1）貸出返却　－返却スリップ－

多くの学校で、返却スリップの裏に読書名言を印刷して広報した。（かっこ内）は実施校の一例。

・名言の中で、一番共感できるものを選んでシールを貼り、名言グランプリを決定。（岡山芳泉）
・読書名言付返却スリップ。（岡山大安寺）
・裏面に「今読んでいる本」→ポイントカードに押印。（岡山大安寺）
・裏面に読者カードのような欄。感想や「☆いくつ」「〇〇に効く」などの項目を書く（岡山工業）
・イラストを生徒が描く（岡山工業）
・新年度のオリエンテーションに利用（複数）

〈取り組み感想のまとめ〉

・先生が紹介するものには注目が集まる。
・生徒には感想、感動を伝えたい思いがある。
・他の人が何を読んでいるのか気になって読む。
・生徒どうしの情報交換になる。

#### （2）展示―図書館での展示―

・なぜ本を読まなきゃいけないの？特集（岡山後楽館）
・展示と廊下の掲示を連動（西大寺）
・名言を抜き出す形でボードに展示（岡山工業）
・棚から飛び出す名言（岡山工業）
・生徒の中には、本が自分の好みじゃないとか、一瞬で通りすぎるので目に入らないという生徒もいる
　一方で、反応のよい生徒や、本を手に取ってくれる生徒もいる。
・先生方の反応もとても良かった。
・本を借りない人にも名言を読んでもらうための工夫をしている。

#### （3）生徒の取り組み －高校生が見つける・書く読書格言名言－

司書ではなく生徒が格言を見つけたり書いたりした事例。

・図書委員全員に読書名言を見つけてもらい、POPを書く。結果を展示や掲示、返却スリップに利用。（岡山大安寺）
・岡工生にとって読書とは？自分の言葉で名言を考える。→返却スリップに。（岡山工業）
・古いうちわをリメイク。雑誌掲載のうちわリメイクの記事を参考に生徒が筆で格言を記入。文化祭の書道展示とコラボ。（倉敷翔南）
・図書委員×書道部とのコラボ作品の掲示。→作品をスキャナで取込み、プラバン等でグッズ作成。（岡山南、倉敷湘南）

〈取り組み感想のまとめ〉

・生徒が名言を探す。→生徒が自分で名言を考えるに展開。
・生徒が見つけたもの、考えたものが、展示・グッズ化されて、取り組みが広がっている。

#### （4）　広報 －図書だより・掲示－

・図書館だよりに掲載（複数）
・図書だよりにコーナー化（山陽女子、岡山大安寺）
・廊下掲示「だから私は読書する」（興陽）

・生徒の部活写真×生徒が考えた名言 ポスター（理大附属）
・万年カレンダーに掲示 。（商大附属）
・学校にある、いろいろな掲示板の隅にシルエット素材を切り取り掲示。（玉野光南）
・図書館以外の様々な場所、トイレの鏡や返却 BOX などにも名言を掲示。（岡山東商業）
〈取り組み感想のまとめ〉
・図書館に来ない生徒にも目に触れるような工夫をした。
・生徒が興味を引きそうなものと結びつけて掲示。

（5）企画 ―格言グッズ―
・図書委員が書いたイラスト＋読書名言をしおりにし、裏面にポイントカード。（岡山東商業）
・図書館キャラクターが名言をセリフにした缶バッチ。（東岡山工業）
・読書格言をデザインに取り入れたブックカバー。（岡山工業）
・読書スタンプラリー景品。オモテ面に図書館キャラクター、ウラ面に本の格言が印字された、お守り風しおり。（邑久）
・読書名言が印刷されたショッピングバッグ。（山陽女子）
〈取り組み感想のまとめ〉
・グッズ作成にあたっては、「みんながほしいものになるか」がポイント。
・家に持って帰ってもらえるものを企画。

（6）企画 ―読書おみくじ―
山陽女子高校で、司書の田中さんが手作りのおみくじを作成。第４回研修でその様子を報告したことで、たくさんの人が興味を持ち、データも公開してくださったことで、備前地区では「おみくじ」ブームが起こった。
・一般的なおみくじの、和歌の部分を「読書格言」にする。運勢に関する文言は、例えば「学業」⇒「努力すれば収穫有り」など、当たり前のことをもっともらしく書く。「読むとラッキーになる本」の項目も入れる。（山陽女子）
・おみくじの本と一緒に展示（岡山工業）
・返却期限票の裏面に開運クジ＆読書名言を掲載。（岡山操山）
・誰でも引けるおみくじ。（東岡山工業）
・読書名言のほかに、運勢、読書に関する雑学や豆知識、オススメの百人一首を盛り込んだおみくじ。（岡山大安寺）
〈取り組み感想のまとめ〉
・おみくじを引くことで、図書館に来た生徒どうしで盛り上がる。
・運勢部分や記載内容に、生徒の特色を見極める必要がある。
・誰の名言か等、よく読んでくれている。
・生徒が自分たちで考え、企画したものは、取り組みにも力が入り、好評であった。

（6） 授業 ―教室での事例―
最後に、授業に関連するものとして、教室での様子を少し紹介する。
・先生が授業で紹介する本を持っていく箱を、名言を使ったポスターでラッピング。ポスターは「生徒の部活写真」と「生徒が考えた名言」が書かれたもの。（理大附属）
・教室の学級文庫のコーナーに、著名人の読書名言を掲示。（理大附属）
・３年現代文「私たちはなぜ小説に惹かれるのか」夏目漱石の「こころ」を教材にした授業の導入部分で「私にとって小説とは何か」と考えさせたことを受け、まとめ部分で「読書名言を考える」取り組み。（岡山南）

## ２．今後の課題
### ～教員との連携と生徒の主体的な活動～
色々と紹介してきたが、これらの取り組みの全体的な課題として、教員との接点や連携が少ない点が挙げられる。「学び へつながる」ということを意識する上でも先生方の関わりは不可欠である。
また、生徒自身が読書の楽しさやその意義を発見したり、発信したりするためにも、生徒がより主体的に関わる活動へ促すことも課題である。
それぞれの事例は、自分から手に取る読書を促すきっかけづくりの一つだが、生徒や先生方を巻き込み、協力しながら、「読みたい、知りたい、学びた

い」という気持ちへつなげていけたらと思う。

### ３．最後に

最後に、今回の一連の備前支部研修では、新聞への投書をきっかけとして、まず、読書について語った先人の言葉を集め、司書が読書について改めて考えた。

その上で、学びの土台となる読書の大切さを訴え、生徒にもその名言に触れて読書の意義を振り返ってもらえたら、という思いで、このような取り組みを考えてきた。

これらの事例が、生徒にすぐに響くものばかりではないかもしれないが、読書への足掛かりのひとつとして、これからも試行錯誤を繰り返し、「読書っていいよね」という雰囲気をジワジワと広げて、読書の機運を高めていきたい。

## Ⅲ　ワークショップ

### 「読書名言・格言を使って取組みを考える」

ワークショップでは、様々な地域・校種の混ざったグループで意見やアイデアを出し合い、読書名言や格言を使った取り組みを考えていく。主体的な学びにつながる活動のヒントや、司書と児童・生徒だけでなく、先生を巻き込んでいけるような取り組みのヒントが出てくるよう、対話をしていく。

情報交換は、ワールドカフェ形式で行った。

〈ワークショップで出た企画の一例〉

- 読書名言記録ノート→読書ノートのようにワンフレーズだけメモしていく型の配布
- 先生からの名言（写真や似顔絵付き）
- 言の葉カーテン→葉っぱの形に切った画用紙に自分の好きな言葉を書いて吊るす

## Ⅳ　助言

県立図書館に勤務して肌で感じることとして、「来館利用者の中に10代が少ない」というものがある。近年、若者の読書をめぐる数値は厳しいものになっている。2018年版の読書世論調査では、全体の読書率が不読率を下回ったとも書かれている。この調査の中も「本を読まない」理由として、発表の中でもあったように「時間がない」が挙げられており、これは、読書の優先順位が低くなっていることをあらわしていると思う。もう一つの理由として「面白い本・読みたい本がない」という意見がある。裏を返せば、「面白い本」があれば、本を読むのではないか。司書としては、面白い本があるよ！と声を大にして言いたいところだ。

また、今の生徒は本を探せないのではないかと感じる。10代の子たちは、インターネットにストレスなくアクセスでき、情報を得られる世代のため、わざわざ図書館に赴き、本を手に取り、これは何が書いてあるのかを確認するというアナログな方法による情報の取得を面倒だと感じるのではないかと思う。

今回の発表では、こうした生徒に対する働きかけということで、名言を使った読書の気運を高めるという、啓発活動であると思った。

各学校で工夫を凝らした取り組みの紹介の事例では、生徒たちの目に触れるありとあらゆる場所に名言をということで、図書館からはみ出した掲示や、生徒や先生を巻き込んだ取り組みなどが数多く紹介されていた。

各校の取り組みについて、会場で実際に展示されている現物を見ると、話しを聞くだけより、その良さが実感できた。多くの人に現物を見ていただくことで、少し遠回りではあるけれど、「読書っていいよね」という機運を高めていけたらいいと思う。

「どうして本を読まなきゃいけないの」という問いは、つまり「読書って何だろう」という問いかけである。その問いかけが、生徒や先生、たくさんの方々の目に触れるということは、皆がそれを意識する時間が多くなるということだと思う。ぜひ、これを細く長く続けていただきたい。

今回、ワークショップの中でいろいろなアイデアが出ていた。製作物の交換展示や、名言Ｔシャツを文化祭で作るなど、生徒を巻き込む企画もたくさん出ていた。機運が高まった先に、では生徒にどういう本を提供するのか。準備をしておく必要がある。

この取り組みを、単発ではなく、継続可能なものにしていけるかどうか。どういう風に先生方を巻き込んでいくか。実際の読書にどういう風に繋げていくかが、今後の課題ではないだろうか。

# 第64回読書感想文岡山県コンクール

## Ⅰ　日　程

6月21日（木）　応募要項配布
　　第1回支部事務局長会議席上
10月1日（木）　応募締め切り（必着）
　　応募先・事務局
　　*小・中･･･岡山市立妹尾中学校
　　仁科　恵子
　　*高校･･･岡山県立倉敷古城池高等学校
　　末吉　美加子

10月9日（火）　第1回合同審査会
　～　　《審査期間》
10月25日（木）　第2回審査会（最終審査）
　　〈小学校・中学校・高等学校 校種別〉

12月13日（木）　表彰式

## Ⅱ　県審査委員

県ＳＬＡ会長　土　家　槇　夫　(岡山県立倉敷青陵高等学校校長)
副　会　長　山　本　義　人　(岡山市立千種小学校校長)
〃　藤　井　隆　(岡山市立高松中学校校長)
　　辻　中　祐　子　(毎日新聞社岡山支局長)
審査委員　沼　本　まゆみ　(岡山市立大元小学校)
〃　山　本　恭　祐　(岡山市立三門小学校)
〃　福　尾　悦　子　(岡山市立旭竜小学校)
〃　稲　本　多加志　(岡山大学教育学部附属小学校)
〃　酒　本　薫　(岡山市立西江小学校)
〃　岡　哲　也　(岡山市立小串小学校)
〃　石　田　そ　ら　(赤磐市立山陽小学校)
〃　浅　野　悦　子　(備前市立吉永小学校)
〃　有　森　美　和　(備前市立西鶴山小学校)
〃　吉　本　隆　志　(備前市立西鶴山小学校)
〃　原　洋　子　(玉野市立荘内小学校)
〃　岡　田　弥　子　(玉野市立後閑小学校)
〃　安　藤　朋　恵　(倉敷市立菅生小学校)
〃　鶴　見　あゆみ　(倉敷市立連島北小学校)
審査委員　吉　井　舞　子　(倉敷市立第三福田小学校)
〃　清　水　留美子　(倉敷市立下津井西小学校)
〃　安　宅　美　奈　(倉敷市立玉島南小学校)
〃　岸　本　明　子　(倉敷市立天城小学校)
〃　木　幡　祐　美　(ア佐口市立金光小学校)
〃　西　江　直　子　(井原市立芳井小学校)
〃　田　村　嘉　啓　(高梁市立玉川小学校)
〃　津　島　延　佳　(高梁市立玉川小学校)
〃　光　島　知　里　(新見市立塩城小学校)
〃　牧　野　友　美　(津山市立高田小学校)
〃　青　山　有　貴　(勝央町立勝間田小学校)
〃　渡　辺　知　子　(真庭市立北房小学校)
〃　川　村　光　子　(真庭市立川上小学校)
〃　羽　原　崇　之　(津山市立勝北中学校)
〃　竹　原　泰　子　(岡山中学校)
〃　藤　本　久　美　(倉敷市立東中学校)
〃　實　盛　知　義　(赤磐市立桜が丘中学校)
〃　西　村　展　子　(新見市立新見南中学校)
〃　原　清　行　(岡山市立光南台中学校)
〃　小　川　美　穂　(玉野市立宇野中学校)
〃　仁　科　恵　子　(岡山市立妹尾中学校)
〃　佐　伯　詩　帆　(岡山市立福田中学校)
〃　若　狭　真　司　(岡山県立邑久高等学校)
〃　三　好　慶　和　(岡山県立岡山南高等学校)
〃　四十塚　輝　実　(県立岡山芳泉高等学校)
〃　中　道　美　紀　(岡山県立岡山聾学校)
〃　長　尾　美　幸　(岡山県立東岡山工業高等学校)
〃　妹　尾　政　義　(倉敷翠松高等学校)
〃　貫　名　峰　江　(川崎医科大学附属高等学校)
〃　柳　井　典　子　(倉敷市立玉島等学校)
〃　板　谷　香　奈　(倉敷市立真備陵南高等学校)

## Ⅲ　岡山県指定図書

| | 書名（シリーズ）<br>著者名 | 発行所 |
|---|---|---|
| 小<br>(低) | **『ぼくちきゅうかんさつたい』**<br>松本　聰美 | 出版<br>ワークス |
| | **『すきなじかん　きらいなじかん**<br>**いち、に、さんすうとかかしましょうがっこう』**<br>宮下　すずか | くもん<br>出版 |
| | **『とらきちのいいところ』**<br>H@L | フレーベル<br>館 |
| 小<br>(中) | **『キワさんのたまご』**<br>宇佐美　牧子 | ポプラ社 |
| | **『図書館にいたユニコーン』**<br>マイケル・モーパーゴ | 徳間書店 |
| | **『わたり鳥』**<br>鈴木　まもる | 童心社 |
| 小<br>(高) | **『青いスタートライン』**<br>髙田　由紀子 | ポプラ社 |
| | **『ぼくたち負け組クラブ』**<br>アンオリュー・クレメンツ | 講談社 |
| | **『世界を救うパンの缶詰』**<br>菅　聖子 | ほるぷ<br>出版 |
| 中<br>学<br>校 | **『こんとんじいちゃんのうらにわ』**<br>村上　しいこ | 小学館 |
| | **『さよなら、スパイダーマン』**<br>アベナル・ピッチャー | 偕成社 |
| | **『わたしのクマ研究』**<br>小池　伸介 | さ・え・ら<br>書房 |

## Ⅳ　結果

1）応募作品数・応募校数

| 区分 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|---|---|---|---|
| 小学校低学年 | 6, 678編 | 6, 737編 | 6, 402編 |
| 小学校中学年 | 10, 657編 | 11, 384編 | 10, 976編 |
| 小学校高学年 | 11, 518編 | 12, 085編 | 11, 779編 |
| 中学校 | 27, 233編 | 26, 954編 | 24, 661編 |
| 高等学校 | 16, 024編 | 16, 117編 | 13, 271編 |
| 計 | 72, 128編 | 73, 277編 | 67, 089編 |
| 応募校数 | 605校 | 603校 | 589校 |

2）特別賞受賞者（最優秀賞受賞者）

**岡山県知事賞**

倉敷市立西中学校　３年　小川萌華

**岡山県議会議長賞**

岡山市立有森小学校　４年　秋山七海

**岡山県教育委員会教育長賞**

浅口市立鴨方東小学校　２年　小林とわ

**岡山商工会議所会頭賞**

岡山県立岡山朝日高等学校　１年　河内花

**岡山市長賞**

岡山市立宇野小学校　６年　佐藤叶望

**岡山県読書推進運動協議会会長賞**

岡山市立吉備小学校　４年　佐藤青

倉敷市立西阿知小学校　４年　高橋冴羽

倉敷市立多津美中学校　３年　藤原亜衣

**毎日新聞社岡山支局長賞**

矢掛町立中川小学校　６年　岡崎彩葉

倉敷市立箭田小学校　５年　倉重桃花

岡山市立光南台中学校　２年　岩本磨耶

**岡山県学校図書館協議会会長賞**

岡山市立東璹小学校　２年　河本真桜

岡山市立浮田小学校　１年　田辺璃空

岡山市立岡山後楽館高等学校　１年　吉川優望

第62回青少年読書感想文コンクール入賞者

全国学校図書館協議会長賞

岡山市立岡山後楽館高等学校　２年　吉川優望

**サントリー奨励賞**

倉敷市立箭田小学校　５年　倉重桃花

# 審　査　概　評

## 小学校低学年の部

### ●自由読書

今年度、自由図書の部で県審査対象となった作品は、一年生が三十六編、二年生が四十四編、計八十編であった。感想文に取り上げられた内容は、家族や友だちとの関わりをテーマにしたもの、動物や物が主人公になっているもの、戦争や平和について訴えたもの、命について取り上げたもの、伝記、図鑑や動物の生態について知るものと、多岐にわたっていた。

本との出会いについては、本の題名や絵に興味をひかれた、家の人に本を読んでもらった、家の人や先生に紹介された、自分の興味から本を選んだなどであった。

審査を進めていく中で感じたことは、物語の主人公と自分の姿を重ねながら物語の世界を味わい、自分の経験を振り返り、感じたことを素直に綴っているということである。中でも友だちとの関わりでうまくいかなかったことや悪かったことを反省し、よりよい友だち関係を作るためにはどうすればよいかなど今後の自分の成長への意欲の高まりが伝わってくる作品が多かった。また、読書を通して、いつも身近にいる家族との繋がりについて見つめ直し、兄弟や家族に対する感謝の気持ちや「大好き」の気持ちを表す内容のものも多かった。

先の戦争、東日本大震災のことや今年七月に起きた西日本豪雨などにも思いをはせ、家族とともに暮らす幸せや平和の尊さについて考え、表現しているものもあった。

図鑑や昆虫、植物を主人公にして書かれた本を読むことで、自分の興味関心を深めたり、学校や家庭生活の中で生まれた疑問を解決したりするだけでなく、生き物の不思議や命の尊さについて思いを巡らした作品もあった。

さらに、子どもたちに人気のシリーズや伝記、中学年の課題図書などもあった。どの本であっても、自分の感じたことや思ったことがありのままに述べてあり、対象の本への愛着、普段使ったり、触れ合ったりしている物に対する新しい見方、新しいことをどんどん知りたいという思いが強く伝わってきた。

表現の方法としては、選書の理由、あらすじと読み取り、読後の感想という基本的な構成ができている作品が多かった。また、一番心に残った部分を自分の体験や気持ちと重ね合わせながら表現することから始めるものもあった。一方で、主人公へ語りかける書き方のものもあり、低学年らしい素直な思いがよく表れていた。いずれにしても低学年でありながらもしっかりと書けている印象が強かった。

低学年にとっては、八百字に感想をまとめることは容易ではないと思われるが、読書を通して、自分の生活や経験を振り返ったり、新しいことに感動したりして、伝えたいことを表現することができていた。

審査を終えて、低学年児童の感性や表現力の豊かさに感動させられた。読書は、子どもたちの物の見方や考え方を変えたり広げたりするきっかけをくれるのだと実感し、読書の素晴らしさを改めて感じることができた。これからも多くの本と出会い、新しい感動や発見を見つけていってほしい。そして、さらに豊かな感性を育んでいってくれることを願う。

### ●課題読書

今回の県審査対象作品は、一年生二十一編、二年生 二十四編、合計四十五編であった。

課題図書では、

『がっこうだってどきどきしてる』　十七編
『きみ、なにがすき？』　十六編
『ルラルさんのだいくしごと』　七編
『なずずこのっぺ？』　五編

となっている。どの本も、表紙やさし絵が子どもの関心をひくものであり、内容も子ども達にとって身近で親しみやすく、作品の世界に入りやすかったようである。中でも、実生活や実体験と結びつけて考えやすい二作品に、応募が集中する傾向が見られた。

図書別に、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

**『がっこうだってどきどきしてる』**

主人公は、新築の「学校」である。新学期になり、登校してきた子ども達の中には、「学校なんてきらい」という子どももいて、「学校」は傷つき、つい意地悪をしてしまう。しかし、いっしょに一日を過ごすうちに、「学校」も子ども達も「学校って楽しいな」という気持ちが芽生え始める。「学校」という身近な場所が物語の舞台となっているため、自分の経験と重ね合わせて感想を書くことができていた。そして、擬人化された「学校」の気持ちに寄り添ったり、「学校」から見た自分を客観的にとらえたりすることで、二学期から前向きな気持ちで学校生活を送りたいと抱負を述べている作品が多かった。

**『きみ、なにがすき？』**

主人公のあなぐまが、庭で友達の好きなもの(野菜) を作りたいと考えるが、友達はみんなすでに作っていた。 なにを作ればいいのかわからなくなったあなぐまに、はりねずみが「きみの好きなものをなんでも(作ればいいよ)」と教えてくれる。この言葉に引き付けられた感想が多く、友達の気持ちを考えるだけでなく、自分の気持ちを大切にして行動すれば、友達や家族が喜び、自分の幸せにつながると考えた作品もあった。友達や家族との日頃の関わり合いを振り返り、自分を見つめ直すきっかけとなったようだ。

**『ルラルさんのだいくしごと』**

ルラルさんが、屋根の修理をしていると、立て掛けておいたはしごが倒れてしまう。助けに来た動物たちは、はしごを汽車に見立ててどこかへいってしまう。でも、ルラルさんは怒らず、のんびり空を見て過ごす。そんなルラルさんをすごい人、優しい人だと感じ、自分も怒らず周りの人に優しく接したいと考える作品が多かった。また、ルラルさんと同じように実際寝転んで空を見ると、気持ちがゆったりすることがわかり、心の余裕が優しさを生み出すことを実感した作品もあった。

**『なずずこのっぺ？』**

「なずずこのっぺ?(なにこれ?)」という昆虫語の問いかけから始まり、一つの花の芽を巡る昆虫たちの日常を、誰も聞いたこと、読んだことのない不思議な昆虫語で綴っている。本を何度も読み返し、繰り返し出てくる昆虫語をヒントにしたり、さし絵の昆虫の表情や様子を読み解いたりしながら、昆虫語を自分なりに会得していく喜びを感じた感想が多かった。そして、幼児語や外国語、手話など、さまざまな言葉を理解したいという思いに発展し、未知なる言語に目を向ける契機となったようだ。

これからも、素敵な本と出会い、新しい発見や喜び、学びを積み重ね、心を豊かにしていってほしい。

## ●指定読書

今年度の県審査対象作品は、一年生十三編、二年生二十二編、合計三十五編であった。これを図書別に見ると、次の通りである。

『ぼく、ちきゅうかんさつたい』　九編
『すきなじかんきらいなじかん　いち、に、さんすう
　ときあかしましょうがっこう』　六編
『とらきちのいいところ』　十七編

どの本も親しみやすい挿絵と共感しやすい内容で、自分の経験や生活と重ねながら読み進めることができたのではないかと思われる。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめると次のようになる。

**『ぼく、ちきゅうかんさつたい』**

トモヤは、「ちきゅうかんさつたい」の隊員一号。タンポポやこいのぼりのこと、いじわるなダイちゃんとのことなど、生活の中で観察したことを、隊長であるおじいちゃんに報告する。しかしある日、病気だったおじいちゃんは宇宙へと旅立ってしまう。悲しみの中でトモヤは、おじいちゃんとの約束を思い出し、観察を続けていくという物語である。「観察」「発見」という言葉に大きな魅力を感じた児童が多く、自分が実際に観察して発見したことや、それを家族に報告した時の関わりの中で感じたことを表現した作品が見られた。また、おじいちゃんの「もうちょっとかんさつをつづけよう」という言葉とトモヤの気持ちの変化から、苦手だと思っていた相手でも観察を続けるうちに別の面が見えてくるということに気づき、 友だちとの関わりについて考えを深めることができた児童もいた。

**『すきなじかんきらいなじかん　いち、に、さんすう
　ときあかしましょうがっこう』**

同じ時間でも、好きなことをしている時は短く感じるが、嫌いなことをしているときは長く感じる……。算数の時間に、好きな時間と嫌いな時間について考えるうちに、きゅうたとさんきちが気づく。日常の生活の中で二人と同じように感じている児童は多く、ときあかしましょうがっこうの子どもたちの意見に共感する感想が多く見られた。自分の体験を重ね合わせて好きな時間や嫌いな時間について考えていくうちに、時間の不思議さや大切さを感じたようだった。また、一生懸命に取り組むと時間は早く過ぎると感じた体験から、嫌いなことでも一生懸命がんばろうと決意を綴った感想もあった。

**『とらきちのいいところ』**

自分に自信のないとらきちは、友だちのいいところをいつもうらやましく感じていた。そんなとらきちと仲間たちの旅はトラブルの連続。そのトラブルを解決したのは、友だちの良さを生かした、とらきちのアイデアだった。自分に自信をもてないとらきちに共感する児童が多く、自分の姿を重ね合わせて読み、とらきちの良さについての感想を書いた作品が多かった。自分では気づかなかった自分の良さを周囲の人から教わることで喜びを感じた経験から、自分もだれかを喜ばせる存在になりたいという感想も見られた。また、同じクラスの友だちに思いをはせ、いろんな子

がいるから楽しい、互いに良いところを見つけ合って仲良く生活していきたいと、自分の生活や友だちについて見つめ直すことができた児童もいた。

全体として、本の内容を自分の体験や生活と結びつけて感じたことを、低学年らしい素直な言葉で表現している作品が多かった。また、本を読むことで気づきが生まれ、家族や周囲の人との関わりの中で考えが深まっていく様子が伝わってきた。これからもさまざまな本から新たな気づきを得て、人との関わりの中で豊かな心をはぐくんでいって欲しいと思う。


自由読書の審査概評　牧野　友美
課題読書の審査概評　光島　知里
指定読書の審査概評　川村　光子


## 小学校中学年の部

### ●自由読書

今年度の県審査対象作品は、三年生三十三編、四年生四十六編、計七十九編であった。

感想文に取り上げられた本の内容については、動物、命、福祉、伝記、環境問題、平和・戦争、など多岐にわたっていた。幅広い分野から本が選ばれており、読書に対する興味や関心の広がりが感じられた。本との出会いについては、家族の薦め、本の題名や表紙に心をひかれて、自分の夢や興味から、前から読みたいと思っていた、などがあった。

選書の方向性としては、特にノンフィクション類を扱った作品が多く見られた。命と人間の食に関するものでは、生活の中に当たり前に存在すると思っていた肉や野菜などが、色々な人の仕事や想いによって届けられていることや、自分の命がそれらの命によって支えられていることへの気付きがあった。その気付きから、命に対する感謝の気持ちを深めていく様子が素直に表現されていた。また、人々の生き方を見て、「出会い」の大切さや、目標を持つことや努力し続けることの大切さに気付いた作品もあった。ノンフィクション類の作品からは、今後の生き方や心構えを学ぶことができ、学んだことや、これから頑張りたいことを表現することができていたように思う。選書に関して言えば、物語が少ない印象を受けた。例えば、ファンタジーなどの作品を積極的に選ぶことで、読書に広がりを持たせたり、そこから得た感動を心のままに表現したりすることもできるのではないだろうか。

文章表現については、選書の理由、あらすじ、読後の感想という基本的な構成で進んでいた。感想文の読み手を引き込むような工夫が随所に見られた。なぜその本を手に取ったのか理由を書くことができていた。主体的に本を選んでいるので、自分の思いを強く文章に表現することができていた。また、自分の身近な体験と、本を読んで感じたことをつなげたり、新しいことを知った喜びを中学年らしい素直さで表現したりしていたものが多くあった。読後の感想では、生活に立ち返って、今後どうしていくのか、自分なりの言葉で表現することが大切だと感じた。自分なりの学びを得ている作品や、持った考えを実際に行動にまでうつしている作品は、その子の思いが伝わってきて、印象に残った。

読書は人の心を豊かにする力を持っている。今回多くの作品に接する中で、そのように感じることができた。子どもたちはたくさんの本と出会い、新しい知識を得たり、自分自身や周囲の人との関係を見つめ直したりしている。読書の力は本当に大きい。そして、感想文を書くことで、今まで気付けなかったことに気付いたり、改めて自分の思いを強くしたりすることができる。言葉で表現することで、心が育っていく。読書感想文は、子どもたちに多くのことを学ぶチャンスを与えてくれる。これからの人生で、子どもたちはどんな本と出会うのだろうか。そして、どんなことを感じるのだろうか。これからも本との出会いを大切にして、読書を楽しみ、さらに豊かな心を育んでくれることを願っている。

### ●課題読書

今回の県審査対象作品は、三年生二十四編、四年生二十二編、計四十六編であった。これを課題図書別にみると次の通りである。

『森のおくから ―むかし、カナダであった
　ほんとうのはなし―』　四編
『すごいねーみんなの通学路』　三十一編
『最後のオオカミ』　六編
『レイナが島にやってきた！』　五編

作品全体として、自分の体験と重ね合わせ、驚いたり共感したりしながら自分の考えを深めている作品が多かった。図書別にまとめると次のようであった。

**『森のおくから ―むかし、カナダであったほんとうのはなし―』**

五才のアントニオが、おそろしい山火事から必死に逃げ

た湖で目にした、思いもよらない人間と動物たちの姿。大自然の中での命の共存がえがかれている物語である。

児童の感想は、自身の動物への思いや知識から、環境問題、そして、それぞれの命の大切さ、大自然の中では、人間も動物も、草食動物も肉食動物も、ありとあらゆる生き物の命は平等であるということについて考えを深めているものであった。

**『すごいね!みんなの通学路』**

世界の子どもたちが通学する姿をとらえた写真から、それぞれにおかれた状況の中で、学校に通う世界の子どもたちの様子が伝わってくる写真絵本である。

児童の感想では、世界の通学路に対する素直な驚きと、自分の通学路や学校がどれだけ安全で恵まれているかについて書いている作品が多かった。また、この安全な環境は周りの多くの人々の支えあってのことだと気づき、感謝している作品や、今年起こった西日本豪雨の体験ともからめて書かれている作品も多かった。さらには、学校に行く意味を考えたり、世界の平和や安全のために自分にできることを考えたりと、考えを広げ深めている作品もあった。

**『最後のオオカミ』**

インターネットで自分の家系を調べたマイケルは、遠い親戚からメールをもらい、先祖に当たるロビーが残した遺言書を見ることになる。それは「最後のオオカミ」という、支え合って困難をのりこえ戦争の時代を生き抜いた少年とオオカミの物語であった。

「時代をこえての命のつながり」「人間とオオカミとの心の交流」「自立」「戦争」等々、様々な視点での感想があった。どれも、自分自身が動物を飼った時の心の動きや、自身と先祖とのつながりの不思議さやありがたさ、これまでの自分の生活や家族との関係等を振り返り、これからの生き方につなげていこうとするものであった。

**『レイナが島にやってきた！』**

優愛の住む島の小学校にやってきた転校生レイナ。転校一日目から「よんどころない事情」で遅れてやって来た。都会の児童養護施設から里子として島の家庭にやって来たレイナ。優愛は、そんなレイナの言動に驚きつつも気になり、交流を深めていく。

島の学校や周りの様子を自分の学校の様子と比べたり、自分の学級に転校生が来たときのことを思い出したり、友達への働きかけ方について考えているものがあった。また「児童養護施設」「里子」という言葉の意味を調べたり聞いたりし、自分自身と家族について考えたり、レイナの胸中を思いやり、友達への働きかけ方、理解し合うための人との接し方について考えているものがあった。

## ●指定読書

今回、指定図書の部の県審査対象となった作品は三十四編で、学年別では三年生十六編、四年生十八編であった。これを図書別に見てみると、

| | |
|---|---|
| 『キワさんのたまご』 | 十三編 |
| 『図書館にいたユニコーン』 | 八編 |
| 『わたり鳥』 | 十三編 |

であった。どの図書も中学年の児童にとって読みやすく、手に取りやすいものであったと思われる。

それぞれの指定図書について感想の傾向をまとめてみると次のようになる。

**『キワさんのたまご』**

夏休み、何の予定もないサトシは、養鶏を営むキワさんのまぼろしの卵の話を聞く。そこでこの夏、弁当屋さんとして忙しく働いている両親のために、まぼろしの卵で卵焼きを作ることを決意する。目標をもつことによって自信と勇気を身に付けていくサトシ。

主人公の頑張りや思いに触れることで、目標や夢中になれるものをもつことの素晴らしさに気づき、自分自身を振り返っていた。また、目標をもって頑張ることは、自分のためになるだけでなく、人のためにもなるということをサトシを通して実感していた。サトシとキワさんの関係だけでなく、サトシとニワトリとの関係を自分に重ね、「がんばろう」「これでよかったんだ」と勇気や自信がもてたことを素直に表現している作品が多かった。

**『図書館にいたユニコーン』**

山や森を歩き回るのが大好きなぼくは、勉強や学校が苦手。でもある日、お母さんに村の図書館に無理矢理連れて行かれる。そこでユニコーンに座ってお話をしてくれる司書の先生に出会い、お話が大好きになる。そんなぼくの村に戦争がやってきて、図書館や村が大変なことになっていく。

お話の中に出てくる司書の先生が語っているお話が魅力的で、読書好きな児童にとってはそれだけで楽しく読み進むことができたようだ。「本はやっぱり楽しい」「本は知らなかったことをたくさん教えてくれる」と、本の良さを改めて実感している感想も多くあった。戦争から本を守った主人公たちの行動から、大切なものを守りたいという思いを表現した作品もあった。その中のいくつかに、今年の

夏、岡山県の多くの地域が被害にあった、西日本大豪雨を思い起こし、自分にできることをしていこうという思いを強く表現する作品もあり、印象的であった。

**『わたり鳥』**

日本にやってくるわたり鳥は約百種類もいる。どんな距離を、どんなふうに、なんのために飛んでいるのか、美しい絵とともに楽しく分かりやすく説明されている。

ツバメがわたり鳥であることを初めて知ったことを驚きとともに表現している作品もあった。わたり鳥であることを知ることで、おばあちゃんがなぜツバメの巣を大事にしていたのかが分かったり、いつも見ていたツバメが愛おしく思えたりしてきたという感想も多く見られた。また、わたり鳥の素晴らしさに触れることで、環境問題について考えを巡らせ、人間のせいで動物の命を奪ってはいけない、動物のためにも人間のためにも自然を大切にしていこうという強い思いが感じられる作品もあり、中学年らしい素直な感想が好印象だった。

これからも、本を読むことで新しい世界や考えに出会ったり、自分自身や社会の問題をふり返ったりすることで、より豊かに成長していってほしい。


自由読書の審査概評　山本　恭祐
課題読書の審査概評　西江　直子
指定読書の審査概評　酒本　　薫


## 小学校高学年の部

### ●自由読書

自由読書の部で県審査の対象となった作品は、八十編であった。学年別に見ると、五年生が三十六編、六年生が四十四編であった。

感想文に取り上げられた内容は、戦争、人種差別、動物、障害、友情、人物記など多岐にわたっていた。戦争の本では、原爆の恐ろしさを題材にした本や戦争の中を強く生き抜いた人々を題材としたもの以外にも、広島の原爆を肯定派と否定派に分かれて討論した内容の本もあった。ペットや捨て犬や捨て猫についての作品も多かった。人間の都合で商品として売られ、身勝手に捨てられていくペットたちの在り方に憤りを感じ、一方でその動物を助けようと活動する人々に共感したものもあった。人物記では、オリンピックやパラリンピックの選手を取材した図書から、ノーベル賞受賞者や偉人の伝記まで様々であった。

審査を通して感じたことは、全体的に、ノンフィクション類を選んだ作品が多いことである。これは、昨年度と同様の傾向である。そして、図書と自分自身の生き方を繋げて考えた作品が多く見受けられた。本を読むことで主人公と自分を比較し、今の自分に足りないものを見付けている様子が読み取れた。自身の家族との繋りや日常の幸せを、本を読んで改めて感じたという作品もあり、深く心を動かされた。また、西日本豪雨で甚大な被害を受けた地域からの応募も少なくはなかった。作品の中には、本の内容と西日本豪雨の際の町の様子や人の温かさ、自身の体験を結び付けて書いているものもあった。被災後、強い気持ちをもって、立ちあがろうとする子どもたちの思いが伝わってきた。自分の経験を本の内容を結びつけることで、本の世界に深く入り込むことができていたように思う。

感想文を書く上で、導入の表現方法にも様々な工夫が見られた。本の表紙の絵や写真に衝撃を受け、その内容を想像することからの導入。心に残る言葉を引用し、作品の世界に読み手を引き込むもの。自身の体験や家族、身の回りにいる人物の紹介から入り、図書との繋がりについて書いた作品。自分の考えを数点に絞り、本の内容と自らの心の変容を順に書き、核心に迫っていく作品もあった。読み手に分かりやすく、効果的に伝えるにはどうすればよいか、書き手の意図が感じられるものとなっていた。

精一杯に自分の考えを述べ、工夫された作品が多い中で、いくつか課題もある。あらすじの紹介が多く、自身の経験や考えなどの感想の部分が少ないもの。体験を語った部分が全体の大半を占め、読後の自分の考えについての記述が短く、一般論を述べて終わってしまうものもあった。また、本の内容と自分の意見がずれてしまっているものがあった。その本が自分の考えにどのように影響を与えたのか、読後にしっかりと整理する必要がある。内容に一貫性を持たせて書かなければ、焦点のずれた作品となってしまう。

よい本と出会えば、自分にとって直接的な経験がなくても自分自身が変容したり、高まったりすることができる。読書を通して、今の自分に足りないものは何なのか、目標を達成するために必要なものは何なのか。そして、普段の生活で当たり前だと感じていたことが急に幸せに思えたりする。本を読むことで大切なことが見えてくる。読書感想文を書くことは大変なことであるが、自分が思ったことを素直に言葉にし、その感動を忘れないように、書き残しておいてほしい。

本は様々な体験や知識を与えてくれる。たくさんの本と

出会うことで、さらに心豊かな人間に育ってほしいと願っている。

## ●課題読書

今回、課題図書の部の県審査対象となった作品は四十編で、学年別では五年生が二十一編、六年生が十九編であった。これを図書別に見ると、

『奮闘するたすく』　二十一編
『ぼくとベルさん―友だちは発明王』　十一編
『こんぴら狗』　五編
『クニマスは生きていた！』　三編

であり、作品数には偏りがあった。どの作品も、読書をきっかけに自分を振り返ることができていた。また、登場人物に思いを馳せ、自分と重ねながら、自分の素直な思いや感動を自分らしく表現することができていた。四つの課題図書についてそれぞれの感想をまとめると、次のようになる。

**『奮闘するたすく』**

デイサービスへ行く祖父に付き添う五年生の佑。祖父だけでなく、施設のお年寄りと接しながら奮闘する物語である。佑の気持ちに共感しながら、佑の心の変化を捉えるだけでなく、佑と同じように自分の祖父母や家族を思いながら、今まで見守ってくれていた人々に対して、感謝の気持ちを表現している作品が多かった。さらに、自分にできることは何かを考え、自分から周りの人々に寄り添い、支えていこうとする意欲がよく伝わってくる作品が多く、頼もしさを感じた。

**『ぼくとベルさん ―友だちは発明王』**

読み書きが苦手な少年エディは、自信を失いかけるが、発明家ベルとの出会いにより、自分には数学の才能があることに気付く。そして、新たなことにも挑戦しようとする物語である。希望をもつこと、困難に向かっていく心の強さ、多様性を認め合うことなどについて真剣に考えている作品が多かった。また、エディの姿から、「人はそれぞれ違うからこそすばらしい」というメッセージをきちんと受け止め、苦手なことでもあきらめず努力していこうという思いを素直に表現することができていた。

**『こんぴら狗』**

江戸時代、飼い主の代参に出される「こんぴら狗」という風習があった。この本は、飼い主の病気が治るようにと願いを託された犬、ムツキの旅物語である。児童は、ムツキと共に旅をするかのように、心配しながら読み進めていた。また、お参りが無事に果たせるようにと旅先の人々が手助けをする優しい心遣いを感じつつ、立派にこんぴら参りができたときの安堵感を素直に表していた。たとえ厳しい状況でも目的を成し遂げようとする勇気やたくましさ、人々の心の温かさなどを表現している作品が多かった。

**『クニマスは生きていた！』**

絶滅したと思われていたが、小さな命をつないで生きていた幻の魚クニマス。再発見までを写真やデータを織り交ぜながら紹介し、なぜクニマスは生きながらえたのかを解き明かすお話である。児童は、クニマスを探し続けた情熱に感動し、自然を守ることの大切さを改めて考えることができた。人間の身勝手さや愚かさが、小さな命を追い詰めてしまったことを知り、環境問題における人間のあり方を真剣に考えている作品が印象深かった。

本は「新しい世界との出会い」である。これからも、未知の世界を知る楽しさを感じながら、自分の見方や考え方、感じ方を豊かにし、素敵な自分を創っていってください。

## ●指定読書

今回、指定図書の部の県審査対象となった作品は 三十七編で、学年別では、五年生十八編、六年生十九編 であった。これを図書別に見ると次の通りである。

『青いスタートライン』　十八編
『世界を救うパンの缶詰」　十五編
『ぼくたち負け組クラブ』　四編

作品数には偏りが見られたが、どの作品も自分の経験や、生活と結びつけ、高学年の児童が興味深く読み進められる内容であった。特に、『世界を救うパンの缶詰』は、七月の西日本豪雨の影響もあり、児童にとってはより身近なこととして読むことができた作品であったと思われる。

三編の指定図書について感想の傾向をまとめると、次のようになる。

**『青いスタートライン』**

母親の入院がきっかけで、佐渡で夏休みを過ごすことになった主人公の颯太。新しい家族が誕生することに不安を感じながら、佐渡へと向かう。そこで、出会った夏生やいとこのあおい、あおいの同級生たち。それぞれが、心の中に悩みや不安を抱えながら生活していた。あおいの遠泳大会の動画を見て、今年の大会に出場することを決心した颯太。二十五メートル泳ぐのが精一杯なのに、一キロもの遠泳に挑戦する。コーチの夏生と一緒に練習を重ねる中で、それぞれが自分の夢を見つけ出し、一回りも二回りも成長

していく物語である。

颯太と自分自身の経験を重ねて読み、目標をもって努力することの大切さや、努力する姿は、周りの人にも勇気を与えることに気付いたという感想が多く見られた。

**『世界を救うパンの缶詰』**

阪神・淡路大震災をきっかけに、「おいしくて、やわらかくて、長期保存ができるパン」作りに挑戦した秋元さんの物語。困っている誰かのために、自分に何ができるかを考えることから始まる物作り。震災直後にゼロから開発を始め、実験と失敗を繰り返しながら「パンの缶詰」を完成させた。

児童は、ゼロから作ることの大変さに驚き、自分のミッションとして諦めずにやり遂げた秋元さんの喜びを共に味わっていた。中には、西日本豪雨によって被災し、「パンの缶詰」に助けられた経験から、この本を選んだ児童も見られた。秋元さんの優しさや、仕事に対するひたむきさを読み、諦めずに挑戦し続けることの大切さに気付いたという感想が多く見られた。

**『ぼくたち負け組クラブ』**

生まれたときから本が大好きだったアレック。授業中でも隠れて読書し、たびたび校長室送りにされてしまう。そんなアレックが、放課後に誰にも邪魔されずに本を読むための「負け組クラブ」を作る。しかし、仲間がどんどん増えていき、アレックの心も変化していく。

児童は、登場人物に共感しながら、自分の生活経験と重ねて読んだり、苦手なことにも挑戦していこうとする気持ちを新たにもったりしたようだ。本を読む意義を自分なりに考え、これからの生活に生かしたいという感想も見られた。

全体的に見て、自分の生活や経験と重ね合わせながら、考えや思いを素直に表現できている作品が多く好感がもてた。読書を通して自分自身を見つめ、よりよい自分になりたい、夢に向かって努力していきたいと願う姿はすてきである。今後も、さまざまな本との出会いを通して、読書の楽しさを味わい、心豊かによりよい自分へ成長してほしい。書くことによって自分の考えを明確にしたり、表現力を身に付けたりしていってほしいと思う。


自由読書の審査概評　安藤 朋恵
課題読書の審査概評　原　洋子
指定読書の審査概評　有森 美和


## 中 学 校 の 部

### ●自由読書

本年度、県審査に出品された作品は九十八編であった。その内訳は、一年生二十編、二年生二十七編、三年五十一編。男女別では、男子十八編、女子八十編であった。本と自分をつないでいく上で、様々な体験の量が語彙力、表現力を磨くことにつながる。本年度は三年生が多いが、学校内外での貴重な体験を元に本の内容に共感している。様子がよく分かる作品が選ばれている。「自由図書では、様々なジャンルの本が選ばれ読まれる。自分と同じ部活動の話、戦争と平和について、以前課題図書や指定図書に選ばれた本、映像化された話の原作、賞をもらった本、話題になったベストセラーなど出会い方はそれぞれ違う。しかし、どの感想文もしっかりと本と向き合い、自分の世界と本に描かれた世界を融合させ、新たな自分の進む道を見つけ出していることに感心した。

最優秀の小川萌華さんの「『面倒だからしよう』を読んで」は、ついつい楽な道を選んでしまっていたが「よりよく生きる」という言葉に出会うことで、「心の輝き」をもった「美しさ」を身に付けたいと思うようになった過程が、日常生活の例を入れながら、わかりやすく書かれている。そして、西日本大震災で被災した伯母を支援した時の体験が、「優」という字の表す「人に寄り添う様」とつながり、「真の優しさ」についてより深く心に刻まれ たこともよく分かる。

田中はるかさんの「人間、失格」は、語彙の豊富さから、これまでの読書量の多さが想像できる作品である。「道化」や「恥」など難しい言葉にも自分なりの解釈を加え、葉蔵に反発と共感を繰り返しながらも、自らの人生の指針として受け止めている。

恒川香花さんの「水面に映る月」（―『ボランティア僧侶～東日本大震災 被災地の声を聴く～』を読んで―）は、西日本豪雨の被災地である真備町にボランティアに行った時の体験が、この本の内容と響き合い、主人公の行動や心情に深く迫っている。「聴く」という言葉がキーとなり、被災地で活動する主人公や被災地で出会う人々の思いが語られていく。実際にボランティアとして活動した人でなければ感じ取れない「聴く」ことの難しさと大切さがよく表現できている。そして、「水面に映る月」という題を付けた意図の深さが感じられる。

川島孝太さんの「『限界の正体　自分の見えない檻から

抜け出す法』を読んで」は、「限界」とは何なのか、ということから始まり、過去を振り返ることで、「限界」を感じるほどには何も取り組んでいないことに気付く。限界を「壁」でなく「檻」と考えるという発想の転換、為末選手の実体験からくる本物の言葉が、剣道で全国制覇を目指す川島さんの支えになった。

重内陽菜さんの「『いのちは贈りもの ホロコーストを生きのびて』を読んで」は、ホロコーストで迫害されたユダヤ人がたくさんいたという、事実としっかりと向き合い、「命の重み」について考えた。戦争によってあまりにも軽く扱われた命について憤りを感じ、そうならないような社会にと願う気持ちと、そのために自分ができることを懸命に考える姿が文章に表現されている。

県審査に出品されたどの作品も、本との出会いから刺激を受け、よりよく生きるためにはどうすべきかを真剣に考えている点では、読書が貴重な体験となったのがよく分かるものであった。ただ、意見文になっているものも多かった。読書感想文としてまとめる時に、本から離れすぎて自分の体験に偏ってはいないか、自分の感想よりあらすじが多くなっていないか、理想論ばかりで現実がみえなくなっていないかともう一度読み直してみてほしい。読書を通して見つけだした新たな自分の進む道を、文字という形にすることで、そして、それを繰り返し読み返すことで、より確固たるものとして心に刻んでほしい。

## ●課題読書

今年度の課題図書は『一〇五度』『太陽と月の大地』『千年の田んぼ：国境の島に、古代の謎を追いかけて』の三冊である。県の審査対象となった感想文は全部で四十四編。出品数の内訳は『一〇五度』二十八編、『太陽と月の大地』一編、『千年の田んぼ：:国境の島に、古代の謎を追いかけて』十五編であった。また、学年別では、一年生が十三編、二年生が十五編、三年生が十六編であった。

『一〇五度』は、イスのデザイナーを目指す「真」とモデラーを目指す「梨々」、中学三年生男女が、「全国学生チェアデザインコンペ」に挑戦する過程を描いた作品である。倒れもしないし寄りかかりすぎもしない、その人間関係のほどよい角度がイスの角度と同じ一〇五度。「真」は勉強との両立や進路選択について悩み、「梨々」との仲違いなどの出来事を通して、自分の自己中心的な考えや父親の思いに気づき、梨々とお互い尊重し合いながら作品を作り上げていく。

感想文では、主人公たちが同じ中学生であり、題材になっているのが将来の職業や進路選択ということもあり、共感したり一緒に悩んだりしながら、等身大の自分を素直に重ね合わせながら読んだ作品が多かった。人と関わることは支え合うことであり、仲間やライバル、家族など周りの人に感謝すること、夢をあきらめず好きな道で努力することの大切さ、個性の尊重など、自分の夢や生き方について考えを深める作品が多く見られた。

『太陽と月の大地』は、十六世紀のスペインが舞台。モリスコ(キリスト教に改宗したイスラム教徒)のエルナンド一家と城主の伯爵家は主従以上の関係で結ばれていたが、時代の流れの中で自分たちの生活や信仰を保てなくなり、ついには戦争で傷つき、関係も心もばらばらになってしまう。

感想文では、支配者が宗教や民族の対立をあおって敵と味方をつくり出し、多くの人々が傷つき、友情や信頼、愛情や命までも失われてしまう歴史の事実に学び、苦難によって翻弄された人々の思いやせつない願いを読み取ることで、平和とは何かを考えていた。今ある日常こそがかけがえのないものでそれに感謝し周りの人々を大切にすること、人としてありのままを認めることの大切さについて考えを巡らしていた。

『千年の田んぼ：国境の島に、古代の謎を追いかけて』は、 山口県の見島に広がる一三〇〇年前から続く「八町八反」 の田んぼの不思議な成り立ちについて、秘密を解き明かした作品である。大きな川のない見島での水の確保、古代条里制までさかのぼる区画ができた経緯、古墳群の歴史からわかる国防の最先端を担った人々の生活。すべて実地調査をすることで、受け継いだ人々の思いを明らかにしている。

感想文では、八町八反の田んぼを受け継いできた人々の知恵と工夫から、田んぼは命をつなぐ希望であるという強い思いを感じ取ったものが多かった。また、自分の周りの人々や祖先に思いをはせ、支え生み出す人になりたいとこれからの自分の生き方を考える作品もあった。著者が何度も見島に足を運んだ「行動力」の大切さ、自分で調べ自分なりの答えを出すことは遠回りのようだが無駄ではなく当たり前を破る手がかりになる大切なことであると、筆書の取り組みのスタンスに学ぶ感想も見られた。

## ●指定読書

今年度の指定図書は『こんとんじいちゃんの裏庭』『さ

よなら、スパイダーマン』『わたしのクマ研究」の三作品である。県の審査対象になった作品は三十九編で、出品数の内訳は『こんとんじいちゃんの裏庭』が二十四編、「さよなら、スパイダーマン』が十編、『わたしのクマ研究』が五編であった。また、学年別では、一年生が五編、二年生が二十編、三年生が十四編であった。

『こんとんじいちゃんの裏庭』は、中学三年生の男の子悠斗が主人公の物語である。ある日一緒に暮らす認知症の祖父が、交通事故に遭い意識不明になる。祖父は交通事故の被害者であるはずが、損害賠償請求をされてしまう。それに対して「絶対におかしい」と憤る悠斗は、大人の嘘を暴くために自分で交通事故について調べていく。その中で、悠斗は多くの大人に出会い、成長を遂げていくという話である。

感想文の内容としては、作品中で主人公悠斗が疑問に思った「本当の優しさ」とは何かということについて書かれているものが多く見られた。同じ中学生である悠斗の心の葛藤や成長していく姿に共感したり反発したりしながら読み、自分自身の心の葛藤やこれからの生き方についてよく考えられていた。

『さよなら、スパイダーマン』は、複雑な家庭環境にあるジェイミーが主人公である。ジェイミーの姉のローズは、テロに巻き込まれ犠牲者となった。その悲しみから、家族はバラバラになってしまう。そんなジェイミーを救ってくれたのは、家族が忌み嫌うイスラム教徒の女の子、スーニャだった。中学生の日常からは、離れた「テロ」 や「宗教」が作品の大きなテーマとなっている。

感想文の内容としては、命の尊さや、家族の大切さについてだけでなく、自分とは異なる価値観をもつ人の影響など多岐にわたって考えて書かれていた。中学生の日常とは離れた内容からも、自分との共通点や相違点などを見つけ、今の自分を見つめ直し、これからの生き方や考え方につなげて書かれていた。

「わたしのクマ研究』は、クマの生態調査・研究を、食物や森などいろいろな角度から、わかりやすく紹介している作品である。著者がクマの研究を始めた経緯や、研究方法などがわかりやすく書かれており、イメージとしてのクマではなく、正しいクマの姿を伝えようとしている。

感想文の内容としては、いろいろな視点からクマについて知ることで、最近よく聞くクマによる人や農作物への被害という悪い印象とは異なる印象を、クマに抱くようになったものが多く見られた。また、自分の住む地域の生態系と、著者が研究している地域の生態系との共通点から、自分に引き付けて共感する考えを書くことができていた。

三作品の中でも、感想文が書かれた作品に偏りがあった。応募作品の大半を占めた『こんとんじいちゃんの裏庭』は内容的にも読みやすく、主人公が中学生でもあったことから、自分に引き付けて考えやすかったためだと思われる。しかし、自分の考え方と異なる考え方に触れ、新しい自分に出会えることが、読書の魅力でもある。ぜひ、新しい世界に飛び込んでいってほしい。

## 高等学校の部

### ●自由読書

自由読書の部は、課題図書以外の作品を読んだ感想文すべてを扱う。そのジャンルは、小説や詩、短歌・俳句、評論文やノンフィクションなどあらゆる分野にわたる。自由読書の部には、県審査へ四十三校から二百八十六編の応募があった。応募数は昨年からやや増加し、学校数はほぼ変わらなかった。七月の西日本豪雨で被災した方もいらっしゃる中、多くの作品を応募くださったことを感謝申し上げたい。

生徒は例年、多種多様な作品を読んでの感想文を応募してくれており、読書傾向が知れて興味深い。近年ではライトノベルやケータイ小説を読んでのものも増えてきた。現実離れしたファンタジー物は自分に引き付けて考えづらいが、中には重いテーマを含んだ作品もあり、一概に軽視できない。高校生の定番ともいえる『人間失格』『カラフル』『夜のピクニック』『博士の愛した数式』『置かれた場所で咲きなさい』などがある中、今年も昨年に続いて『君の膵臓をたべたい』『羊と鋼の森』の感想文が少なくなかった。今年、目についたのは、マンガ本のヒットで注目された『君たちはどう生きるか(原作)』と『この世界の片隅に(ノベライズ本)』である。特に後者は、戦争を取り上げた作品が年々減少しており、祖父母も戦後生まれとなった高校生にとってはよい作品だと思われる。これまでの戦争物は兵士や戦場を描いたものが多かったため、銃後の人々の日常生活という新しい視点もよい。

ノンフィクションジャンルの本を読んだ感想文もやや増えてきたように思う。現代社会の諸問題に目を向けて考えることは高校生にとって何より必要なことと思われるが、読書感想文となるとやや書き方が難しいかもしれない。筆者の考えに近すぎては自分独自の考えが薄まるし、離れ

すぎては感想文としてはふさわしくなくなる。筆者の考えと自分の考えとを区別しながら、自身の思考の深まりがうかがえる感想文を読んでみたい。

今夏の西日本豪雨で被災した実体験を書いたものもいくつかあった。実感のこもった迫力ある文章になっているのだが、如何せん、そちらがメインとなって読んだ本の内容があまり出てこず、読書感想文としては高い評価ができなかった。良い文章ではあったが、残念だった。

本年度の最優秀に選ばれたのは吉川優望さんの「未来を作るために忘れてはならないこと」である。五十年前に起こった公害問題を詳しく知った驚きと怒りがよく伝わってくる。原告の叫びを未来に向けての刻印と考え、文明や科学が発展した現代社会に思いを馳せるしっかりと考えた感想文になっていると、高く評価された。

優秀作品の泉村紗英さんの「いまを生きる勇気～『嫌われる勇気』～」は、アドラーの理論をしっかりと咀嚼した上で自己を変革しようとする姿勢が、高校生の感想文としてふさわしく、優れていた。

藤澤摂子さんの「『かもめのジョナサン』を読んで」は、封印を解かれた最終章を中心に、ジョナサンとアンソニーには共通して自分を導く「師」の存在があると分析し、そこから自分自身を顧みるという論理構成が素晴らしかった。

天野祐里さんの「『未来を変えた島の学校』を読んで」は、本の内容と自分の故郷への想いがぴったりとマッチしている上、実際の行動にも結び付いており、熱い気持ちがよく伝わってきた。大谷陽希さんの「『漁港の肉子ちゃん』を読んで」は、主人公と自分自身を重ね合わせて、主人公にかけられた言葉を自分に向けたものとしてとらえることができており、自己変革に向かう流れが素直で自然に書かれていた点が良かった。

橋本佳織さんの「「桜の樹の下には』を読んで」は、梶井の個性的な作品世界に深く入り込み、美と惨劇の、光と影の「平衡」に共感を覚えている点を、グロテスクに落ちることなく上手くまとめていた。

高田和佳さんの「『この世界にｉをこめて』を読んで」は、対象作品はライトノベルであるが、小説を「書く」という行為をしっかりと考察し、自己の内面に向き合う意義を見出していく過程がよく書けていた。

平田唯乃さんの「『人間失格』を読んで」は、前半の「仮面」の考察と後半の「恥」の考察がどちらもきちんとしているとともに、優れた文章で説得力もあった。

藤澤智彩さんの「『ノベライズこの世界の片隅に』を読んで」は、戦争という非日常の下の「日常」、異常な状況下の「普通」の大切さを読み取り、自分の「居場所」で精一杯生きようと結論付ける、本の内容にふさわしい感想文となっていた。

来年もぜひ高校時代にしかできない読書体験をしてほしい。そして素晴らしい感想文が多数応募されることを祈っている。

## ●課題読書

『課題読書』の部では、この一年以内に発行された本から、ＳＬＡ(全国学校図書館協議会)が選定した三冊を対象とした「感想文」を審査する。今年はここ数年で最も少なく、二十三校、六十四編の応募であった。(昨年度は、三十二校から八十二編の応募があった。近年は、八十編前後で推移している。)

今年の応募作品数は、「わたしがいどんだ戦い1939年」が二十編、『車いす犬ラッキー　捨てられた命と生きる』が二十一編、『いのちは贈りもの　ホロコーストを生きのびて』が二十三編と、ほぼ同数であった。最優秀賞一編、優秀賞四編の内訳は、「わたしがいどんだ戦い1939年』が、最優秀賞と優秀賞一編、『車いす犬ラッキー　捨てられた命と生きる』『いのちは贈りもの　ホロコーストを生きのびて』が、優秀賞一編ずつである。

今年の最優秀作品は、『わたしがいどんだ戦い1939年』を読んだ、河内花さんの作品である。「自信を持てない自分を変えたい」という思いは、主人公エイダと自分に共通する課題だという。向上心を原動力に困難を乗り越えていくエイダの姿に触発され、自分を信じ挑戦する勇気をもらった、と語る。感想文としては定型ながら、母親とエイダの関係性、虐待とトラウマ、愛による救済や再生など、複数あるテーマのいずれにも言及しており、深く読み込んでいる点で、群を抜いていた。整然とした筆致と高い文章力で読ませる、印象深い作品である。

一方、逆境にくじけぬエイダの強さに焦点を当て、絆をテーマに描いたのが、優秀賞の満南菜子さんである。自分の実体験と照らし合わせ、人が生きる拠り所になるのは、自分の居場所・存在価値を実感することだと語る。エイダが母親の呪縛から解き放たれ自由になるまでの、「葛藤・逡巡・迷い」等に触れていない点で、やや難があるものの、「私が私らしくあるために、戦い続ける」という誓いをはじめ、読後感爽やかな作品であった。

もう一人の優秀賞は、江口知春さんである。心を閉ざしていたエイダが、疎開先で出会った人々の優しさに触れ、次第に心を開いていく過程を、丁寧に辿った作品である。母親の虐待により、他者の愛情を素直に受け入れられなくなった主人公の心の痛みに寄り添いながら、「真の家族」とは何か、考えを深めている。切り口がやや平板であることは否めないが、「愛や信頼を基盤とした生き方をしたい」という、素直な書きぶりには好感が持てる。

『いのちは贈りもの　ホロコーストを生きのびて』の優秀賞は、有友遥香さんである。ホロコーストの実態を記録した手記であるが、幼少期の日記と記憶に基づく体験談だけに、感想文としては、最も難易度が高かったのではないか。大半が予定調和のごとく、残虐非道なホロコースト批判、苦難を乗り越えた著者一家礼賛の域を出ないものであった。

その中で、有友さんの作品は(「託されたもの」という題名にもあるように)、想像を絶する苛酷な環境下で生きのびた人々の証言を、自分たちに託されたメッセージと捉え、自身の問題として考えられていた。今を生きる私たちが、そこから何を学び、どう後世へと伝えていくか、私たち一人一人にできることは何かを、真摯に考えている。身近な日常生活に、ホロコーストと軌を一にする考え方が潜む危険性を問題提起し、我々の意識変革にまで思いを致している点で、他と一線を画しており、この作品群の中では、出色の出来であった。

もう一編の優秀賞は、『車いす犬ラッキー　捨てられた命と生きる』を読んだ、武村優希さんである。ドキュメンタリーであり、テーマも、タイトルの『捨てられた命と生きる』そのものである。いきおいどの作品も、表層的な次元にとどまる中、武村さんは、命をつなぐために「他の動物を殺して食べ」ざるを得ない人間の性と、(動物を含め)他者の命を尊重することが、人間にとっても優しい社会になり得る、という独自の視点を打ち出した点が特徴的であった。

また、地元で甚大な被害が出た「西日本豪雨」の記述は、「課題読書」「自由読書」問わず散見されたが、武村さんの感想文に関しては、必然性のあるものとして、有効に機能したのではないか。

本年度の「課題図書」は奇しくも、二作が外国作品で、(メインテーマか否かの差違はあるものの)「戦争」を扱った『戦争物』、残り一作が、「車いす犬」についての『ノンフィクション・書き下ろし』であった。こうした作品 は読みやすい反面、ともすれば、「戦争はいけない」「命を大切に」といった紋切り型の感情論、観念論に終始してしまうきらいがある。本のテーマを自分の中に落とし込み、いかに自分自身の問題(自分事)として咀嚼し、向き合っていくかが、問われると思う。

本を読むことは、著者の世界観を追体験すると共に、新しい視野を育み、自分の内面と向き合う作業でもある。そこには必ずや、何らかの発見や気づき、内面の変容や成長が見られるはずである。夏休みの課題として、とかく敬遠されがちな「感想文」ではあるが、自身の言葉で表現する作業を通して、自らの思いを整理し、自覚的に考える契機としてみてはいかがだろう。

自由読書の審査概評

岡山県立邑久高等学校教諭　若狭　真司

課題読書の審査概評

倉敷市立玉島高等学校教諭　柳井　典子

# 第30回読書感想画岡山県コンクール

## Ⅰ　日　程

6月21日（木）　応募要項配布
　　第1回支部事務局長会議席上
1月 10日（木）　応募締め切り（必着）
応募先・事務局　＊小学校･･･岡山市立建部小学校
　　宮尾　勅香
　　＊中学校･･･倉敷市立東中学校
　　藤井　雅美
　　＊高　校･･･岡山県立倉敷古城池高等学校
　　末吉未加子
1月11日(金)　小学校の部審査(岡山市立建部小学校)
　　中学校の部審査（倉敷東中学校）
　　高等学校の部審査
　　(岡山県立倉敷古城池高等学校)

## Ⅱ　県審査員

県SLA会長　土家　槇夫　岡山県立倉敷青陵高等学校長
副 会 長　山本　義人　岡山市立千種小学校長
〃　藤井　隆　岡山市立高松中学校長
審査委員　山下　真季　岡山市立大野小学校
〃　真賀　典子　岡山市立牧石小学校
〃　田村　敬子　岡山市立南輝小学校
〃　有森　満美　岡山市立古都小学校
〃　有森　　香　岡山市立操明小学校
〃　中野　博充　岡山市立東疇小学校
〃　難波伊津美　岡山市立福島小学校
〃　田中　満史　岡大馬屋上小学校
〃　上岡　弘明　岡山市立庄内小学校
〃　宮尾　勅香　岡山市立建部小学校
〃　麻田　邦彦　岡山市立建部小学校
〃　大森　祐奈　岡山市立建部小学校
〃　金島ゆかり　岡山市立建部小学校
〃　稲田　智恵　岡山市立岡山中央中学校
〃　岩井　佑樹　岡山市立岡山後楽館中学校
〃　三宅　綾子　倉敷市立多津美中学校
〃　川井　益美　倉敷市立多津美中学校
〃　眞賀　芳郎　岡山市立瀬戸中学校
〃　藤井　雅美　倉敷市立東中学校
〃　井口　　敬　倉敷市立庄中学校
〃　藤井　弓子　倉敷市立北中学校
〃　澁谷　奈津子　岡山市立高松中学校
〃　河本　昭政　岡山県立岡山朝日高等学校
〃　高取　亨一　岡山県立瀬戸高等学校
〃　新谷　浩二　岡山県立倉敷南高等学校
審査委員　難波　二郎　岡山県立笠岡商業高等学校
〃　太田　　淳　岡山県立倉敷古城池高等学校

## Ⅲ　結　果

1）応募作品数・応募学校数

| 区　　分 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|---|---|---|---|
| 小 学 校 | 901点/23校 | 821点/26校 | 1,137点/26校 |
| 中 学 校 | 101点/10校 | 93点/17校 | 109点/13校 |
| 高等学校 | 33点/8校 | 30点/8校 | 36点/8校 |
| 計 | 1,035点/41校 | 944点/51校 | 1,282点/47校 |

2）最優秀賞受賞者

**小学校低学年の部・自由**
岡山市立御南小学校　２年　戸光　楓子
岡山市立南輝小学校　２年　岩脇　心咲
**小学校低学年の部・指定**
倉敷市立庄小学校　１年　槙野　翔太
岡山市立南輝小学校　３年　尾田　心樹
**小学校高学年の部・自由**
倉敷市連島西浦小学校　５年　沖　メイ子
倉敷市立二万小学校　６年　野口　温生
**小学校高学年の部・指定**
倉敷市立庄小学校　４年　槙野　愛莉
お香山私立三門小学校　４年　雲岡　希志乃
**中学校の部・自由**
倉敷市立庄中学校　３年　難波　帆波
岡山市立岡山中央中学校　３年　桐野　智丸
**中学校の部・指定**
倉敷市立庄中学校　３年　今井　桃花
倉敷市立味野学校　２年　向井　詩乃
**高等学校の部・自由**
岡山県立倉敷南高等学校　１年　髙田　千尋
岡山県立倉敷中央高等学校　３年　守谷　香穂
**高等学校の部・指定**
岡山県立邑久高等学校　２年　山根　　楓
岡山県立総社南高等学校　１年　松田　乃音

3）第３０回読書感想画中央コンクール入賞者

**小学校高学年の部　自由図書　優秀賞・学校賞**
倉敷市立連島西浦小学校　５年　沖　メイ子
**中学校低学年の部　指定読書　優良賞・学校賞**
倉敷市立庄中学校　３年　今井　桃花

## Ⅳ　審査の結果

**【小学校の部】**

岡山市立建部小学校　宮尾　勅香

○　審査事務の流れ

第３０回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は２６校と前年度並、応募作品総数は増えて１１３７点であった。そのうち、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品１０１点が県コンクールに出品された。

審査会は，１月１１日（金）に岡山市立建部小学校で行った。図画工作・国語等に造詣の深い９名の先生方にお集まりいただき，厳正かつ慎重に審査をしていただいた。今年、審査員を初めてお願いした方もあったが、ベテラン審査員の方々との審査過程のやりとりの中で「大変勉強になった」とのありがたい言葉もいただくことができた。また、司書の尽力により、可能な限りの感想画の図書を収集し、５０音順に並べるなどの工夫で参考図書を見ながらの審査がスムーズに行われた。

３学期はじめのご多用の中、ご協力くださった審査員の先生方に心より感謝申し上げる。

| | 自由読書 | 指定読書 |
|---|---|---|
| 最優秀 | 低２点　高２点 | 低２点　高２点 |
| 優　秀 | 低６点　高６点 | 低６点　高５点 |
| 入　選 | 低２０点　高７点 | 低４点　高４点 |

【最優秀作品】

自由読書・低学年

指定読書・低学年

自由読書・高学年

指定読書・高学年

○　審査概評・今後の課題等（※審査員の声を総括）

【発達段階】

・低学年の作品はかわいらしく、自由な発想に色塗りのクレパスや絵の具の技法を生かした作品が多かった。高学年になると、技巧と丁寧さ・根気強さが加わっていた。また、絵を描くことが好きだという思いまで伝わってくる作品が多かった。

【指導法】

・読者感想画の指導法についての研修や参考になる図書などが充実してくると教師も児童に取り組ませやすくなるのではないか。

・授業の中で読書感想画を年間計画の中に組み込ませるのは厳しい面がある。何らかの工夫が必要ではないか。

・作品をかく前に、しっかりと思いを膨らませてやることが大切である。また、その思いを表現できる技法を身に付けさせておくことが必要である。

【挿絵の引用について】

・特に低学年の場合、挿絵を参考にしたり、そのまま用いたりしていることが多く、残念である。また、そのことについて全く無視もできないのが難しいところだ。

【審査について】

・絵画教室で描かれていると思われる作品についてどう審査すべきか悩ましい。

【募集について】

・募集時期が夏休みにかかるようにしたら作品数が増えていくのではないか。

読書感想画に取り組むことにより、伝え合う力、想像力、表現力、読書に親しむ態度など今後一層求められ、様々な能力や態度の育成が期待できる。このコンクールの趣旨やよさを一層啓発し、各学校で積極的に取り組み、本コンクールが一層、発展・充実していくことを期待している。

【中学校の部】

倉敷市立東中学校　藤井　雅美

○　審査事務の流れ

募集要項に基づき、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品が、コンクールに出品されました。

本年度は、参加校１３校、全応募作品数１０９点、県コンクールへは５７点の作品が応募されました。

審査会は1月１１日（金）午後２時から、倉敷市立東中学校図書館にておこないました。県内の国語科・美術科担当の９名の先生方に審査をお願いし、厳正な審査の結果､最優秀作品４点を中央コンクールへ出品しました。審査を担当して下さった先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

〇審査概評・作品について

・指定図書は毎年少ないが、特に今年はぐっと減っていたので気にかかる。取り掛かる時期が遅くなるため、作品を読み込んだり構成を練るのに時間がとれないままに作品を進めなければいけないということもあるかと思う。毎年のことだが、夏休み明けあたりには図書を決めてもらえるとありがたい。

・自由図書は今年はレベルが高く、粒ぞろいであったと思う。入選作品も質が低かったわけではなく、よくかけていた。

・上位各品は明らかに描き込みや、工夫が一段と異なり、多くの作品の中でも目立っていた。また、全体の応募作品は少なめであったが、次点の作品や、入選作品でもそれぞれ、色づけや工夫に独自のものが感じられた。

・自由、指定ともに勢いのあるしっかりとした想いを描いた作品であると感じました。年々アニメ、マンガ風なタッチが増える中において、絵というものの本来の形、読み手がその作品を通して感じたものをストレートに絵におこしている作品が最優秀賞に選ばれていることが、難しさでもあり、おもしろさでもあると思います。

･過去の最優秀賞の作品を見ると一場面的なものが多く、読書感想画というのであるならば、ある程度ストーリーが読み取れるような作品も選ばれるとよいのではと感じます。

・作品は、密度の高いものとそうでないものとの差があるように思う。本の内容を生徒がしっかり読み込み、掘り下げて表現できるようにすれば、ずいぶん質が向上するように思います。

・構図が工夫されている作品が多く、話をどう１枚にまとめるかよく考えていた

・細かく丁寧に時間をかけて描かれていたものが目を引いた。逆にイラスト(マンガ)的なものや、水彩画のようなものもあり、もう少し時間をかければよい作品になるのに思った。どこを切り取ってくるとか、ストーリーをまとめるのは大変なことだと思った。

・作品の〆切が冬休みあけにしてもらえたら作品がもっと集まると思う。特に指定の作品は、制作する時間が短く大変だと思う。

・物語の場面描写より絵画としての完成度が優先されるとのことであったが、基礎的なデッサン力や構成力が重要であると改めて感じた。マンガやアニメ的表現も散見されるが、水彩絵の具やポスターカラー以外の画材の活用も可能性が高いと感じる。今回も水性ペンやコピック、貼り絵など自由な画材で描いた作品が高い評価を得たものもあった。

・昨年度よりは、ホラー系の感想画の分量が減り、ほっとしました。良書を選ぶことから読書感想画の審査への対策は始まると自覚し、司書の先生方のお力を借りながら「どの図書で描くか」をまず吟味してください。絵の中に塗り残し(例：白い部分等)があると、上位入賞は難しいので、丁寧に塗るように心がけましょう。

◇　今年度は参加校が減少しましたが、全応募作品総数は昨年度に比べて、１６点増えました。参加作品が少なくても応募してくださる学校もあるので、たとえ作品が少なくても応募していただき、さらに参加校が増えることを期待しております。

また、指定図書作品の応募数が少ないとの声が多く聞かれ、生徒が夏休みを利用して読書や作品制作に励むことができるよう、指定図書の発表を早くして頂きたいとの要望がありました。

今年度もコンクールに応募・参加してくださった多くの学校の先生方に御礼申し上げます。来年度も、さらに多くの学校や生徒の皆様が、このコンクールに取り組んでいただけるよう、ご協力よろしくお願いいたします。

【最優秀作品】

**自由読書**

「希望の雫」

「ワルテルがつないだ絆」

指定読書

「寄り添う三匹」

「自分を取り戻す旅」

**【高等学校の部】**

岡山県立倉敷古城池高等学校　　太田　淳

**○審査事務の流れ**

読書感想画岡山県コンクールは，２００４年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き，県ＳＬＡ事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配付し，支部内の各校への要項配付と説明を支部事務局に依頼した。９月末には中央コンクールの募集要項が配付され，指定図書が発表された。『１００年の木下で』（杉本りえ・著，佐竹美保・画），『ヒトラーと暮らした少年』（ジョン・ボイン・著，原田勝・訳），『キツネのパックス：愛をさがして』（サラ・ペニーパッカー・作，ジョン・クラッセン・絵，佐藤見果夢・訳），『極北へ』（石川直樹・著），『正義の声は消えない：反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たち』（ラッセル・フリードマン・著，渋谷弘子・訳）の５冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

１月９日（水）に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

**〈コンクール応募総数〉**

| 応募校数 | 自由読書 | 指定読書 | 作品合計 |
|---|---|---|---|
| ８校 | ２７点 | ４点 | ３１点 |

岡山県コンクール審査会は，１月１１日（金），倉敷古城池高等学校の会議室で行われた。国語・理科・美術の担当教諭で，特に学校図書館に造詣の深い４名（備前支部２名，備中支部２名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後，指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手元に用意し，作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどがないか，対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認し，厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果，自由読書２点，指定読書２点，計４点の最優秀作品を決定し，中央コンクールに出品することができた。

**〈受賞作品数〉**

| | 自由読書 | 指定読書 |
|---|---|---|
| 最優秀 | ２点 | ２点 |
| 優　秀 | ２点 | １点 |
| 入　選 | １１点 | １点 |

**○審査概評・今後の課題**

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

・全体的に暗い絵が多い気がするが，最優秀作品はどれも明るく元気な高校生らしい作品が選ばれた。
・場面をそのまま描くのではなく，その作品・場面から直感的にイメージされた抽象的な作品が多かった。表現力という点でレベルが高かったと思う。
・指定読書の部については，“戦争”を時代背景とした図書が多く，その中で高校生たちが読後のイメージを視覚化し，創意工夫された作画をしていた。
・自由読書の部については，思春期の不安や心情に重ね合わせたテーマをもつ図書の中から，自由な発想で作画した作品が多かった。
・絵を通して人に伝えるという面が少し弱い。見た人にも世界が拡がるような作品を描けば素晴らしいものになるのではないか。
・読書をして，強く感動すればするほど，素晴らしい作品が出来ると思う。
・応募校数が少ないのが残念。
・読書感想文に比べて，読書感想画はあまり一般的ではない印象がある。
・募集要項と一緒に，県コンクールの優秀作品の写真を紹介すると良い。

【最優秀作品】

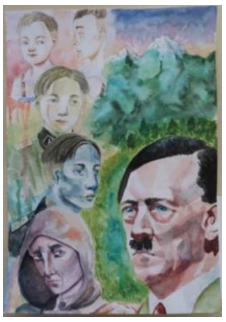
**自由読書**

「無垢」

「少年の大罪」

指定読書

「戦争の傷跡」



「少年の旅路」

# 絵　本　研　究　部　会

## １．平成３０年度の活動状況

本年度は22年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマで特にかこさとしさんの絵本を中心に研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り，報告し合いました。

また，かこさとしさんの絵本とともに歴史的背景やかこさとしさんの人生について研究し，読み継がれる理由や絵本の魅力について考え，話し合いました。

紹介文研究も引き続き進めており，毎年発行している「読み聞かせたい絵本」は№３５を発行・配布しました。

## ２．研究部会絵本研究部会設置要綱

（1）設置について

岡山県学校図書館協議会規約第４条２項により，絵本研究部会を設置する。

（2）目　的

この部会は，絵本の指導のあり方を研究し，児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

（3）活　動

①毎月に開く部会で，研究する内容

ア．絵本の見せ方・選び方

イ．絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方

ウ．絵本作りのあり方

エ．その他　絵本研究のための必要な活動

②研究成果の発表

ア．各郡市地区事務局を通じての内容紹介

イ．研究収録への収録

ウ．研究大会での発表

エ．その他　絵本実践を推進するための発表

（4）構　成

①（部員の委嘱）

部員は，地区組織を通して募集し，会長が委嘱する。

②（部員数）

部員の人数は約10名とし，幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

## ３．平成３０年度絵本研究会委員

（敬称略　順不同）

| | | |
|---|---|---|
| 部会長 | 山本　義人 | 岡山市立千種小学校長 |
| 事務局長 | 酒本　薫 | 岡山市立江西小学校教諭 |
| 研究員 | 六車　美加 | 岡山大学教育学部附属幼稚園教諭 |
| 〃 | 篠　崇敏 | 岡山市立鹿田幼稚園教諭 |
| 〃 | 枝松　尚美 | 岡山市立高島小学校教諭 |
| 〃 | 難波　真 | 倉敷市立南中学校教諭 |
| 〃 | 遠藤　裕美 | 倉敷市立南中学校教諭 |
| 〃 | 山本　泉 | 岡山市立後楽館高等学校教諭 |
| 〃 | 高槻　美保 | 岡山県立玉島商業高等学校教諭 |
| 〃 | 岡部　香 | 岡山県立倉敷商業高等学校 |

## ４．今年の取り組み

今年度はかこさとしさんの絵本を中心に研究してきました。

そして，県大会に向けた１年として，「心をつなぐ絵本」というテーマの元実践を重ねていきました。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう，得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために，今後も紹介文研究も引き続き進めていきます。

# 読み聞かせたい絵本　No.３５　2018.12

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では，「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと「読み継がれる絵本」を中心に研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から，読み聞かせたい絵本をお知らせします。

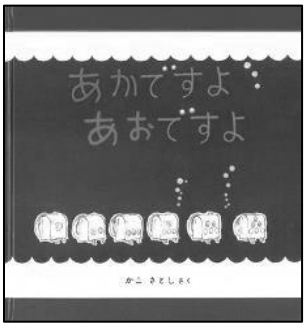
書　名
著　者　　出版者　本体価格　出版年　実践学年

おたまじゃくしの１０１ちゃん
かこさとし　作・絵　　偕成社　　￥1,000　1973　幼～高

いちべえぬまに生まれた１０１ぴきのおたまじゃくしたち。みんなで遠足に出かけます。ところが，１０１ちゃんがいなくなってしまい，さがしに行ったおかあさんもピンチに。みんなが力をあわせてピンチをきりぬけて‥‥‥。春らしい色遣いと生き生きとした表情にも注目です。

うつくしい絵
かこさとし　作・絵　偕成社　　￥1,400　1974　小高～高

ダビンチ，ゴッホ，北斎，ピカソなどの世界の巨匠たちの作品を通して，美しさとは？なぜ美しいのか？をわかりやすく読者といっしょに考えていく美術の入門書的な絵本です。やさしく平易な言葉で子供を「子供扱い」せず，かこさんが大切に思うこと，伝えたいことを語りかけてくれます。



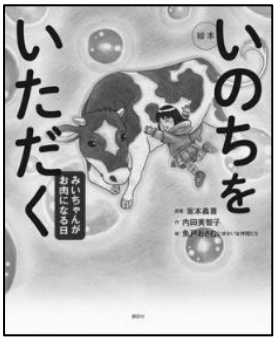

あかですよあおですよ
かこさとし 作　　福音館書店　　￥900　　2017　幼～高

ここは海の中の学校，たこの子供たちがみんなで勉強しています。先生が「赤色の絵を描きましょう。」というとみんな思い思いに赤色のものを描きます。次々と，いろんな色の絵を描いていきます。青，黄，茶‥‥‥。そして，最後の色は何かというと？もうわかりましたね。

**万次郎さんとおにぎり**

本田いづみ　文　　福音館書店　　￥900　　2018　　幼～中
北村人　絵

　万次郎さんの田んぼではたくさんのお米がとれました。万次郎さんが，とれたお米で大きなおにぎりを 10 個つくると，おにぎりは外へ飛び出して行きます。向かった先は‥‥‥？お日様や秋の実りに感謝したくなるような心温まる一冊です。




**絵本　いのちをいただく　みいちゃんがお肉になる日**

坂本義喜　原案　　内田美智子 作　　講談社　　￥1,400
魚戸おさむとゆかいななかまたち　絵　　2013　　幼～小高

　僕のお父さんの仕事は肉屋。担任の先生からその仕事の大切さを説かれた僕は，お父さんの仕事に関心を持つ。一方、お父さんは牛を育てた人の思いに触れて，改めて牛の「命を解くこと」を考える。命をいただくという意識が薄れがちな現在、改めて命に感謝する気持ちがわいてくる絵本です。

**ホームランを打ったことのない君に**

長谷川集平　作　　理論社　　￥1,200　　2006　　小高～高

　野球少年ルイはホームランを打つことを夢見る。そのためには力を付けることが必要だ，と仙ちゃんに教えられて，まずはヒットを目指す。仙ちゃんは事故に遭ってもリハビリを重ね，ホームランを打つことを諦めていないと言う。さらりと読んだ後，何が言いたいかを考える。目立たなくても頑張ることはかっこいいことなのか‥‥‥。スポーツの好きな子にどうぞ。

**はなびのひ**

たしろちさと　作　佼成出版社　　￥1,300　2018　　幼～高

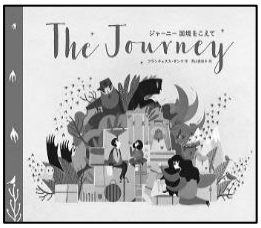
　今日は待ちに待ったお江戸の花火大会です。たぬきのぽんきちは，お母ちゃんにたのまれて花火職人のお父ちゃんに夜食を届けに出かけます。花火を待ちわびているぽんきち家族や，江戸の町のみんなの「わくわく」が伝わってくる下町情緒いっぱいの和風絵本です。

**あおのじかん**
イザベル・シムーレル　文・絵　　岩波書店　　￥1,700
石津ちひろ　訳　　2017　小～高

太陽が沈み，あたりはうっすらと「あお」くなり，「あおのじかん」のはじまり。はじまりを告げるのはアオカケス。青と白の羽が輝く。青の光を浴びてホッキョクギツネがゆっくり歩く。時間の経過につれて様々な青に彩られ，繊細な色遣いの鳥や動物、花々が青の時間に息づく。そして、青がだんだん濃くなり，やがて夜が始まる。美しい絵本です。

**すいかのプール**
アンニョン・タル　作　岩波書店　　￥1,700　　2018　幼～中
斎藤真理子　訳

村の人たちが毎年楽しみにしているのは「すいかのプール」。さっくさっく足を踏み入れる感触，ぐしゅっと割れる瞬間など，読んだ人たちが実際にすいかのプールで遊んだ気分になれます。やさしい色合いとほのぼのした絵が素敵な，韓国の絵本です。




**ジャーニー国境をこえて**
フランチェスカ・サンナ　作　　きじとら出版　￥2,000
青山真知子　訳　　2018　小中～高

戦争に生活を奪われ，生まれ育った自分の国から見知らぬ国へと，安全な場所を求めて旅に出る母親と子どもたち。作者は，ヨーロッパに住む難民家族へのインタビューを重ね，その苦難や思いの証としてこの絵本を作りました。「難民問題」として一括りにできない，苦境にある一人ひとりの人生に思いを寄せるきっかけになる作品です。

**ねこいぬちゃん**

のぶみ 作　　ＷＡＶＥ出版　　￥1,400　2015　幼～小

犬がほしいかんたろう，猫がほしいあんちゃん，二人の願いをかなえたのはママが連れてきた「ねこいぬちゃん」。「ねこいぬちゃん」は「ニャワン」と鳴きます。それは「ねこいぬちゃん」の優しい心からでた言葉です。ゴロゴロ言って，しっぽをふる「ねこいぬちゃん」。かわいい絵とやさしい気持ちがいっぱいの絵本です。

**なつみはなんにでもなれる**

ヨシタケシンスケ　作・絵　　ＰＨＰ研究所　　￥1,000
2016　　幼～高

なつみは寝る前に「すごくいいこと」を思い付きます。自分がまねをしてお母さんが当てるゲームです。次々と問題を出しますが, お母さんは当てることができません。そして,最後には‥‥‥。親子のやりとりがほほえましく，なつみのユーモアあふれるセンスと発想に脱帽です。

**またまた　ねえ,どれがいい？**

ジョン・バーニンガム 作・絵　　評論社　　￥1,500
松川真弓　訳　　2018　幼～高

『ねえ、どれがいい？』から 35 年。なんと続編が出ました。「ねえ、どれがいい？クマとあさごはん？ライオンとひるごはん？アヒルとばんごはん？」子供たちといっしょに楽しめる絵本です。「選べない。」という究極の選択もあります。

# 優　良　図　書　研　究　部　会

## １　活動内容

当部会では、５月、６月、８月、１０月、１１月、２月の年６回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の４グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでみたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和５５年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年３月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、３冊ずつを選んでいます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

## ２　選定基準

１　内容事項

（１）教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。

（２）　子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか

（３）分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じているかどうか。

イ）統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ）より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ）事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。

ニ）引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ）翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ）断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあものであるかどうか。

（４）　主題を単に解説したものはとりあげない。

２　編集・出版事項

（１）　短編集は採用しない。

（２）　多くの合さんのものは採用しない。

（３）　新刊書であること。

（４）　辞典、事典類は採用しない。

（５）　シリーズ全巻を対象としない。

３　図書群の構成事項

（１）　特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

（２）小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

４　装丁・体裁事項

（１）製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。

（２）用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

## ３　優良図書研究会部員

部　会　長　　山本　義人　岡山市立千種小学校長

部会事務局長　酒本　薫　　岡山市立江西小学校教諭

＜部会員＞

小学校の部

木下　由布子　岡山市立興除小学校教諭

尾島　朋子　　岡山市立第三藤田小学校司書

小川　薫　　岡山市立芳田小学校教諭

森　友佳子　　岡山県立図書館主事

勝浦　由子　　岡山市立加茂小学校教諭

中学校の部

稲田　　智恵　岡山市立岡山中央中学校教諭

村上　　詩織　岡山市立灘崎小学校司書

片岡　　史昭　岡山市立上道中学校教諭

岡本　　大典　倉敷市立琴浦中学校教諭

川井　　益美　倉敷市立多津美央中学校教諭

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成３０年　７月

# みなさんにすすめたい

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

岡山市教育委員会
岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで，楽しい時間を過ごしてください。

**〈おうちのかたがたへ〉**

保護者が子どもに本を読むことは，読書に親しむ基礎づくりになります。また，読書をすすめることにより，心が通じ合い，対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうていがくねんむ
## 小学校 低学年向き

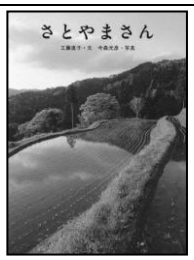
| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | ふじもと　みさと | ひみつの きもち ぎんこう<br>かぞくつうちょう できました | 金の星社 | ９６ページ<br>１２９６円 |

みなさんはかぞくにやさしくできていますか。しゅじんこうのひかるがかぞくをこまらせたとき，あたまの上で「ジャラーン！」と音がしました。それは「かぞくつうちょう」に青コインが入る音。つうちょうが青コインでいっぱいになったとき，ひかるのかぞくはどうなってしまうのでしょうか。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 山本　悦子／作<br>下平　けーすけ／絵 | おかわりへの道 | PHP 研究所 | ７９ページ<br>１１８８円 |

かすみは，たんにんの先生が給食（きゅうしょく）の あまったごはんで作ってくれるおむすびをおかわりしたくてたまりません。食べるのがおそいかすみに，友だちのげんちゃんとちなちゃんが力をかします。かすみはぶじにおかわりをすることができるのでしょうか。みなさんもいっしょにおうえんしましょう。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| E | 工藤　直子／文<br>今森　光彦／写真 | さとやまさん | アリス館 | ４０ページ<br>１６２０円 |




みなさんは「さとやま」をしっていますか。いろいろな草・木・花そして虫のすがたに出会うことができますよ。「さとやまさん」とやさしくよびかけたくなる本です。ぜひ本をひらいて「さとやま」のせかいに出かけてみましょう。

## 小学校中学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | いまむら　あしこ | **なきむし** | 理論社 | ９１ページ<br>１２９６円 |

この本に登場する二人の主人公，「なきむし」と「きかんぼ」みなさんの周りにも，この二人によくにたお友達がいるかもしれません。友じょうってどうやってめばえるのか。そだっていくのか。自分や自分の周りと重ねてみてください。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 010 | かこ　さとし | **ほんはまっています<br>のぞんでいます** | 復刻<br>ドットコム | ３１ページ<br>１９４４円 |

「あなたはほんがすきですか。」「よみたいほんはありますか。」まるで，かこさとしさんとお話をしているように物語が進みます。「たくさん本を読みたい。」「本って楽しい。」と，心を温かくしてくれる一冊です。ぜひ一度手に取って，かこさんとお話をしてみてください。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 914 | やまざき　ひろし | 答えのない道徳の問題<br>**どう解く？** | ポプラ社 | ９１ページ<br>１６２０円 |

「ついていいうそと　ついちゃいけないうそって　どうちがうんだろう？」など，答えのない様々なぎもんについて考えるきっかけになります。みなさんならどう考えますか。周りの人と話してみてもいいですね。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 641 | 佐藤　慧 | **しあわせの牛乳** | ポプラ社 | １７５ページ<br>１２９６円 |

この本に出てくる中洞さんは，子どものころから牛飼いになるのが夢（ゆめ）でした。夢をかなえるため，自分のできることは全て挑戦（ちょうせん）しました。少しずつ夢がかなっていくと同時に，次々と困難（こんなん）も待（ま）っています。中洞さんの夢がかなっていくまでの道のりをぜひ読んでみてください「夢は自分しだいでかなえることができる。」という気持ちになれますよ。

## 小学校高学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 工藤　純子 | **となりの火星人** | 講談社 | ２２２ページ<br>１５１２円 |

かえでは、みんなと同じようにできないことを悩んでいけました。でも、そんなふうに悩んでいたのは、かえでだけではありませんでした。人と違う自分と、どのように向合えばよいか、考えられる１冊です。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 933 | ジャッキー・フレンチ | **ヒットラーのむすめ** | 鈴木出版 | ２２９ページ<br>１７２８円 |

マークたちが始めた「お話ゲーム」。そのゲームの主人公がヒットラーのむすめになった日から，マークの頭の中に様々な疑問が浮かぶ。多くの人が正しいと思っていても，自分が間違っていると思っていたら，どうしたらいいだろうか。第二次世界大戦は終わった。しかし，今でも同じような苦しみを抱えている人がいることを，マークと一緒に考えてほしい。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 369 | 別司　芳子 | **髪がつなぐ物語** | 文研出版 | １５９ページ<br>１４０４円 |

「ヘアドネーション」とは，髪を寄付することで子どもでもできるボランティアです。１つのウィッグを作るには，２～３０人分必要だそうです。髪を提供する人，必要とする人それぞれに物語があります。子どもたちの思いを読んでみてください。

## 中学生向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 吉田　桃子 | ラブリィ！ | 講談社 | ２２８ページ<br>１４０４円 |

中学２年の拓郎は，ブスの同級生涼子を主演とした映画で，審査員特別賞をもらう。見た目にこだわる世の中に，疑問を投げかける拓郎の素直な心情に，あなたもきっとキュンとくるはず。明るくさわやかな，前向きになれる一冊です。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 933 | サラ・ペニーパッカー | キツネのパックス<br>愛をさがして | 評論社 | ３４２ページ<br>１６２０円 |

ピーターは子ぎつねを助け，パックスと名付けた。それ以来ずっと一緒に生きてきたが，別れを選ばなければならなくなり…。

１人と１匹が運命に立ち向かう姿に心を打たれる１冊です。躍動感に満ちたキツネの描写も魅力。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 334 | 今泉　みね子 | ようこそ、難民！<br>100 万人の難民がやってきたドイツで起こったこと | 合同出版 | １７１ページ<br>１６２０円 |

困っている人を助けたいという思いと，自分たちの暮らしが壊されるのではないかという不安で揺れる難民問題。大量の難民がやってきた背景とは？１００万人もの難民がやってきたドイツで，実際に起こったこととは？遠くの出来事に思いがちなこの問題の身近さが感じられます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成３０年　１２月

# みなさんにすすめたい本

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**岡 山 市 教 育 委 員 会**
**岡山県学校図書館協議会**

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで，楽しい時間を過ごしてください。

**〈おうちのかたがたへ〉**

保護者が子どもに本を読むことは，読書に親しむ基礎づくりになります。また，読書をすすめることにより，心が通じ合い，対話がよりいっそうふえることになります。

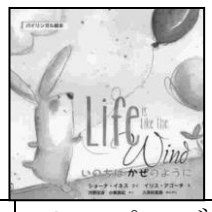
## 小学校（しょうがっこう） 低学年向（ていがくねんむ）き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | ななもり　さちこ | **こだぬきコロッケ** | こぐま社 | ７２ページ<br>１２９６円 |

化（ば）けるのがへたで，毎日おこられてばかりのこだぬきポン吉（きち）と，人間（にんげん）がこわくてしかたないオオカミが出てきます。２人は茶色（ちゃいろ）くてまるいおいしいもの(コロッケ)を食（た）べるために人間（にんげん）の村に行くことにしました。２人はぶじにコロッケを手に入れることができるのでしょうか。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| E | ショーナ・イネス／作<br>イリス・アゴーチ／絵 | **いのちはかぜのように** | バベル<br>プレス | ３２ページ<br>１６２０円 |

あなたは「いのち」についてかんがえたことがありますか？いのちはかぜにに ているのでしょうか。からだからいのちがなくなったあと，たましいはどこにいくのでしょうか。おうちの人といっしょによんでかんがえてみましょう。




| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| E | かんちく　たかこ／作<br>高久　至／写真 | **アザハタ王と海底城（かいていじょう）** | アリス館 | ３５ページ<br>１５１２円 |

大きな魚の王さま「アザハタ」を知（し）っていますか。アザハタは，いつもお城（しろ）や王国をまもるためにがんばっています。お城にすむ海の生きものたちは，色あざやかで目がはなせなくなってしまいますよ。

## 小学校中学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 西村　友里 | **消えた時間割** | 学研プラス | １１７ページ<br>１４０４円 |

毎週配られる時間割に誰のかわからない墨汁が飛び散ってしまいます。気がつくと，その墨汁がついて消えている時間割のところは，本当になくなってしまいました。クラスの中で何人もが，その時間割がなくなっていて…。どうやら偶然ではないようです。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 748 | 長倉　洋海 | **まなぶ** | アリス館 | ３８ページ<br>１５１２円 |

まなぶってなんだろう。たまには，勉強なんてしたくないと思う日があるかもしれません。ですが，地球の別の場所では勉強をすることがとてもきちょうで待ちきれない子どもたちもたくさんいます。人は何のためにまなぶのか。それはいつまで続くのか，考えてみてください。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 949 | リブ・フローデ | **たかが犬、<br>なんて言わないで** | 文研出版 | １４３ページ<br>１５１２円 |

大好きなかい主を亡くした犬。一方で，大好きな犬を亡くした少年。そんな犬と少年がぐうぜん出会う。おたがいになくしたものをうめるように，新たに大切なそんざいになる。犬と少年が出会ったのは，運命だったのかも。命と命がむすびつく心温まるお話。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 933 | ジェニ・デズモンド | **ホッキョクグマ** | BL 出版 | ４１ページ<br>１７２８円 |

ホッキョクグマってどんなところに住んでいるの？オスとメスのちがいは？食べ物は何？どんな子育てをするの？今，絶滅のおそれのあるホッキョクグマについて詳しく知ることができます。

## 小学校高学年向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 市川　朔久子 | **よりみち３人修学旅行** | 講談社 | ２２２ページ<br>１５１２円 |

柊（しゅう），風知（ふうち），天馬（てんま）。３人はそれぞれの事情で修学旅行に行かずに卒業しました。春休み，３人は遠く離れて暮らす風知のお父さんに会いに行くことになりました。旅先で何が起きるのでしょうか。３人にとって，特別な修学旅行となります。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 933 | サイモン・フレンチ | **ひとりじゃないよ、ぼくがいる** | 福音館書店 | ３４９ページ<br>１８３６円 |

大好きな友達が急にいなくなったキーランは，クラスの人気グループの取り巻きとして生活していた。そこに，ワケありの転校生が２人。そのひとりはキーランのいとこだった。２人の転校生とともに，キーランが強く優しい心をとり戻し，成長していく物語。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 440 | 髙橋　真理子 | **星空を届けたい**<br>**出張プラネタリウム、はじめました！** | ほるぷ出版 | １３７ページ<br>１５１２円 |

著者は，病院にプラネタリウムを持っていく「出張プラネタリウム」の活動を行っています。星空を見上げると，「人は勇気づけられたり，気持ちが落ち着いたりする」といいます。みなさんもこの本を読んで，星空を見上げてみてください。

## 中学生向き

| 分類 | 著者名 | 書　　名 | 発行所 | ページ<br>価格（税込） |
|---|---|---|---|---|
| 913 | こまつ　あやこ | **リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ** | 講談社 | １９１ページ<br>１２９６円 |

書名は，マレーシア語で「五・七・五・七・七」のこと。マレーシアからの帰国子女の沙弥が，１学年上の佐藤さんに誘われ，吟行に出掛け始める。マレーシア語が美しい魔法のことばのように散りばめられた物語。多文化とは、と考えるきっかけにも。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 913 | 濱野　京子 | ドリーム・プロジェクト | PHP 研究所 | ２０５ページ<br>１５１２円 |

祖父のために過疎地域の古民家を再生させたい…。中２の拓真は友達と協力してクラウドファンディングに挑戦する。新しい資金援助の仕組みを学びながら，高齢者支援の実態や友達との交流のすばらしさが生き生きと感じられる１冊。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 973 | ファブリツィオ・シレイ | **よくばり学園** | 講談社 | ２０６ページ<br>１５６６円 |

ロンドンに住む拝金主義のスマース夫妻の元に生まれたプリモは，のびのびと農場で育ったため，明るく優しい男の子だ。困っている人にすぐ手を差しのべるため，利己主義を第一とする「よくばり学園」に入学させられる。ところが，変わっていったのは学校のほう･･･。軽い読み口だが，しみじみと考えさせられる１冊。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 680 | 岩貞　るみこ | **キリンの運びかた、教えます**<br>**電車と病院も！？** | 講談社 | ２２１ページ<br>１４０４円 |

意外なものまで運ぶ，運びのプロの仕事を描くノンフィクション。キリンを岩手から東京へ，鉄道車両を日本からイギリスへ，そして治療を続けながら患者と医療器具と病院丸ごと運ぶ･･･。様々な問題と難所を乗り越え挑む！

# 指定図書選定委員会

平成31年3月5日（火），岡山県生涯学習センターにおいて，指定図書選定委員会を開き，平成31年度第65回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。

## 指定図書選定委員

県SLA会長　土家　槇夫　岡山県立倉敷青陵高等学校長
副　会　長　山本　義人　岡山市立千種小学校長
〃　藤井　隆　岡山市立高松中学校長
小教研事務局長　太田　淑子　岡山市立千種小学校
小教研事務局長　酒本　薫　岡山市立西江小学校
中教研事務局長　仁科　恵子　岡山市立妹尾中学校
中教研事務局補佐　佐伯　詩帆　岡山市立福田中学校
県SLA事務局長　王尾　宏造　岡山県立倉敷青陵高等学校
アドバイザー　江尻　寛正　県教育庁義務教育課指導主事（主任）
選定委員　木下由布子　岡山市立興除小学校
〃　尾島　朋子　岡山市立第三藤田小学校
〃　小川　薫　岡山市立芳田小学校
〃　勝浦　由子　岡山市立加茂小学校
〃　森　友佳子　岡山県立図書館
〃　村上　詩織　岡山市立灘崎中学校
〃　川井　益美　倉敷市立多津美中学校
〃　片岡　史昭　岡山市立上道中学校
〃　岡本　大典　倉敷市立琴浦中学校
〃　稲田　智恵　岡山市立岡山中央中学校

## 岡山県指定図書について

1　内　容
読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他，岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

2　目　的
(1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
(2) 何をどう読ませるか，図書の選択や読書指導の手がかりにする。
(3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ，読書生活を豊かにさせる。
(4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。

3　方　法
(1) 岡山県指定図書は，指定図書選定委員会を設けて協議し，決定する。
(2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。
(3) 冊数は，小学校低学年3点，小学校中学年3点，小学校高学年3点，中学校3点とする。

4　その他
(1) 字数，用紙，応募作品，出品数，締め切り，送付先，審査，その他の注意事項については，他の区分の応募要項に準ずる。
(2) 全国コンクールの応募については，自由読書と一緒にして再度審査し，規定どおり出品する。
(3) 岡山県指定図書は，昭和55年度（第26回）から設けている。

平成30年度岡山県指定図書（県指定）

| | |
|---|---|
| 小学校低学年 | **『ぼく、ちきゅうかんさつたい』**<br>松本　聰美（出版ワークス）<br>**『すきなじかんきらいなじかん』**<br>宮下　すずか（くもん出版）<br>**『とらきちのいいところ』**<br>H@L（フレーベル館） |
| 小学校中学年 | **『キワさんのたまご』**<br>宇佐美　牧子（ポプラ社）<br>**『図書館にいたユニコーン』**<br>マイケル・モーパーゴ（徳間書店）<br>**『わたり鳥』**<br>鈴木　まもる（童心社） |
| 小学校高学年 | **『青いスタートライン』**<br>高田　由紀子（ポプラ社）<br>**『ぼくたち負け組クラブ』**<br>アンオリュークレメンツ（講談社）<br>**『世界を救うパンの缶詰』**<br>菅　聖子（ほるぷ出版） |
| 中学校 | **『こんとんじいちゃんのうらにわ』**<br>村上　しいこ（小学館）<br>**『さよなら、スパイダーマン』**<br>アベナル・ピッチャー（偕成社）<br>**『わたしのクマ研究』**<br>小池伸介（さ・え・ら書房） |

# 平成３０年度　岡山県学校図書館協議会事業報告

| | 実　施　事　項 | 期　日 | 会　場 | 内　容 |
|---|---|---|---|---|
| 5月 | 新旧代表役員会及び研修会 | 5/10（木） | 倉敷青陵高等学校 | ・役員の確認<br>・総会提出議案の協議 |
| | 第1回司書部会理事会及び研修会 | 5/15（火） | 倉敷青陵高等学校 | ・学校司書実態調査について<br>・学校司書研修会について<br>・50周年大会について、各地区情勢報告 |
| 6月 | 第69回総会及び研修会 | 6/14（木） | ライフパーク倉敷 | ・平成29年度事業・決算報告<br>・平成30年度事業計画・予算案 |
| | 第1回支部事務局長会議及び研修会 | 6/21（木） | 倉敷青陵高等学校 | ・総会議決事項報告<br>・事務連絡　他 |
| 7月 | 平成30年度岡山県学校司書研修会 | 7/24（火） | 灘崎文化センター他 | ・全体会、分科会、交流会　その他 |
| 9月 | 第2回司書部会理事会及び研修会 | 9/20（木） | 倉敷青陵高等学校 | ・学校司書研修会について<br>・50周年大会について<br>・実態調査について<br>・県への要望について　他 |
| 10月 | 読書感想文コンクール審査準備会及び研修会 | 10/3(水) | 妹尾中学校 | ・審査会準備 |
| | 読書感想文コンクール第1回合同審査会 | 10/9（火） | 倉敷青陵高等学校 | ・審査日程・審査基準について |
| | 読書感想文コンクール第2回審査会 | 10/25（木） | 千種小学校 | ・小中高別の審査 |
| | | 10/25（木） | 妹尾中学校 | |
| | | 10/25（木） | 倉敷古城池高等学校 | |
| 11月 | 読書感想文コンクール最終校正会議 | 11/29（木） | 倉敷青陵高等学校 | ・「読書感想文集2018」最終校正 |
| 12月 | 読書感想文コンクール表彰式及び研修会 | 12/13(木) | 岡山県立図書館 | ・表彰式 |
| | 第3回司書部会理事会及び研修会 | 12/14（金） | 倉敷青陵高等学校 | ・50周年大会、実態調査について<br>・理事未選出地区への働きかけについて<br>・まきび支援学校ボランティアについて<br>・各地区情勢報告　他 |
| 1月 | 第2回支部事務局長会議及び研修会 | 1/10（木） | 倉敷青陵高等学校 | ・平成30年度事業中間報告<br>・事務連絡　他 |
| | 読書感想画コンクール審査会 | 1/11（金） | 建部小学校 | ・小中高別の審査 |
| | | 1/11（金） | 倉敷東中学校 | |
| | | 1/11（金） | 倉敷古城池高等学校 | |
| 2月 | 代表理事会及び研修会 | 2/14（木） | 倉敷青陵高等学校 | ・平成31年度総会提出議案の協議 |
| | 第4回司書部会理事会及び研修会 | 2/25（月） | 倉敷青陵高等学校 | ・平成31年度研究協議会について<br>・50周年大会、実態調査について<br>・各地区情勢報告　他 |
| 3月 | 指定図書選定委員会 | 3/5（火） | 生涯学習センター | ・平成31年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定 |

# 平成30年度　岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 岡山 | 第１回　正・副会長研修会 | 5月24日（木） | 岡輝公民館 | ・平成29年度事業報告・決算報告　　平成30年度事業計画・予算案等 | 12名 |
| | 総会並びに<br>第1回区別研修会 | 5月31日（木） | 御津公民館 | 【総会】<br>・平成29年度事業報告・決算報告　平成30年度事業計画・予算案<br>【区別研修会】<br>・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整) | 192名 |
| | 第１回　理事研修会 | 6月26日(火) | 岡輝公民館 | ・第64回読書感想文コンクール　岡山市一次審査に向けて | 18名 |
| | 第１回　研究部会 | 7月 3日(火) | 岡輝中学校 | ・平成３１年度　県大会について | 11名 |
| | 全体研修会並びに第2回区別研修会 | 7月31日(火) | 御津公民館 | 【全体研修会】<br>・「物語が生きる力を育てる」　ノートルダム清心女子大学　名誉教授　脇　明子先生 | 197名 |
| | 第64回岡山市読書感想文コンクール<br>第一次審査会(区) | 9月11日(火) | 北１区　大元小学校 | ・岡山市二次審査に出品する作品の選考，入賞者作品名簿の作成<br>・各区の応募総数の確認，二次審査の審査員の推薦 | 37名 |
| | | 9月6日(木) | 北２区　蛍明小学校 | | 27名 |
| | | 9月11日(火) | 中区　旭竜小学校 | | 28名 |
| | | 9月13日(木) | 東区　西大寺公民館 | | 27名 |
| | | 9月13日(木) | 南区　小串小学校 | | 38名 |
| | 第64回岡山市<br>読書感想文コンクール<br>第二次審査会(市) | 9月20日(木) | 西大寺公民館 | ・特選(県出品)・金賞・銀賞作品の選考 | 32名 |
| | 第２回　研究部会 | 11月27日(火) | 岡輝公民館 | ・実践報告の発表（特別支援教育に関する図書館利用の取り組み） | 13名 |
| | 第２回理事会研修会 | 12月 6日(木) | 岡輝公民館 | ・第３回区別研修会に向けて | 19名 |
| | 研修会（理事会） | 1月17日(木) | 福浜中学校 | ・第３回区別研修会に向けて | 5名 |
| | 第３回区別研修会 | 1月31日(木) | 北１区　大元小学校 | ・研修会　「推薦図書紹介」 | 184名 |
| | | 1月31日(木) | 北２区　蛍明小学校 | ・研修会「授業や読み聞かせで使用した本の紹介」 | |
| | | 2月 7日(木) | 岡山市立中央図書館<br>（中区、東区　合同開催） | ・図書サービスと著作権の基礎について<br>(県立図書館　職員　吉信　友紀子先生) | |
| | | 1月29日(火) | 南区　小串小学校 | ・研修会「子どもたちの知りたい気持ちを触発する本の紹介」 | |
| | 第３回　理事会研修会 | 3月 1日(金) | 岡輝公民館 | ・読書感想文集代金集金<br>・各区別研修会の反省 | 20名 |
| | 第２回　正・副会長会 | 2月27日(月) | 建部小学校 | ・平成30年度事業報告・平成31年度事業計画案 | 14名 |
| | 第３回　研究部会 | 3月15日(金) | 岡輝公民館 | ・実践報告の発表（特別支援教育に関する図書館利用の取り組み）<br>・県大会に向けて | 15名 |
| | 反省と課題<br><br>・各区別研修会では，研究に向けて実践報告をしたり,研修をしたりすることができた。また，事前に各区で会員の要望を聞いてから研修内容を計画するなど，ニーズに合わせた研修<br>　ができた。<br>・研究については，研究部員が少なく今後増やしていく必要がある。<br>　今年度は「特別支援教育に関する図書館利用の取り組み」について研究を行った。<br>・読書感想文の出品について，書き方や文字数など細かい点も各校へ周知徹底ができていないことがあった。全体の場で，細かいところまで伝えていく必要がある。<br>・賞状の記入ミスがあり、追加配布することが多かった。 | | | | |
| 赤磐 | 小・中合同教研<br>学校図書館部会 | 5月2日（水） | 高陽中学校 | 平成29年度事業報告・平成30年度事業計画・会計予算 | 18名 |
| | 読書感想文コンクール支部審査会および研修会 | 9月11日（火） | 笹岡小学校 | 平成３０年度赤磐支部読書感想文審査会 | 18名 |
| | 反省と課題<br>研修会なども持ち方は、特に問題なかった。読書感想文コンクールの審査会では、応募数もやや減っていた。各校での作文指導も取り入れていく必要もあると感じた。 | | | | |
| 和気 | 第１回和気郡図書館協議会研修会 | 5月1日（火） | 本荘小学校 | 平成２９年度の事業報告と平成３０年度の事業計画について話し合った。 | 4名 |
| | 和気郡読書感想文審査会ならびに研修会 | 9月18日（火） | 本荘小学校 | 書感想文の審査を行い、読書感想文への取り組み状況と課題について、各校の実態を元に、話し合い、研修を深めた。 | 8名 |
| | 反省と課題<br>読書感想文においては、あらすじが大半を占めている作品が多かった。指定図書を読んでいる児童が少なく、選考が難航した。夏休み前に、図書をそろえ、各校で啓発できるようにしたい。<br>各校で、読書を推進するするために、司書の先生との連携を図ったり、朝読書を推進したりする活動を行っている。今後も続けていきたい。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 備前 | 第１回<br>備前市学校図書館部会研修会 | 5月1日（火） | 伊里中学校 | ○平成29年度の事業報告，平成30年度の組織作り・事業計画作成<br>○各校の情報交換 | 15名 |
| | 第１回　司書部会研修会 | 5月1日（火） | 伊里中学校 | ○平成29年度の活動報告，平成29年度の計画立案，小・中学校各部会研修 | 15名 |
| | 第２回　司書部会研修会 | 6月21日（木） | 伊里小学校 | ○おすすめの本の紹介，各校の資料提供，小・中学校各部会研修 | 15名 |
| | 第２回<br>研修会並びに読書感想文審査 | 小学校の部<br>9月13日<br>（木） | 伊里小学校 | ○各校の読書指導情報交換 | 13名 |
| | | 中学校の部<br>9月13日<br>（木） | 備前中学校 | ○読書感想文の審査と反省 | 5名 |
| | 第３回　司書部会研修会 | 9月20日（木） | 三石中学校 | ○おすすめの本の紹介，全体研修の協議，小・中学校各部会研修会 | 13名 |
| | 第４回　司書部会研修会 | 12月25日（火） | 日生中学校 | ○おすすめの本の紹介，本のポップ作成講座，小・中学校各部会研修会 | 14名 |
| | 第５回　司書部会研修会 | 2月26日（火） | 吉永中学校 | ○おすすめの本の紹介，図書だより作成講座，小・中学校各部会研修会 | |
| | 反省と課題<br>〈読書感想文審査会より〉<br>事前に配付された資料の確認が不十分であったため、題名の標記にばらつきがあった。本の内容に関する説明と自分の生活に結びついた感想のバランスが難しいようであった。自らの生き方などに入り込みすぎた場合、本の内容からかけ離れすぎないように指導する必要がある。<br>〈司書部会研修会より〉<br>備前市の学校司書１５名のうちから「本のポップ作成」と「図書だより作成」を得意としている司書に講師依頼をして全体研修を行った。司書全体の質的向上につながる有意義な研修であったので、来年度も情報交換をして研修を深めていきたい。 | | | | |
| 瀬戸内 | 第64回岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会 | 9月13日（木） | 瀬戸内市中央公民館 | 読書感想文の審査と審査に係る研修等 | 18人 |
| | 反省と課題<br>特になし | | | | |
| 玉野 | 玉野市学校図書館協議会<br>代表者会 | 6月28日（木） | 日の出ふれあい会館 | ・平成29年度支部事業・決算等報告<br>・平成30年度支部事業・予算等計画<br>・読書感想文コンクール実施計画 | 23名 |
| | 青少年読書感想文コンクール<br>支部審査会（小学校） | 9月14日（金） | 日の出ふれあい会館 | ・小学校低・中・高学年で各類ごとに審査 | 25名 |
| | 青少年読書感想文コンクール<br>支部審査会（中学校） | 9月25日（火） | 日の出ふれあい会館 | ・中学校各類ごとに審査 | 13名 |
| | 司書研修会 | 毎月1回 | 各小中学校輪番 | ・各学校情報交換と「おすすめの本」の紹介<br>・学校図書館の運営と事務、読書推進等の研修<br>・小学校部会・中学校部会に分かれての研修　他 | 23名 |
| | 反省と課題<br>読書感想文コンクールの審査や、読書感想文集の取りまとめについては先を見通して取り組むことができている。事務局が交代する際に、きちんと引継ぎができる体制を整えたい。また、学校司書研修会については、司書の資質能力の向上には寄与しているが、司書教諭との連携等が課題である。 | | | | |
| 加賀 | 第１回研修会 | 5月9日（水） | 加賀中学校 | 本年度の計画立案 | 14名 |
| | 第2回研修会 | 9月10日（月） | 上竹荘小学校 | 読書感想文加賀支部出品作品の審査<br>読書感想文の書き方指導等についての研修 | 11名 |
| | 反省と課題<br>・今年度も，読書感想文の出品数や審査の方法について，情報交換を行うことで，審査会をスムーズに行うことができた。<br>・読書感想文の出品数が，少し減っているが，町全体では，２００点近い応募があった。ただ，課題図書や指定図書を読んだ感想文が少なめだったので，今後も学校司書と協力しながら，児童生徒への読書推進や，書き方の指導等を進めていきたい。 | | | | |
| 倉敷 | 倉敷市学校図書館協議会第１回研修会 | 9月7日（火） | くらしき健康福祉プラザ | ○講演　講師　妹尾　真理子　先生　（矢掛町立図書館　館長）<br>○演題　「図書館が大好きな子どもたち」 | 約130名 |
| | 司書部会 | 年7回 | ライフパーク倉敷 | 8つの研究テーマに分かれて研修を実施<br>（選書・資料作成・環境整備・マニュアル・学校図書館ガイドライン・調べ学習・授業関連・読書支援） | 約90名 |
| | 反省と課題<br>・今年度の研修会は西日本豪雨水害のため，開催が危ぶまれたが，多くの参加者のもと予定通り実施することができた。公立図書館という現場で働かれている館長先生からは，環境整備の大切さや，子どもたちとの関わりで大切にされていることなどをお聞きし，有意義な研修となった。　・司書部会では，昨年度に引き続き８つの研究テーマに分かれ研修を行った。そして平成３１年２月７日に行われた「第７回学校図書館司書部会」でこれまでの研修成果を発表した。今後は平成３２年７月の岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会）の発表にむけて研修をまとめていく予定である。研修内容を各校での職務に有効に活かし，倉敷の学校司書のスキルアップ，図書館の充実を目指す。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 浅口 | 中教研浅口支部学校図書館研究部運営委員会 | 5月1日（火） | 浅口市中央公民館 | 事業計画決定 | 6名 |
| | 小教研浅口支会学校図書館教育研究部運営委員会 | 5月1日（火） | 浅口市中央公民館 | 主任選出，研究テーマ・事業計画立案 | 4名 |
| | 小教研浅口支会学校図書館教育研究部会 | 5月8日（火） | 浅口市中央公民館 | 研究テーマ・事業計画決定 | 16名 |
| | 小教研浅口支会学校図書館教育研究部夏季研修会 | 7月31日（火） | 寄島小学校 | 講話　演題　「学校図書館ができること　-新学習指導要領が求める学校図書館-」<br>講師　ノートルダム清心女子大学　准教授　赤木雅宣先生 | 15名 |
| | 読書感想文浅口支部審査会 | 9月13日（木） | 鴨方西小学校 | 読書感想文支部審査 | 25名 |
| | 反省と課題<br><br>夏季研修会では，新学習指導案が求める子どもの姿と，それを目指すために学校図書館がどのようにあるべきか，国語科を中心としてどのような授業作りができるのかを具体的な例を挙げながら教えていただいた。また，読書好きな子どもを育てるために，国語科の授業ではどのような取り組みができるかを授業構想を基にしながら具体的に教えていただいた。具体的な授業例なども多く教えていただき，各学校で生かせる研修を行うことができた。 | | | | |
| 笠岡 | 笠岡市教育研修所<br>図書館教育部会（小中合同） | 5月2日(水) | 笠岡市立中央小学校 | ○正副委員長の互選，研修テーマ，研修計画の決定<br>テーマ　「豊かな心を育む学校図書館づくり」 | |
| | 笠岡市教育研修所<br>図書館教育部会（小中合同） | 7月31日(火) | 笠岡市立図書館 | ○「図書館に学ぶ」笠岡市立図書館の見学 | |
| | 読書感想文コンクール<br>支部審査会 | 9月18日(火) | 笠岡市立城見小学校 | ○読書感想文岡山県コンクールの支部審査 | |
| | 反省と課題<br>・今年度から笠岡市教育研修所の学校図書館教育部会は，小中合同になり，学校司書の先生方は別の組織になった。<br>・笠岡市立図書館の見学を夏期休業中に行った。図書館の利用の様子やネットワークの活用などについて，徳山館長からお話を聞くことができた。<br>　また，図書館の見学では，配架の工夫などを知ることができ，大変有意義な研修であった。 | | | | |
| 小田 | 小田郡学校図書館協議会（小学校） | 5月1日（火） | 矢掛町農村環境改善センター | ・２９年度事業報告　　・役員選出<br>・３０年度事業計画立案 | 9名 |
| | 小田郡学校図書館協議会総会並びに感想文審査会 | 9月18日（火） | 矢掛町立小田小学校 | ・２９年度事業報告・３０事業計画・予算決算報告<br>・読書感想文の支部審査会 | 11名 |
| | 反省と課題<br>・学年相応の読書をすすめる工夫が，今後も必要である。（特に保護者の協力を得ながら，家庭での読書の推進をいかに進めていくべきか）<br>・読書感想文の書き方の指導については，県に送付する作品の表記については，指導者の共通理解が必要である。<br>・本年度の図書館協議会は，事業の見直しを行い協議会総会と感想文審査を同日に行った。事業計画などは小教研の図書館部会で審議して総会で中学校・高校の承認をいただく形にした。支部の読書感想文集製本は，児童数減少のため予算規模が縮小したため本年度より事業中止とした。 | | | | |
| 井原 | 読書感想文支部審査会 | 9月20日（木） | 芳井小学校 | ・平成３０年度の活動計画、井原市学校図書館協議会の役員紹介<br>・支部審査会　小学校の部・中学校の部 | |
| | 感想文の表彰 | 10月 | 各校 | ・支部作品の表彰 | |
| | 読書感想文集注文 | 10月 | 各校 | ・読書感想文集の注文とりまとめ | |
| | 感想文集の配布 | 1月11日（月） | | ・読書感想文集の配布 | |
| | 感想文の表彰 | 1月 | 各校 | ・県出品作品の表彰 | |
| | 反省と課題<br><br>読書感想文集の学校用合本について<br>小学校では，言葉の難しさや未習の漢字使用等により，中学生以上の感想文を読むことはない。小学生の作品を読んだり紹介したりすることが主である。小学校には，学校用を合本ではなく，小学校用で各校にお願いする方が快く引き受けてもらえる。以上の理由により，学校用を小学校用か合本かを自由に選択できるよう，検討してもらえないか。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 総社 | **図書館教育班会** | | | | |
| | 第１回図書館教育班会<br>（総社市教育研修所総会） | 5月11日（金） | 総社中学校 | 研修計画立案等 | 13名 |
| | 第２回図書館教育班会 | 6月12日（火） | 宮脇書店総社店 | 新刊を含む児童書等の選書会 | 13名 |
| | 第３回図書館教育班会 | 7月13日（火） | 総社市図書館 | 総社市図書館との連携・情報交換 | 12名 |
| | 第６４回岡山県青少年読書感想文　コンクール総社支部審査会 | 9月7日（木） | | 読書感想文コンクール審査 | 23名 |
| | **学校司書部会** | | | | |
| | 第１回学校司書部会 | 7月25日（水） | 常盤小学校 | 司司書部会研修計画　実演の計画と準備 | 12名 |
| | 第２回学校司書部会 | 7月26日（木） | 維新小・清音小学校 | お話の会実演と反省　相互賃借に役立つ選書について等 | 12名 |
| | 第３回学校司書部会 | 12月11日（火） | 秦小学校 | 読書週間の報告　相互賃借に役立つ選書について等　学校図書館システム研修 | 12名 |
| | 第４回学校司書部会 | 1月18日（金） | 総社小学校 | 蔵書の点検・整理について　今年度の反省　来年度の計画等 | 12名 |
| | 第４２回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会) | 7月24日（木） | 灘崎文化センター | 研究会参加 | 12名 |
| | 反省と課題<br><br>（班会）今年度も総社市図書館と情報交換の場をもち，連携しながら様々な活動を推進することができた。<br>（司書部会）今後の小・中学校間での相互賃借を促進するため，より需要の高い資料についての情報交換・選定を進めている。また，図書館運営システムの研修も継続しており，有効な活用につなげられている。来年度も引き続き有意義な研修を行っていきたい。 | | | | |
| 高梁 | 研修会 | 7月6日（金） | 高梁中学校 | ○年間計画の作成・配布物の説明 | 18名 |
| | 読書感想文コンクール審査会 | 9月13日（木） | 高梁市図書館 | ○読書感想文コンクール審査 | 23名 |
| | 研修会<br>（学校図書館司書部会との合同研修会） | 2月5日（火） | 高梁市図書館 | ○講話<br>（講師　岡山県立図書館　塚本　明美　総括主幹（班長）<br>（内容）図書館サービスと著作権の基礎<br>○協議 | 25名 |
| | 反省と課題<br><br>・第１回研修会は県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼を行った。夏季休業の課題として取り組むためにも、研修会開催があまり遅くならないように配慮したいが、他行事との関係もあり学期末の慌ただしい時期になってしまった。来年度、県協議会事務局長会が１週繰り上がる予定とお聞きし、ありがたく思う。<br>・第１回研修会において感想文コンクールについての確認事項を連絡することで、校内審査や提出書類について適正になされてきている。徹底が十分できていない面もあるが、感想文コンクール審査会は、小学校と中学校では、出品数や内容等により審査にかかる時間が大きく異なるため、審査後に反省や今後に向けての協議ができにくい点が課題である。<br>・学校図書館司書部会との合同研修会では、岡山県立図書館塚本明美先生をお招きし、著作権の基礎についての研修を行った。学校現場における具体的な場面を想定してのお話で、大変参考になった。また、図書館教育について情報交換を行うことができた。 | | | | |
| 新見 | 理事会 | 6月8日（金） | 阿新教育会館 | 事業計画 | |
| | 学校図書館担当者会 | 6月26日（火） | 阿新教育会館 | 昨年度の事業報告及び連絡 | |
| | 読書感想文コンクール<br>支部審査会 | 9月20日（木） | 阿新教育会館 | 読書感想文コンクール支部審査 | |
| | 理事会 | 3月7日（木） | 阿新教育会館 | 事業反省と来年度に向けての話し合い | |
| | 反省と課題 | | | | |
| 津山 | 津山市学校図書館協議会<br>第１回総会・研修会 | 7月3日（火） | 津山市役所東庁舎 | 組織体制や活動計画についての協議 | 39名 |
| | 図書選定会 | 8月20日（火） | 津山ブックセンター | 児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成 | 18名 |
| | 津山市読書感想文<br>コンクール審査会 | 9月21日（金） | 津山市役所 | 津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査 | 35名 |
| | 図書選定会 | 1月31日（木） | 津山ブックセンター | 児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成 | 25名 |
| | 津山市学校図書館協議会<br>第２回総会・研修会 | 2月15日（金） | 津山市役所東庁舎 | 活動の総括<br>来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議<br>研究集録「あゆみ」の編集作業 | 37名 |
| | 反省と課題<br><br>・市の読書感想文コンクール審査会から、県への提出締め切りまで10日間で、作品等の出品準備がかなり忙しかった。もう少し余裕を持って取り組める日程を工夫したい。<br>・支部内の連絡方法を「Ｃ４ｔｈ」に切り替えていきたい。今年度から少しずつ導入したが、まだ担当者の確認もれ等があるので来年度は徹底していきたい。<br>・県立中ができて４年目で、会への参加や配布物等についてどうするかが明確になってきた。<br>・今年度より理事会の開催をなくし、各校理事の負担は軽減した。また、配布物等のことも考えて総会開催時期についても工夫することができた。<br>・事務局の負担が昨年度よりは減ったが、仕事内容の精選や事務局次長との分担など、来年度に向けて負担の軽減につとめたい。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 苫田 | 苫田郡学校図書館協議会<br>総会並びに研修会 | 7月9日（月） | 鏡野町立奥津小学校 | 今年度の活動計画　読書感想文への取組の確認　事務局総会の報告 | 8名 |
| | 読書感想文審査会<br>並びに研修会 | 9月11日（火） | 鏡野町中央公民館 | 小学校の審査会　低・中・高の３部会での審査 | 10名 |
| | 苫田郡学校図書館協議会<br>総会研修会 | 3月5日（火） | 鏡野町立奥津小学校 | 本年度の活動についてのまとめ　情報交換 | 10名 |
| | 反省と課題<br>・学校図書館司書のいない支部であるが，本年度は町の図書館司書との連携が進んだ。<br>・情報交換では学力向上の視点からも各校で読書活動の充実に向けていろいろな工夫がされていることが交流できて良かった。<br>・読書感想文への取組は，指導者の実践力が大きい。応募の実態をみると各校で差が見受けられる。 | | | | |
| 勝田 | 勝田郡学校図書館協議会<br>総会・研修会 | 7月12日（木） | 勝間田小学校 | 平成29年度事業報告・決算報告<br>平成30年度事業計画・予算案<br>読書感想文コンクールについて | 6名 |
| | 勝田郡読書感想文審査会<br>（中学校の部） | 9月19日（水） | 奈義中学校 | 読書感想文審査 | 4名 |
| | 勝田郡読書感想文審査会<br>（小学校の部） | 9月29日（木） | 勝間田小学校 | 読書感想文審査 | 6名 |
| | 勝田郡学校図書館協議会<br>研修会 | 1月18日（金） | 奈義中学校 | 岡山県学校図書館協議会運営について<br>勝田郡学校図書館協議会活動反省 | 5名 |
| | 反省と課題<br>○勝田支部は小学校3校、中学校２校である。読書感想文審査会は少数校での実施であるため、作品の質的向上、審査員の確保が難しかった。 | | | | |
| 久米 | 岡山県事務局長会<br>及び研修会 | 6月21日（木） | 県立倉敷青陵高校 | 平成２９年度の事業報告・決算報告、平成３０年度事業計画・予算案審議 | |
| | 久米郡図書館協議会総会・<br>研修会 | 7月9日（月） | 美咲町立柵原西小学校 | 平成２９年度の事業報告・並びに会計報告、平成３０年度事業計画並びに予算審議<br>平成３０年度の役員選出、読書感想文の応募についての確認 | |
| | 久米郡読書感想文審査会 | 9月18日（火） | 美咲町役場 | 読書感想文の支部審査（中学校の部） | |
| | 久米郡読書感想文審査会 | 9月20日（木） | 美咲町役場 | 読書感想文の支部審査（小学校の部） | |
| | 岡山県事務局長会 | 1月10日（木） | 県立倉敷青陵高校 | 事務連絡 | |
| | 反省と課題<br>例年通りの活動ができた。読書感想画の応募はなかった。 | | | | |
| 真庭 | 総会及び研修会 | 7月2日（月） | 勝山小学校 | H29年度事業報告、H30年度役員選出、事業計画、予算案協議 | 21名 |
| | 読書感想文支部審査会（小学校） | 9月11日（火） | 久世公民館 | 読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明 | 18名 |
| | 読書感想文支部審査会（中学校） | 9月19日（水） | 北房中学校 | 読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明 | 7名 |
| | 県読書感想文県出品作品審査 | 10月19日（金） | 勝山小学校 | 県読書感想文作品真庭支部担当分の審査 | 5名 |
| | 反省と課題<br>・本年度は小学校と中学校の支部審査を別々に行った。そのため、賞状の配付や県出品作品の報告などに時間がかかった。（中学校の運動会が天候を理由に日程が変わったため）<br>・秋の審査会以降、総会を行うことができないため、感想文集の配付や県出品作品の返却に時間がかかり、配付冊数などのミスもあり、県協議会に迷惑をかけてしまった。反省点として来年に引き継ぐ。 | | | | |
| 美作西粟倉 | 支部総会・研修会 | 6月29日（木） | 英田小学校 | ２９年度事業・会計決算報告　３０年度役員選出、事業計画、予算案、読感文ｺﾝｸｰﾙ等について | 14名 |
| | 支部読書感想文審査会・研修会 | 9月15日（金） | 英田中学校 | 読書感想文審査 | 7名 |
| | 支部読書感想文審査会・研修会 | 9月22日（金） | 作東農村改善センター | 読書感想文審査 | 10名 |
| | 反省と課題<br>・支部総会の開催日を第１回事務局会の後６月中に実施できてよかった。（夏季休業中の課題準備に向けて早めに各校で取り組めた。）<br>・支部の各校に配布する読書感想文に関する資料を７月上旬には配布し、夏休みに向けて各校が早めに準備できた。<br>・支部読書感想文審査会の日程調整を総会の日に設けたのがよかった。<br>・読書感想画についての再度呼びかけや支部提出締め切りの徹底が必要であった。 | | | | |

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 備前 | 役員会 | 5月17日（木） | 岡山後楽館高校 | 平成２９年度事業報告・決算報告　／　平成３０年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等 | 15名 |
| | 支部総会 | 6月28日（木） | 岡山後楽館高校 | 平成２９年度事業報告・決算報告　／　平成３０年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等 | 31名 |
| | 第１回研究会 | 7月27日（金） | 岡山後楽館高校 | 講演：「文豪」たちの手紙　～倉敷市蔵「薄田泣菫文庫」をめぐって<br>講師：就実短期大学生活実践科学科　　准教授　　加藤　美奈子　先生 | 37名 |
| | 第２回研究会 | 11月22日（木） | 岡山後楽館高校 | 10分間読書プロジェクト「目指せ NO BOOK NO LIFE」<br>講師：岡山高等学校　教諭　横山　留美子　先生<br>講演：探究学習・調べ学習等における県内高校図書館の活用状況とこれから ― 図書館活用授業アンケート調査より<br>講師：岡山県立岡山南高等学校 教諭 畝岡睦実 先生，　岡山県立倉敷工業高等学校 司書 久戸瀬瑞季 先生 | 30名 |
| | 第１回司書部会研修会 | 4月24日（木） | 岡山県立図書館 | 協議：平成２９年度活動報告・決算報告　／　平成３０年度役員確認・活動予定・予算案　／　次回おすすめ本テーマ　／　次回開催校と内容　／「プチ紹介」担当校　／　平成３０年度倉敷大会の役割分担<br>研修Ａ（初任者研修）　／　研修Ｂ（初任者研修参加者以外の司書による合同研修）　テーマ：対話の時間～司書部会のこれから・授業やその他教育活動との関わり・県立学校の蔵書管理システムについて<br>合同研修「春のダンボールまつり」　講師：倉敷市立倉敷翔南高等学校 片山有理亜司書　（以上備中・美作支部と合同） | 26名 |
| | 第２回司書部会研修会 | 6月7日（木） | 岡山大安寺中等教育学校 | ４２回岡山県学校司書研究協議会分科会プレ発表　／　プチ紹介（岡山理大附属・岡山一宮・瀬戸南）　／　おすすめ本の紹介（図書委員会活動で使えそうな本、クイズ・なぞなぞの本、フリーテーマ）<br>協議：理事会より・ネットワーク研究委員会より・次回おすすめ本テーマ・次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校<br>研修：人に関する研修「図書委員会」 | 23名 |
| | 第３回司書部会研修会 | 7月27日（金） | 岡山後楽館高校 | 講演「文豪」たちの手紙～倉敷市蔵「薄田泣菫文庫」をめぐって　講師：就実短期大学生活実践科学科　准教授　加藤美奈子先生（備前支部第１回研究会と合同）　／　協議：平成３１年度高教研学校図書館部会研究協議会発表について・平成３１年度岡山県学校図書館研究大会助言者について・次回おすすめ本テーマ・次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校　／プチ紹介（岡山東商・倉敷鷲羽・岡山）<br>研修：資料に関する研修「選書Ｑ＆Ａ」　／　グループでおすすめ本の紹介（７類（音楽の本）、職業についての小説、フリーテーマ） | 25名 |
| | 第４回司書部会研修会 | 12月6日（木） | 倉敷工業高校 | 協議連絡１：学校図書館システム検討会より、学校図書館活用教育検討会より、でーれーＢＯＯＫＳ担当より、司書部会活動・研修のあり方について　／　研修「学校図書館における情報活用能力の育成について」<br>講演「授業でのＩＣＴ機器の活用事例」　講師：岡山県立倉敷工業高等学校　榊　渉　教諭　／　プチ紹介（玉野・瀬戸・関西）　／　協議：次回おすすめ本テーマ・次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校<br>研修：場所に関する研修「除籍」　／　協議連絡２：司書部会活動・研修のあり方について　（以上、協議連絡１・２と講演は備中・美作支部と合同、プチ紹介・協議・研修は備前・美作の２支部合同） | 23名 |
| | 第５回司書部会研修会 | 2月20日（水） | 関西高校 | 協議・連絡：　／　関西高校図書館見学　／　プチ紹介（岡山工業・山陽女子）　／　おすすめ本の紹介（高校生のための留学の本・地理の本）　／　研修：情報に関する研修「図書館だより」　／　退任者挨拶 | 名 |
| | 第1回<br>生徒図書委員会交流会 | 6月3日（日） | 山陽女子中学校・高等学校 | 研修「図書館行事・イベントを企画しよう」<br>図書委員会活動の情報交換 | 16校<br>55名 |
| | 第2回<br>生徒図書委員会交流会 | 12月15日（土） | 総社高校 | 参加校による図書委員会活動報告<br>研修「図書館クイズを作ろう！解こう！」<br>各校図書委員会間での情報交換 | 9校<br>40名 |

反省と課題

今年度の研究会は、講師の先生方の素晴らしい講演や、参加された先生方の積極的な質疑応答などにより、２回とも大変有意義で充実したものになった。しかし、各高校の業務多忙の事情などもあり、参加者は第１回が３７名、第２回が３０名と、さらに参加を促す日程調整や内容の研究が必要だと考える。

また、限られた予算の中で円滑な運営ができるよう、早い段階で効率的な方法を研究する必要があることが明らかになったので、少しでも次年度に生かせるよう工夫したい。

| 支部名 | 実施事業名 | 実施期日 | 実施会場 | 内　　容 | 参加数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 備中 | 1　役員会 | | | | |
| | 第１回　役員会 | 6月25日（月） | 矢掛高校 | （１）平成２９年度事業報告及び会計報告<br>（２）平成３０年度事業計画及び予算（案）<br>（３）支部総会・研究協議について | 7名 |
| | 第２回　役員会 | 2月22日（金） | 矢掛高校 | （１）平成３０年度事業報告及び会計報告<br>（２）平成３１年度支部総会・研究協議について | 9名 |
| | ２　総会・研究協議会 | 6月25日（月） | 矢掛高校 | (1)報告事項　・平成29年度事業報告及び会計報告・平成30年度役員紹介<br>(2)協議事項　・平成30年度事業計画(案)及び予算(案)　・申し合わせ事項について　・学校負担金の徴収について<br>(3)実践報告「図書委員会の活動について」矢掛高校 教諭 福田計治<br>(4)研究協議についての情報交換 | 31名 |
| | 3 司書部会 | | | | |
| | 第１回(第230回) | 4月24日（火） | 岡山県立図書館 | (1)支部研修 平成29年度司書部会活動報告･決算報告　平成30年度活動計画･予算案、役員確認<br>(2)合同研修①　初任者研修/一般研修「学校図書館システムについて」「授業その他教育活動との関わり」<br>(3)合同研修②ワークショップ「春のダンボールまつり」<br>(4)サポート校グループによるフリートーク | 25名 |
| | 第2回(第231回) | 6月25日（月） | 矢掛高校 | (1)研修　－学校図書館から授業を支えるー　「そもそも授業支援とは？」／「とことん資料提供を！」／資料紹介･情報交換<br>(2)高教研学校図書館部会備中支部研究協議会に出席　実践報告「図書委員会活動について」矢掛高校 教諭 福田計治氏 | 28名 |
| | 第３回(232回) | 10月11日（木） | 高梁城南高校 | (1)研修　－学校図書館から授業を支えるー　「新聞活用編」／「読書週間をもりあげよう！！」／資料紹介･情報交換<br>(2)見学　高梁市図書館 | 23名 |
| | 第4回(第233回) | 12月6日（木） | 倉敷工業高校 | (1)合同研修「授業でのＩＣＴ機器の活用事例」　倉敷工業高校 教諭 榊涉氏　(2)研修　－学校図書館から授業を支えるー　「思考ツールで授業支援！」／資料紹介･情報交換 | 27名 |
| | 第５回(234回) | 2月6日（水） | 総社南高校 | (1)研修　－学校図書館から授業を支えるー　「パスファインダー編」／「作成したパスファインダーを見せ合おう」<br>(2)一年間の総括／協議　来年度の運営･組織について　学校図書館システムについて／資料紹介･情報交換 | 23名 |
| | 4 図書委員会交流会 | 12月15日（土） | 総社高校 | 研修　「図書館クイズを作ろう！解こう！」／情報交換 | 9校<br>生徒40名<br>教職員16名 |
| | 反省と課題<br>① 支部活動の運営上、問題点も生じたので今後の検討が必要である。<br>②司書部会での研修は、すぐに役立つ内容ばかりですので、是非、多くの学校に参加していただきたいと思います。<br>③総会に参加されてない学校への資料や書類の発送を参加している学校に協力してもらったり、事務局で直接持って行くことにより、通信費を抑えることができた。 | | | | |
| 美作 | 第１回司書部会研修会<br>（３支部合同） | 4月24日（火） | 岡山県立図書館 | 平成２９年度活動報告・平成３０年度活動予定、初任者研修・合同研修、全支部合同研修 | 10名 |
| | 第１回支部役員会・研究協議会 | 5月9日（水） | 津山高校 | 平成２９年度事業報告、平成２９年度会計決算報告、平成３０年度事業計画案、平成３０年度予算案、平成３０年度美作地区図書委員会交流会案 | 役員会<br>7名<br>協議会<br>12名 |
| | 第２回司書部会研修会<br>（備前支部合同） | 6月7日（木） | 岡山大安寺中等教育学校 | 支部研修、おすすめ本の紹介、「人」に関する研修 | 10名 |
| | 第２回支部役員会 | 7月5日（木） | 津山高校 | 第２回研究協議会の研修内容について | 7名 |
| | 平成３０年度図書委員会<br>交流会 | 7月31日（火） | 津山東高校 | 理想の図書館を作ろう！ | 生徒<br>29名<br>教職員<br>12名 |
| | 美作地区高校生読後感想文<br>コンクール | 7月～12月 | 津山工業高校 | 美作地区高等学校対象 | 9校<br>31名 |
| | 第３回司書部会研修会 | 10月18日（木） | 林野高校 | 研修（図書館環境整備、展示作業）、おすすめ本の紹介 | 10名 |
| | 第４回司書部会研修会 | 12月6日（木） | 倉敷工業高校 | 合同研修「学校図書館における情報活用能力の育成について」、情報交換、支部研修 | 8名 |
| | 第２回支部研究協議会 | 12月7日（金） | 津山高校 | 美作地区高校生読後感想文表彰式、平成３１年度事業計画案<br>研修Ⅰ　有限会社ヒロシゲ文庫代表取締役　三宅誠一氏講演「書店再生」<br>研修Ⅱ「各校の学校図書館運営及び図書委員の取組について」 | 11名 |
| | 美作地区高校生読書推進<br>イベント<br>”ブック　ド　ノエル” | 12月8日（土） | アルネ津山 | 美作地区高等学校の図書委員が各ブースを設置し、オリジナルバッグや豆本作り等のイベントを開催<br>ビブリオバトルも実施 | 生徒<br>21名 |
| | 第５回司書部会研修会 | 3月14日（木） | 勝山高校 | 真庭市立中央図書館見学、平成３１年度活動計画 | １０名 |
| | 反省と課題<br>図書委員会交流会の時期がインターハイの関係で例年と異なり、参加人数が少なくなった。次年度は多くの学校が参加しやすい時期を検討したい。 | | | | |

# 岡山県学校図書館協議会組織図

１．構成組織

- 岡山県学校図書館協議会（県ＳＬＡ）
  - 岡山県　小学校　教育研究会情報教育研究部会学校図書館部
  - 岡山県　中学校　教育研究会学校図書館部会
  - 岡山県　高等学校　教育研究会学校図書館部会

２．組織図

- 岡山県学校図書館協議会（県ＳＬＡ）
  - 役員組織
    - 代表役員会（5 月）
    - 総会（6 月）
    - 代表理事会（2 月）
  - 事務局
    - 支部事務局長会議（6 月・1 月）
  - 部会・研究組織
    - 司書部会
    - 絵本研究部会（年 9 回）
    - 優良図書研究部会（年 6 回）
      - 指定図書選定委員会（3 月）
  - 事業執行組織
    - 読書感想文コンクール（小・中･･･中教研，高･･･（前）高教研）
    - 読書感想画コンクール（小・中・高･･･コンクール事務局）
    - 岡山県学校図書館研究大会（支部協議会）
    - 岡山県学校司書研究協議会・研修会（司書部会）

# 岡山県学校図書館協議会規約

第1条　本会は，岡山県学校図書館協議会という。

第2条　本会は，事務局を会長在任の学校内におく。

第3条　本会は，県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実，発展をはかり，本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条　本会は，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1)　県下学校図書館相互の連絡提携，情報交換

(2)　学校図書館運営に関する研究会，講習会，展示会等の開催。

(3)　学校図書館教育の研究

(4)　読書指導の研究

(5)　学校司書の研修と身分待遇の改善

(6)　絵本・優良図書の研究

(7)　その他

2．第１項(2)の事業の推進，及び(3)(4)の事業の援助を行うため，研究部会を設ける。

研究部会は，特に必要のない場合，適宜活動を休止することができる。

3．第１項(5)の事業を行うため，司書部会を設ける。司書部会関することは，別に規定を定める。

4．第１項(6)の事業を行うため，絵本研究部会，優良図書研究部会，ニューメディア研究部会，読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は，別に定める。

第5条　本会は，岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条　本会加入の小・中学校においては郡市ごとに，高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに，支部協議会を設ける。

2．支部協議会に会長を置く。また，必要に応じて副会長を置くことができる。

3．支部協議会に支部事務局を設け，支部事務局長を置く。

4．本会は，年に数回，支部事務局長会議を開催し，必要な書類の配布，事務連絡事項の伝達を行う。

5．その他，支部協議会に関する規定は，各支部協議会で適宜決める。

第7条　本会は，社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2．本会の会長及び事務局長は，社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条　本会に次の役員を置き，任期は２カ年とする。ただし再任を妨げない。また，補欠役員の任期は，前任者の残留期間とする。

(1)　会　　長

(2)　副 会 長

(3)　代表理事

(4)　理　　事

(5)　監　　事

2．役員の選出は次のとおりとする。

(1)　会長は，小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当），中教研・高教研の各部会長の中から選出される。

(2)　副会長は，会長にならなかった小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当），中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3)　代表理事は，小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当１名），中教研・高教研の各部会長・副部会長・事務局長，及び司書部会長をもって充てる。

(4)　理事は，代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5)　監事は，原則として事務局校の所在する支部内で，小教研・中教研から１名，高教研から１名選出する。

3．本会の最小限の役員組織として，代表役員会を設ける。代表役員は，小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当１名），中教研・高教研の各部会長・事務局長，及び司書部会長をもって充てる。

4．以上の役員については，年度当初の新旧代表役員会で選出され，総会において承認を得るものとする。但し，代表理事については，総会において決定・承認されるものとする。

第9条　役員の任務は次のとおりとする。

(1)　会長は，会を代表し会務を総括する。

(2)　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるとき

は会務を代理する。

(3)　代表理事は，会務の重要事項を協議し決定する。また，代表役員会で仮決定した事項について協議し，決定する。

(4)　理事は，会務全般について協議し，代表理事会での決定を承認する。また，年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。

(5)　監事は，会計を監査する。

(6)　代表役員は，本会の最小限の役員組織として，緊急を要する事項について協議し，仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では，役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条　本会の，総会・代表理事会・代表役員会は毎年１回以上開催する。総会は，理事会をもってこれに代えることができる。

第11条　事務局には，事務局長，事務局次長，参事，事務職員等をおき，会務を処理する。

第12条　本会は，役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条　本会の経費は，構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条　本会の会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月３１日に終わる。

（規約施行は昭和 25 年から[推定]）

・・・（中略）・・・

平成　８年　６月　４日　一部改正

平成１１年　６月　３日　一部改正

平成１４年　５月３０日　一部改正

平成１７年　６月　２日　一部改正

# 岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条　この部会は，岡山県学校図書館協議会規約第４条に基づいて設けられ，岡山県学区図書館協議会司書部会と称する。

第2条　この部会の事務局は，岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条　この部会は，岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし，学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条　この部会は，前条の目的を達成するために，次の事業を行う。

(1)　「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加

(2)　各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流

(3)　優れた実践の掘り起こしと，研究実践を広めるための活動

(4)　学校司書の配置増と安定した雇用の確率のための活動

第5条　この部会は，岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条　この部会は，次の役員をおく。

(1)　部会長　　１名

部会を代表し，部会の運営にあたる。また，会計事務も担当する。

(2)　副部会長　若干名

部会長を補佐し，部会長に事故のあるときにはこれに代わる。

(3)　理事　　若干名

理事会を構成し，会務の重要事項を審議する。また，地区を代表して，部会との連絡と地区の運営にあたる。

(4)　監事　　２名

会計事務を監査し，総会に報告する。

第7条　役員は，次の方法によって定める。

(1)　役員は，総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し，総会の承認を得る。

(2)　部会長は，会員全体の中から選出する。

(3)　副部会長は，校種別，地区別に選出する。

(4)　理事は，校種別，地区別に選出する。

(5)　監事は，原則として理事経験者の中から選出する。

第8条　役員の任期は２年とし，再任は妨げない。欠員によって補充された役員の任期は，前役員の残任期間とする。

第9条　この部会は，年１回総会を開催する。なお，理事会が必要と認めた場合，又は会員の３分の１以上から請求のあった時は，臨時総会を開催しなければならない。

２．総会は，会員の過半数の出席をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。

３．総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする

①　会則の改正

②　役員の選出

③　事業計画並びに事業報告

④　予算案並びに決算の承認

⑤　その他重要な事項

第10条　この部会は年３回理事会を開催する。なお，理事の３分の１以上から請求のあった時は，臨時理事会を開催しなければならない。

２．理事会は，役員の過半数の出席をもって成立する。

３．理事会では，各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか，総会の運営に関する事項，総会に附議する議題，研究協議会・研修会に関する事項等，司書部会に関する重要な事項を審議する。

４．理事会は，次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は，文書持ち回りにより決議を行う。ただし，これらの決定については，次の総会において承認を得なければならない。

①　役員の補充

②　その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条　本会の経費は，会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし，当分の間会費は徴収しない。なお，研修に要する実費は，そのつど徴収することができる。

２．会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

本会則は，昭和50年４月１日から施行する。

平成15年７月24日　一部改正

平成18年７月26日　一部改正

# 岡山県学校図書館協議会６８年の歩み（略年表）

| 西暦 | 年号 | 研究集録 | 全国大会 | 中国大会 | 県 大 会 | 県大会講師 | 主要行事など | 会　長 | 副　会　長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1950 | 昭和<br>25 | | (1) 東　京 | | | | 県ＳＬＡ発足 | 尾野作次郎<br>(操山) | 大土井淑夫 (清輝)<br>下山　練 (津山中)<br>神崎 |
| 1951 | 26 | | (2) 京　都 | | | | | 尾野作次郎<br>(操山) | 大土井淑夫 (清輝)<br>下山　練 (津山中)<br>神崎 |
| 1952 | 27 | | (3) 小田原 | | | 総会<br>久米井　東 | 「岡山学校図書館」<br>創刊9月20日付 | 尾野作次郎<br>(操山) | 大土井淑夫 (清輝)<br>下山　練 (津山中)<br>神崎 |
| 1953 | 28 | | (4) 大　分 | | | 総会<br>坂本　一郎 | 司書講習 (岡山大学) | 尾野作次郎<br>(操山) | 大土井淑夫 (清輝)<br>下山　練 (津山中)<br>神崎 |
| 1954 | 29 | | (5) 仙　台 | | | 総会<br>尾野作次郎 | 司書教諭講習<br>(大阪学芸大学)<br>9名参加 | 尾野作次郎<br>(操山) | 大土井淑夫 (清輝)<br>神崎<br>水島　進 (弓削中) |
| 1955 | 30 | | (6) 徳　島 | | (1) 西大寺,<br>倉敷, 津山 | 松尾弥太郎 | 学校図書館法施行 | 尾野作次郎<br>(操山) | |
| 1956 | 31 | | (7) 宇都宮 | | (2) 岡山,<br>倉敷, 津山 | 佐野　友彦 | | 内藤　一人<br>(操山) | |
| 1957 | 32 | | (8) 札　幌 | | (3) 岡　山 | 松尾, 佐野<br>鈴木, 芦谷 | | 内藤　一人<br>(操山) | |
| 1958 | 33 | | (9) 岡　山 | | (4) 岡　山 | 深川　恒喜 | | 内藤　一人<br>(操山) | |
| 1959 | 34 | | (10) 東　京 | (1) 萩 | (5) 和気,<br>吉備, 英田 | 臼井　吉見<br>佐野　友彦 | 司書教諭講習<br>(岡山大学) 10周年 | 内藤　一人<br>(操山) | |
| 1960 | 35 | | (11) 大　阪 | | (6) 児島,<br>笠岡, 苫田 | 鈴木　英二 | | 内藤　一人<br>(操山) | 高祖　忠直<br>室山　三義<br>三谷　堅 (津　一) |
| 1961 | 36 | | (12) 新　潟 | (2) 広　島 | (7) 赤磐,<br>上房, 久米 | 松尾弥太郎 | | 内藤　一人<br>(操山) | 高祖　忠直 (深　柢)<br>室山　三義 (倉　東)<br>宮野辰右衛門 |
| 1962 | 37 | | (13) 松　山 | | (8) 岡　山 | 裏田　武夫 | | 内藤　一人<br>(操山) | |
| 1963 | 38 | | | (3) 松　江 | (9) 玉野,<br>井原, 真庭 | 鈴木　英二<br>松尾弥太郎 | | 内藤　一人<br>(操山) | 柴部　武士<br>宮野辰右衛門 (岡北)<br>井上弥太郎 |
| 1964 | 39 | | (14) 成　田 | | (10) 御津,<br>浅口, 勝山<br>(奈義) | 佐野　友彦 | | 内藤　一人<br>(操山) | 三島　一夫 (深　柢)<br>神原　利一 (桑　田)<br>川部　済 |
| 1965 | 40 | 2号 | | (4) 倉　吉 | (11) 児島,<br>新見･阿哲, 英田 | 松尾弥太郎 | | 内藤　一人<br>(操山) | |
| 1966 | 41 | 3号 | (15) 鹿児島 | | (12) 津　山 | 松尾弥太郎 | | 川端　清<br>(大安寺) | 三島　一夫 (深　柢)<br>神原　利一 (桑　田) |
| 1967 | 42 | 4号 | | (5) 津　山 | (13) 津　山 | 木村　毅 | | 川端　清<br>(大安寺) | 三島　一夫 (深　柢)<br>神原　利一 (桑　田) |
| 1968 | 43 | 5号 | (16) 名古屋 | | (14) 矢　掛 | 野地　潤家 | | 川端　清<br>(大安寺) | 三島　一夫 (深　柢)<br>梶原良太郎 (岡　北) |
| 1969 | 44 | 6号 | | (6) 防　府 | (15) 岡　山 | 相島　敏夫 | 20周年 | 板谷　二郎<br>(大安寺) | 林　幸彦 (出　石)<br>広江　利夫 (操　南) |
| 1970 | 45 | 7号 | (17) 山　形 | | (16) 成　羽 | | | 板谷　二郎<br>(大安寺) | 林　幸彦 (出　石)<br>広江　利夫 (操　南) |
| 1971 | 46 | 8号 | | (7) 大　竹 | (17) 津　山 | 岩田　斉 | | 桐野　事雄<br>(大安寺) | 小林　元 (財　田)<br>広江　利夫 (操　南) |
| 1972 | 47 | 9号 | (18) 兵　庫 | | (18) 玉　野 | 芦谷　清 | | 桐野　事雄<br>(大安寺) | 小林　元 (旭　東)<br>広江　利夫 (丸之内) |
| 1973 | 48 | 10号 | | (8) 出　雲 | (19) 邑　久 | 石森　延男 | | 桐野　事雄<br>(大安寺) | 小林　元 (旭　東)<br>坪井　隆二 (石井中) |
| 1974 | 49 | 11号 | (19) 東　京 | | (20) 北　房 | 谷川　徹三 | | 金谷　達夫<br>(大安寺) | 小林　元 (旭　東)<br>坪井　隆二 (石井中) |
| 1975 | 50 | 12号 | | (9) 鳥　取 | (21) 苫　田 | 滑川　道夫 | | 金谷　達夫<br>(大安寺) | 赤木　庚 (妹尾小)<br>坪井　隆二 (石井中) |
| 1976 | 51 | 13号 | (20) 岐　阜 | | (22) 倉　敷 | 戸川　幸夫 | | 金谷　達夫<br>(大安寺) | 赤木　庚 (妹尾小)<br>松本　猛 (京山中) |
| 1977 | 52 | 14号 | | (10) 倉　敷 | (23) 倉　敷 | 外山滋比古 | | 金谷　達夫<br>(大安寺) | 赤木　庚 (妹尾小)<br>松本　猛 (京山中) |

| 県教委担当者 | 事務局長 | 事務局次長 | 小 教 研 | 中教研 | 高教研 | 県司書大会 | 県司書部会長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩本 俊一<br>近藤 節正<br>江口 浩三 | 大原 利貞 | | | | | | |
| | 大原 利貞 | | | | | | |
| 岩本 俊一<br>近藤 節正<br>江口 浩三 | 大原 利貞 | 影山 剛 | | | | | |
| 岩本 俊一<br>江口 浩三 | 大原 利貞 | 影山 剛<br>内田 暁郎 | | | | | |
| 竹内亥三美 | 大原 利貞 | 影山 剛<br>内田 暁郎 | | | | | |
| | 大原 利貞 | | | | | | |
| | 大原 利貞 | | | | | | |
| | 大原 利貞 | | | | | | |
| | 大原 利貞 | | | | | ⑴ 岡山県学校司書会総会 | |
| | 大原 利貞 | | | | | ⑵ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原 利貞 | | | | | ⑶ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原 利貞 | | | | | ⑷ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原 利貞 | | | | | ⑸ 岡山県学校司書会総会 | |
| 竹内亥三美<br>冨山大三郎 | 大原 利貞 | 藤森 賢一 | | | | ⑹ 岡山県学校司書会総会 | |
| | 大原 利貞 | 鳥越 義親 | 三島 一夫 | 神原 利一 | 川端 清<br>佐藤 稔 | | |
| | 大熊 圭祐 | 鳥越 義親 | 三島 一夫 | 神原 利一 | 川端 清<br>佐藤 稔 | | |
| 蒲田 欣二<br>竹内 虎男 | 清野 有司 | 幾田 尚 | 三島 一夫 | 神原 利一 | 川端 清<br>佐藤 稔 | | |
| 蒲田 欣二<br>平坂 倶通 | 清野 有司 | 幾田 尚 | 三島 一夫<br>渡辺 武士 | 神原 利一<br>川合 四良 | 川端 清<br>佐藤 稔 | | |
| 蒲田 欣二<br>平坂 倶通 | 清野 有司 | 幾田 尚 | 三島 一夫<br>渡辺 武士 | 梶原良太郎<br>末平 雅夫 | 川端 清<br>佐藤 稔 | | |
| 蒲田 欣二<br>平坂 倶通 | 清野 有司 | 幾田 尚 | 林 幸彦<br>渡辺 武士 | 広江 利夫<br>相谷 道夫 | 板谷 二郎<br>横田 恭治 | | |
| 蒲田 欣二<br>新海 章吾 | 幾田 尚 | 木村 祐造 | 林 幸彦<br>渡辺 武士 | 広江 利夫<br>吉富 進 | 板谷 二郎<br>横田 恭治 | (1) 岡 山 | 安原 みどり |
| 蒲田 欣二<br>新海 章吾 | 幾田 尚 | 木村 祐造 | 小林 元<br>渡辺 武士 | 広江 利夫<br>高尾 弘志 | 桐野 事雄<br>高田 哲夫 | (2) 玉 野 | 安原 みどり |
| 蒲田 欣二<br>新海 章吾 | 幾田 尚 | 木村 祐造 | 小林 元<br>渡辺 武士 | 広江 利夫<br>高尾 弘志 | 桐野 事雄<br>田口 重俊 | (3) 倉 敷 | 安原 みどり |
| 山﨑 蕃<br>新海 章吾 | 木村 祐造 | 堤 護 | 小林 元<br>渡辺 武士 | 坪井 隆二<br>黒住 郁雄 | 桐野 事雄<br>田口 重俊 | (4) 津 山 | 安原 みどり |
| 山﨑 蕃<br>新海 章吾 | 木村 祐造 | 松本 功 | 小林 元<br>渡辺 武士 | 坪井 隆二<br>黒住 郁雄 | 金谷 達夫<br>田口 重俊 | (5) 岡 山 | 安原 みどり |
| 山﨑 蕃<br>新海 章吾 | 木村 祐造 | 松本 功 | 赤木 庚<br>渡辺 武士 | 坪井 隆二<br>黒住 郁雄 | 金谷 達夫<br>河村 金二 | (6) 玉 野 | 安原 みどり |
| 須和田秀一<br>山﨑 蕃 | 木村 祐造 | 松本 功 | 赤木 庚<br>山名 徳則 | 松本 猛<br>相谷 道男 | 金谷 達夫<br>徳永 優 | (7) 倉 敷 | 片山 峰子 |
| 須和田秀一<br>藤原 康宏 | 木村 祐造 | 松本 功 | 赤木 庚<br>山名 徳則 | 松本 猛<br>末平 雅夫 | 金谷 達夫<br>徳永 優 | (8) 津 山 | 片山 峰子 |

| 西暦 | 年号 | 研究集録 | 全国大会 | 中国大会 | 県 大 会 | 県大会講師 | 主要行事など | 会　長 | 副　会　長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1978 | 昭和53 | 15号 | (21) 佐　賀 | | (24) 瀬　戸 | 三木　卓 | 表彰式（感想文） | 村井　董直（芳泉） | 赤木　庚（妹尾小）<br>松本　猛（京山中） |
| 1979 | 54 | 16号 | | (11) 下　関 | (25) 岡　山 | 金田一春彦 | 30周年 | 村井　董直（芳泉） | 新井　正志（牧石小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1980 | 55 | 17号 | (22) 盛　岡 | | (26) 新　見 | 松島　栄一 | | 宮脇　律（芳泉） | 石井　汎（芳泉小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1981 | 56 | 18号 | | (12) 広　島 | (27) 久　米 | 斉藤　実 | | 宮脇　律（芳泉） | 石井　汎（芳泉小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1982 | 57 | 19号 | (23) 伊　勢 | | (28) 和　気 | 灰谷健次郎 | | 宮脇　律（芳泉） | 野上　賢二（竜之口小）<br>森安　萌（旭　中） |
| 1983 | 58 | 20号 | | (13) 浜　田 | (29) 総　社 | 松谷みよ子 | | 宮脇　律（芳泉） | 野上　賢二（竜之口小）<br>森安　萌（福南中） |
| 1984 | 59 | 21号 | (24) 山　口 | | (30) 高　梁 | 高木　敏子 | | 宮脇　律（芳泉） | 渡辺　武士（荘内小）<br>森安　萌（福南中） |
| 1985 | 60 | 22号 | | (14) 高　梁 | (31) 高　梁（兼中国） | 松山　善三 | | 槇野　昭輝（芳泉） | 渡辺　武士（荘内小）<br>黒住　郁雄（足守中） |
| 1986 | 61 | 23号 | (25) 那　覇 | | (32) 真　庭 | 倉本　聰 | | 西田　譲（一宮） | 森川　鐵也（馬屋上小）<br>村田　重臣（石井中） |
| 1987 | 62 | 24号 | | (15) 米　子 | (33) 笠　岡 | 宮城まり子 | | 西田　譲（一宮） | 古川　正治（加茂小）<br>岡島　将（興除中） |
| 1988 | 63 | 25号 | (26) 札　幌 | | (34) 備　前 | 矢口　高雄 | | 杉山　定雄（一宮） | 田代　尚夫（平島小）<br>岡島　将（興除中） |
| 1989 | 平成元 | 26号 | | (16) 宇　部 | (35) 岡　山 | 河合　雅雄 | 40周年 | 幾田　尚（西大寺） | 長安早智子（芳泉小）<br>岡島　将（操南中） |
| 1990 | 2 | 27号 | (27) 松　江 | | (36) 新　見 | 柴田　一 | | 幾田　尚（西大寺） | 森谷　浩平（野谷小）<br>岡島　将（操南中） |
| 1991 | 3 | 28号 | | (17) 広　島 | (37) 勝　田 | 岩崎　京子 | 第11回学校司書全国研究集会（於 岡山） | 坪井　克己（西大寺） | 森谷　浩平（野谷小）<br>岡島　将（操南中） |
| 1992 | 4 | 29号 | (28) 福　岡 | | (38) 倉　敷 | 福田襄之介 | | 皆木　徹典（和気閑谷） | 森谷　浩平（野谷小）<br>大月　要（丸之内中） |
| 1993 | 5 | 30号 | | (18) 益　田 | (39) 御　津 | 宮地　暢夫 | | 皆木　徹典（和気閑谷） | 長崎　幡子（加茂小）<br>平田嬉世子（中山中） |
| 1994 | 6 | 31号 | (29) 秋　田 | | (40) 川　上 | 富永　一朗 | | 中野　宏（倉敷古城池） | 瀬戸川　宏（宇野小）<br>白神　幸世（京山中） |
| 1995 | 7 | 32号 | | (19) 鳥　取 | | | | 中野　宏（倉敷古城池） | 瀬戸川　宏（宇野小）<br>赤木　久児（藤田中） |
| 1996 | 8 | 33号 | (30) 埼　玉 | | (41) 英　田 | あさのあつこ | | 中野　宏（倉敷古城池） | 亀高　嘉彦（深柢小）<br>赤木　久児（藤田中） |
| 1997 | 9 | 34号 | | (20) 岡　山 | (42) 総社，真備（兼中国） | 阿刀田　高 | | 大山　晉右（倉敷古城池） | 亀高　嘉彦（深柢小）<br>赤木　久児（藤田中） |
| 1998 | 10 | 35号 | (31) 金　沢 | | | | | 鴨頭　脩（倉敷青陵） | 菱川　成雄（高島小）<br>香川　璋子（高松中） |
| 1999 | 11 | 36号 | | (21) 岩　国 | (43) 岡　山 | 塩見　昇 | 50周年 | 鴨頭　脩（倉敷青陵） | 菱川　成雄（高島小）<br>香川　璋子（高松中） |
| 2000 | 12 | 37号 | (32) 奈　良 | | (44) 新見・阿哲 | 灰谷健次郎 | | 川井章三郎（倉敷南） | 菱川　成雄（城東台小）<br>香川　璋子（高松中） |
| 2001 | 13 | 38号 | | (22) 広　島 | | | | 山根　健（倉敷南） | 菱川　成雄（城東台小）<br>綿谷　佳男（灘崎中） |
| 2002 | 14 | 39号 | (33) 横　浜 | | (45) 津　山 | 後藤　竜二 | | 大嶋　俊宣（倉敷天城） | 料治　育子（伊島小）<br>綿谷　佳男（灘崎中） |
| 2003 | 15 | 40号 | | (23) 出　雲 | | | | 大嶋　俊宣（倉敷天城） | 料治　育子（伊島小）<br>綿谷　佳男（福南中） |
| 2004 | 16 | 41号 | (34) びわこ・くさつ | | (46) 井原，後月 | 佐々木正美 | | 高槻　健（倉敷古城池） | 坪井由紀子（政田小）<br>綿谷　佳男（福南中） |
| 2005 | 17 | 42号 | | (24) 倉　吉 | | | | 高槻　健（倉敷古城池） | 坪井由紀子（政田小）<br>綿谷　佳男（福南中） |

| 県教委担当者 | 事務局長 | 事務局次長 | 小 教 研 | 中教研 | 高教研 | 県司書大会 | 県司書部会長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国塩 輝昭 | 山吹 堯敏 | 萩原 一之 | 赤木 庚<br>山名 徳則 | 森安 萌<br>相谷 道男 | 村井 董直<br>岡 博 | (9) 岡 山 | 片山 峰子 |
| 国塩 輝昭 | 山吹 堯敏 | 柴岡 元 | 新井 正志<br>三宅 敏文 | 森安 萌<br>相谷 道男 | 村井 董直<br>岡 博 | (10) 玉 野 | 片山 峰子 |
| 国塩 輝昭 | 山吹 堯敏 | 柴岡 元 | 石井 汎<br>福間トキコ | 森安 萌<br>相谷 道男 | 宮脇 律<br>岡 博 | (11) 倉 敷 | 片山 峰子 |
| 国塩 輝昭 | 山吹 堯敏 | 萩原 一之 | 石井 汎<br>福間トキコ | 森安 萌<br>相谷 道男 | 宮脇 律<br>大熊 圭祐 | (12) 津 山 | 片山 峰子 |
| 国塩 輝昭 | 萩原 一之 | 臼井 省三 | 野上 賢二<br>横山 定子 | 森安 萌<br>瀬戸川 宏 | 宮脇 律<br>大熊 圭祐 | (13) 岡 山 | 守屋千冬子 |
| 国塩 輝昭 | 萩原 一之 | 臼井 省三 | 野上 賢二<br>横山 定子 | 森安 萌<br>瀬戸川 宏 | 宮脇 律<br>大熊 圭祐 | (14) 玉 野 | 守屋千冬子 |
| 国塩 輝昭 | 萩原 一之 | 臼井 省三 | 渡辺 武士<br>福間トキコ | 森安 萌<br>瀬戸川 宏 | 宮脇 律<br>山吹 堯敏 | (15) 倉 敷 | 守屋千冬子 |
| 国塩 輝昭 | 萩原 一之 | 山吹 堯敏 | 渡辺 武士<br>福間トキコ | 黒住 郁雄<br>瀬戸川 宏 | 槇野 昭輝<br>山吹 堯敏 | (16) 津 山 | 守屋千冬子 |
| 岸田 崇 | 萩原 一之 | 佐伯 誠一 | 森川 鐵也<br>福間トキコ | 村田 重臣<br>白河左江子 | 西田 譲<br>服部 亮介 | (17) 岡 山 | 安達 正恵 |
| 岸田 崇 | 松本 正志 | 藤本 善三 | 古川 正治<br>岡本 敏枝 | 岡島 将<br>白河左江子 | 西田 譲<br>服部 亮介 | (18) 玉 野 | 安達 正恵 |
| 岸田 崇 | 松本 正志 | 竹井 千庫 | 田代 尚夫<br>岡本 敏枝 | 岡島 将<br>白河左江子 | 杉山 定雄<br>服部 亮介 | (19) 倉 敷 | 青江 暉子 |
| 広本 勝裕 | 門野 茂蔵 | 田中 修二 | 長安早智子<br>藤田 真実 | 岡島 将<br>白河左江子 | 幾田 尚<br>川原 昇 | (20) 津 山 | 青江 暉子 |
| 広本 勝裕 | 波多野研爾 | 田中 修二 | 森谷 浩平<br>藤田 真実 | 岡島 将<br>白河左江子 | 幾田 尚<br>川原 昇 | (21) 岡 山 | 青江 暉子 |
| 広本 勝裕 | 田中 修二 | 石井 寛子 | 森谷 浩平<br>松浦 順子 | 岡島 将<br>坪井 敬也 | 坪井 克己<br>八木 和一 | (22) 玉 野 | 青江 暉子 |
| 広本 勝裕 | 小山 輝基 | 阪田 俊介 | 森谷 浩平<br>岡崎 明宏 | 大月 要<br>坪井 敬也 | 皆木 徹典<br>若狭 真司 | (23) 倉 敷 | 青江 暉子 |
| 広本 勝裕 | 小山 輝基 | 後藤 信介 | 長崎 幡子<br>島田 保弘 | 平田嬉世子<br>岡田 敏雄 | 皆木 徹典<br>若狭 真司 | (24) 津 山 | 青江 暉子 |
| 広本 勝裕 | 国富 浩二 | 畝岡 睦美 | 瀬戸川 宏<br>石川真佐代 | 白神 幸昌<br>岡田 敏雄<br>門田 正充 | 中野 宏<br>佐守 謙一 | (25) 岡 山 | 守屋千冬子 |
| 広本 勝裕 | 田辺 宏海 | 国富 浩二 | 瀬戸川 宏<br>石川真佐代 | 赤木 久児<br>門田 正充 | 中野 宏<br>佐守 謙一 | (26) 玉 野 | 守屋千冬子 |
| 藤井 洋一 | 田辺 宏海 | 福尾浩一郎 | 亀高 嘉彦<br>石川真佐代 | 赤木 久児<br>門田 正充<br>利守 雅行 | 中野 宏<br>佐守 謙一 | (27) 倉 敷 | 佐藤 菊江 |
| 藤井 洋一 | 田辺 宏海 | 福尾浩一郎 | 亀高 嘉彦<br>石川真佐代 | 赤木 久児<br>門田 正充<br>利守 雅行 | 大山 晉右<br>佐守 謙一 | (28) 津 山 | 佐藤 菊江 |
| 桑木 一郎 | 小山 秀樹 | 三棹 章弘 | 菱川 成雄<br>宮田あけみ | 香川 璋子<br>原 清行 | 鴨頭 脩<br>森本 篤 | (29) 岡 山 | 小野 暁子 |
| 桑木 一郎 | 小山 秀樹 | 三棹 章弘 | 菱川 成雄<br>宮田あけみ | 香川 璋子<br>原 清行 | 鴨頭 脩<br>森本 篤 | (30) 玉 野 | 小野 暁子 |
| 桑木 一郎 | 石井 美鶴 | 樋口 貴子 | 菱川 成雄<br>宮田あけみ | 香川 璋子<br>利守 雅行<br>原 清行 | 川井 章三郎<br>尾崎 寛子 | (31) 倉 敷 | 小野 暁子<br>鹿野 恵子 |
| 大滝 一登 | 石井 美鶴 | 樋口 貴子 | 菱川 成雄<br>宮田あけみ | 綿谷 佳男<br>利守 雅行<br>原 清行 | 山根 健<br>細川 直子 | (32) 津 山 | 鹿野 恵子 |
| 大滝 一登 | 有松 幹雄 | 行藤 潔 | 料治 育子<br>原野かおり | 綿谷 佳男<br>利守 雅行<br>海野 行晴 | 大嶋 俊宣<br>三宅 博己 | (33) 岡 山 | 鹿野 恵子<br>岡本信二郎 |
| 大滝 一登 | 三宅 博己 | 深見 啓行 | 料治 育子<br>高橋かおり | 綿谷 佳男<br>海野 行晴<br>利守 雅行 | 大嶋 俊宣<br>深見 啓行 | (34) 玉 野 | 岡本信二郎 |
| 大滝 一登 | 山内 邦世 | (な し) | 坪井由紀子<br>大亀 光子 | 綿谷 佳男<br>利守 雅行<br>有友 雅人 | 高槻 健<br>有本登貴子 | (35) 倉 敷 | 岡本信二郎<br>宇原 郁世 |
| 大滝 一登 | 山内 邦世 | (な し) | 坪井由紀子<br>大亀 光子 | 綿谷 佳男<br>利守 雅行<br>有友 雅人 | 高槻 健<br>有本登貴子 | 研修会（倉敷） | 宇原 郁世 |

| 西暦 | 年号 | 研究集録 | 全国大会 | 中国大会 | 県 大 会 | 県大会講師 | 主要行事など | 会　長 | 副　会　長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2006 | 18 | 43号 | (35) 郡　山 | | | | | 山下　滋<br>(倉敷青陵) | 岡本　利和 (御南中)<br>竹内　裕子 (可知小) |
| 2007 | 19 | 44号 | | (25) 岡　山 | (47) 岡　山 | 高畑　勲 | | 永井　裕<br>(倉敷青陵) | 河本　雅明 (建部中)<br>竹内　裕子 (可知小) |
| 2008 | 20 | 45号 | (36) 熊　本 | | | | | 髙木二三男<br>(倉敷南) | 木多　敏江 (御津中)<br>東馬　英子 (中山小) |
| 2009 | 21 | 46号 | | (26) 下　関 | (48) 鏡　野 | 今江　祥智 | | 赤木　圭介<br>(倉敷南) | 木多　敏江 (御津中)<br>東馬　英子 (中山小) |
| 2010 | 22 | 47号 | (37) 静　岡 | | | | | 坂江　誠<br>(倉敷天城) | 山本　健五 (御津中)<br>岸　律子 (御南小) |
| 2011 | 23 | 48号 | | (27) 広　島 | (49) 矢　掛 | 赤木かん子 | | 岡野　貴司<br>(倉敷天城) | 山本　健五 (御津中)<br>岸　律子 (御南小) |
| 2012 | 24 | 49号 | (38) 米　子 | | | | | 中桐　哲則<br>(玉島) | 山本　健五 (御津中)<br>服部由利子 (古都小) |
| 2013 | 25 | 50号 | | (28) 浜　田 | (50)吉備中央 | 田澤　雄作 | | 國府島貞司<br>(玉島) | 大川　泰栄 (上道中)<br>服部由利子 (東疇小) |
| 2014 | 26 | 51号 | (39) 甲　府 | | | | | 藤井　健平<br>(総社) | 大塚　仁 (甲浦小)<br>藤井　隆 (上道中) |
| 2015 | 27 | 52号 | | (29) 倉　敷 | (51) 倉　敷 | 小嶋　光信 | | 藤井　健平<br>(総社) | 大塚　仁 (甲浦小)<br>藤井　隆 (上道中) |
| 2016 | 28 | 53号 | (40)神　戸 | | | | | 福田　邦男<br>(倉敷古城池) | 高田　恵子<br>(馬屋下小)<br>門田　正充 (岡輝中) |
| 2017 | 29 | 54号 | | (30)米子 | (52)津山 | 平田オリザ | | 福田　邦男<br>(倉敷古城池) | 高田　恵子<br>(馬屋下小)<br>門田　正充 (岡輝中) |
| 2018 | 30 | 55号 | (41)富山高岡 | | | | | 土家　槇夫<br>(倉敷青陵) | 山本　義人 (千種小)<br>藤井　隆 (高松中) |

| 県教委担当者 | 事務局長 | 事務局次長 | 小 教 研 | 中 教 研 | 高 教 研 | 県司書大会 | 県司書部会長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大滝 一登<br>高尾 敏也 | 石本 正樹 | (なし) | 竹内 裕子<br>有松 裕子 | 岡本 利和<br>利守 雅行<br>有友 雅人 | 山下 滋<br>井上 裕子 | (36) 岡 山 | 景山 美香<br>坂口 桂蔵 |
| 高尾 敏也 | 石本 正樹 | (なし) | 竹内 裕子<br>有松 裕子 | 河本 雅明<br>利守 雅行<br>有友 雅人 | 永井 裕<br>井上 裕子 | 研修会（津山） | 坂口 桂蔵 |
| 高尾 敏也<br>武田 祥江 | 志部 雄介 | (なし) | 東馬 英子<br>丸橋 弘子 | 木多 敏江<br>有友 雅人<br>利守 雅行 | 髙木 二三男<br>藤田 京子 | (37) 倉 敷 | 坂口 桂蔵<br>池田 桂子 |
| 武田 祥江<br>田中 善美 | 永山 整 | (なし) | 東馬 英子<br>丸橋 弘子 | 木多 敏江<br>有友 雅人<br>利守 雅行 | 赤木 圭介<br>藤田 京子 | 研修会（玉野） | 池田 桂子 |
| 武田 祥江<br>田中 善美 | 佐藤 敦子 | (なし) | 岸 律子<br>安藤 弘子 | 山本 健五<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 坂江 誠<br>小野 恭子 | (38) 岡 山 | 池田 桂子<br>二部野陽子 |
| 乙倉 寛<br>藤本真砂子 | 佐藤 敦子 | (なし) | 岸 律子<br>安藤 弘子 | 山本 健五<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 岡野 貴司<br>小野 恭子 | 研修会（岡山） | 二部野陽子 |
| 乙倉 寛<br>石本康一郎 | 佐藤 俊英 | (なし) | 服部由利子<br>二宮 典子 | 山本 健五<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 中桐 哲則<br>尾﨑 寛子 | (39) 倉 敷 | 二部野陽子<br>米倉 弥生 |
| 乙倉 寛<br>藤本真砂子 | 佐藤 俊英 | (なし) | 服部由利子<br>二宮 典子 | 大川 泰栄<br>宗實恵利子<br>利守 雅行 | 國府島 貞司<br>尾﨑 寛子 | 研修会（津山） | 米倉 弥生 |
| 辻田 詔子<br>須藤由美江 | 大野 里江子 | (なし) | 大塚 仁<br>中村さつき<br>小川 薫 | 藤井 隆<br>岡田恵利子<br>利守 雅行 | 藤井 健平<br>柳井 典子 | (40) 岡 山 | 米倉 弥生<br>原 弘江 |
| 森川 悟<br>新田 治彦 | 大野 里江子 | (なし) | 大塚 仁<br>中村さつき<br>小川 薫 | 藤井 隆<br>永守 志帆<br>金田 益美 | 藤井 健平<br>柳井 典子 | 研修会（玉野） | 原 弘江 |
| 岡本 里香<br>三宅 健夫 | 末吉 美加子 | (なし) | 高田 恵子<br>山根 和佳子<br>勝浦 由子 | 門田 正充<br>永守 志帆<br>金田 益美 | 福田 邦男<br>児島 真理子 | (41) 倉 敷 | 原 弘江<br>西村 百代 |
| 岡本 里香<br>江尻 寛正 | 末吉 美加子 | (なし) | 高田 恵子<br>山根 和佳子<br>勝浦 由子 | 門田 正充<br>仁科 恵子<br>佐伯 詩帆 | 福田 邦男<br>太田 淳 | 研修会（倉敷） | 西村 百代 |
| 岡本 里香<br>江尻 寛正 | 王尾 宏造 | (なし) | 山本 義人<br>太田 淑子<br>酒本 薫 | 藤井 隆<br>仁科 恵子<br>佐伯 詩帆 | 土家 槙夫<br>大口 千恵子 | (42) 岡 山 | 西村 百代<br>成本 由貴 |

**岡山県学校図書館研究集録（第 55 号）**

発　行　日　　2019 年 3 月 31 日

発　行　所　　岡山県学校図書館協議会事務局
〒710-0043
岡山県倉敷市羽島 1046-2
岡山県立倉敷青陵高等学校内
TEL　(086)422 – 8001

発行責任者　　土家　槇夫
岡山県学校図書館協議会会長